



IBM System x

**IBM System Updates for
Microsoft System Center Configuration Manager
ユーザーズ・ガイド**

バージョン 5.0





IBM System x

**IBM System Updates for
Microsoft System Center Configuration Manager
ユーザーズ・ガイド**

バージョン 5.0

— お願い —

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、131 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

Edition notice

This edition applies to version IBM System Updates for Microsoft System Center Configuration Manager v5.0 and to all subsequent releases and modifications until otherwise indicated in new editions.

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： IBM System x
IBM System Updates for
Microsoft System Center Configuration Manager
User's Guide
Version 5.0

発行： 日本アイ・ピー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

第1刷 2014.3

© Copyright IBM Corporation 2014.

目次

図	v
---	---

表	vii
---	-----

本書について	ix
--------	----

規則および用語	ix
---------	----

情報リソース	xi
--------	----

PDF ファイル	xi
----------	----

World Wide Web リソース	xii
---------------------	-----

第 1 章 IBM System Updates for Microsoft System Center Configuration Manager v5.0

バージョン 5.0 の新機能	1
試用ライセンスのサポート	1
フリー (無料) フィーチャー	2
プレミアム・フィーチャー	2
IBM System Updates for Microsoft System Center Configuration Manager v5.0 による IBM システム のサポート方法	3
IBM System Enablement Pack	3
ハードウェアおよびソフトウェア要件	4
ハードウェア要件	4
サポートされるオペレーティング・システム	4
必要なソフトウェア	4

第 2 章 IBM System Updates のインス トール

IBM System Updates ツールのインストール	5
IBM System Updates ツールのアンインストール	13

第 3 章 IBM System Updates および System Center Configuration Manager 2007 の操作

IBM System Updates Acquisition and Publishing ツー ル バージョン 5.0	15
「Home」ビューの使用	15
「セットアップ (Setup)」ウィザード	17
Windows Server Update Services サーバーの 構成	17
Windows Server Updates Services サーバー 証明書の構成	21
証明書の追加	22
アウトバウンド接続の構成	25
ローカル・リポジトリの構成	27
マシン・タイプの表示	30
UXSPi のアップグレード	31
「All Updates」ビューの使用	33
ローカル更新の再ロード	35

ローカル・ディレクトリーからの更新のインポ ート	35
「インポート」ウィザードを使用した更新 のインポート	36
IBM Web サイトからのすべての更新の検査	40
IBM Web サイトからの選択した更新のダウン ロード	42
「ダウンロード (Download)」ウィザードの 使用	43
選択した更新のダウンロードおよびそれらの更 新の Windows Server Update Services サーバ ーへの公開	44
Download and Publish Wizard の使用	44
選択した更新を Windows Server Update Services サーバーに公開	49
「公開 (Publish)」ウィザードの使用	50
更新シーケンスの作成	51
Windows Server Update Services 更新の検査	53
Windows Server Update Services からのすべ ての更新の検査	53
Windows Server Update Services からの選択 した更新の検査	54
Windows Server Update Services からの選択し た更新を期限切れにする	55
Windows Server Update Services からの選択し た更新を期限切れにする (ライセンスなし)	56
選択した更新の削除	61
「マイ・マシン」ビューを使用したマシン・タイ プの追加および削除	61
更新の比較レポートを生成	64
更新デプロイメント結果のジャーナルの表示	66
「更新デプロイメント結果のジャーナルの表示 (View journal of updates deployment result)」の 使用	67
更新対応のためのクライアントのスキャン	69
Microsoft System Center Configuration Manager (SCCM) 2007	69
Microsoft System Center Configuration Manager での IBM 更新の展開	73
IBM 更新の展開の前提条件	73
SCCM サーバーから SCCM クライアントへの IBM System Enablement Pack のデプロイ	76
SCCM サーバーから SCCM クライアントへの IBM UXSPi のデプロイ	83
SCCM サーバーから SCCM クライアントへの IBM UXSPi のデプロイ (既存の UXSPi がデ プロイされていない場合)	83
SCCM サーバーから SCCM クライアントへの IBM UXSPi のデプロイ (旧バージョンの UXSPi がデプロイされている場合)	84

新しいバージョンの IBM UXSPi にアップ グレードする場合の UXSPi の展開方法 1	84
新しいバージョンの IBM UXSPi にアップ グレードする場合の UXSPi のデプロイ方法 2	86
新しいバージョンの IBM UXSPi にアップ グレードする場合の UXSPi の展開方法 3	86

第 4 章 Microsoft System Center

Configuration Manager 2012 の操作 . . . 91

ソフトウェア更新の同期	91
パブリッシュされた更新の表示	92
System Center Configuration Manager での IBM 更新 のデプロイ	94
IBM 更新デプロイメント前提条件の確認	95
SCCM でシステム更新ポイント役割を追加	96
クライアント・マシンの構成	97
SCCM サーバーから SCCM クライアントへの IBM SEP のデプロイ	99
SCCM サーバーから SCCM クライアントへの IBM UXSPi のデプロイ	105
SCCM サーバーから SCCM クライアントへの IBM UXSPi のデプロイ (旧 UXSPi バージョン がデプロイされていなかった場合)	105
SCCM サーバーから SCCM クライアントへの IBM UXSPi のデプロイ (旧 UXSPi がデプロイ されている場合)	105
方法 1: SCCM サーバーから SCCM クライ アントに IBM UXSPi パッケージをデプロイ する	106
方法 2: 古い UXSPi パッケージと共存するよ うに新規 IBM UXSPi パッケージをデプロイ する	107
方法 3: 新規 IBM UXSPi パッケージを既存 の UXSPi デプロイメント・パッケージに追 加する	109
SCCM サーバーから SCCM クライアントへの IBM 更新の展開	111

第 5 章 サポートされるハードウェアお

よびソフトウェア . . . 113

サポートされる Microsoft System Center 製品	113
サポートされるクライアント・システム	113
クライアント・マシンでサポートされるオペレー ティング・システム	115
サーバー・マシンで必要なソフトウェア	115

クライアント・マシンで必要なソフトウェア	115
----------------------	-----

付録 A. トラブルシューティング . . . 117

SUAP ログの構成方法	117
IBM Web サイトからの更新のダウンロードに失敗 する	117
IBM System Updates Acquisition and Publishing ツ ールから Windows Server Update Services に更新を パブリッシュできない	118
ファイル署名の検証が失敗するエラーが原因で、 IBM System Updates Acquisition and Publishing ツ ールから Windows Server Update Services に更新を パブリッシュできない	119
Secure Sockets Layer 接続障害のために更新が失敗 する	120
IBM System Updates Acquisition and Publishing ツ ールの実行中に、レジストリー内のログ・レベル値 の変更が有効にならない	121
更新が Microsoft System Center Configuration Manager サーバーから Microsoft System Center Configuration Manager クライアントにデプロイされ ない	121
ファイアウォールの制限のために Microsoft System Center Configuration Manager クライアントに更新が デプロイされない	122
更新がクライアント・マシンにインストールされな い	122
QLogic に関する更新がデフォルトでインストール できない	124
一部の更新のインストールを完了するためにクライ アント・サーバーを再始動する必要がある	125
Windows Updates 通知の Microsoft System Center Configuration Manager クライアントへの表示が遅い	125
IBM 更新を SCCM クライアントにインストールで きない	126
IBM System Updates Acquisition and Publishing ツ ールからの更新を有効期限切れにすることができな い	127
シーケンス・パッケージがクライアント・システム にインストールされない	127

付録 B. アクセシビリティ機能 . . . 129

特記事項 . . . 131

商標	132
重要事項	132



1. WSUS 3.0 sp1 以降がインストールされていないことを示すメッセージ	6	40. 「Publish Wizard」のウェルカム・ページ	50
2. IBM System Updates のインストールの準備中	6	41. シーケンス・パッケージの作成	51
3. IBM System Updates の「InstallShield Wizard」ウェルカム・ページ	7	42. 保存されたシーケンス・パッケージのある更新リスト	52
4. ソフトウェアの使用許諾契約書	8	43. シーケンス更新の「General」タブ	52
5. 「試用バージョン」ページ	9	44. 「Individual Updates」タブ	53
6. 宛先フォルダー	9	45. WSUS からの選択した更新の検査	54
7. プログラムをインストールする準備完了	10	46. WSUS サーバー上の更新を有効期限切れにする	55
8. インストールの進行状況	11	47. 有効期限切れになった更新の詳細ビュー	56
9. インストール・ファイルの抽出	11	48. 期限切れウィザードのご使用条件 (Expire Wizard License Agreement)	57
10. 「InstallShield Wizard Completed」ページ	12	49. 「Expire Wizard」のウェルカム・ページ	58
11. 「Home」ビュー	16	50. 期限切れウィザードの更新パッケージの確認 (Expire Wizard Confirm update packages)	59
12. WSUS サーバーの「System Updates Setup Wizard」	17	51. 期限切れ操作の完了	60
13. ソフトウェアの更新ポイントのコンポーネント・プロパティ (SCCM 2007).	19	52. 期限切れ操作結果	61
14. ソフトウェアの更新ポイントのコンポーネント・プロパティ (SCCM 2012).	20	53. 「My Machines」ビュー	62
15. WSUS サーバー証明書	21	54. 新規マシン・タイプの追加	63
16. コンソール 1 - WSUS 証明書	23	55. 「Generate Updates Report Wizard」のウェルカム・ページ	64
17. アウトバウンド接続	26	56. 更新の比較レポートを生成	65
18. HTTP プロキシ	27	57. 更新の比較レポートの生成が終了しました	66
19. ローカル・リポジトリ	28	58. 「View journal of updates deployment」のログイン・ページ	67
20. セットアップの確認	29	59. 更新デプロイメントの結果のジャーナルを表示	68
21. セットアップが終了しました	30	60. 更新リポジトリの同期	70
22. 「UXSPI をアップグレードして最新のマシンを検査」リスト	32	61. IBM フォルダの最新表示	71
23. UXSPI ツールのアップグレードの進行状況を示すウィンドウ	33	62. パブリッシュされた更新の表示	72
24. 更新がないことを示す「All Updates」ビューの例	34	63. コンポーネントの状況	74
25. System x3100 M4 の更新の「すべての更新」ビューの例	34	64. システム更新サービス・ポイントの構成	74
26. 「Import Wizard」のウェルカム・ページ	36	65. ローカル・コンピューター・ポリシーの構成	75
27. 更新ソースの選択	37	66. イン트라ネットの Microsoft 更新サービスの保存場所にある署名済み更新を許可する	76
28. 更新の選択	38	67. ソフトウェア更新の展開	77
29. 「Importing Updates」ページ	39	68. ソフトウェアの更新の展開ウィザード - 全般	78
30. インポートが完了しました	39	69. 「ソフトウェアの更新の展開ウィザード」のテンプレート	79
31. IBM Web サイトからすべての更新を検査	41	70. 展開パッケージ	80
32. 「General」タブの詳細情報が表示された更新ビュー	41	71. ダウンロード場所	81
33. 「適用可能なプラットフォーム」タブの「更新」ビュー	42	72. 展開スケジュール	82
34. 更新のダウンロード中	43	73. SCCM クライアントへの UXSPI の展開	83
35. 「Publish Wizard」の「License Agreement」ページ	45	74. 古い UXSPI 提供情報の削除	85
36. 更新のダウンロード中	46	75. UXSPI ソフトウェア・パッケージの展開	85
37. 更新パッケージの確認	47	76. 新規パッケージと古いパッケージが共存する場合のソフトウェア更新の展開	86
38. 「Publishing Updates」ページ	48	77. 既存 UXSPI デプロイメント・パッケージの選択	87
39. 「Publish operation is complete」ページ	49	78. ソフトウェアの更新 - 全般	88
		79. UXSPI 展開テンプレートの選択	89
		80. 既存 UXSPI デプロイメント・パッケージの選択	90

81. 更新リポジトリの同期	91	95. UXSPi ソフトウェア・パッケージの展開	108
82. 更新の最新表示	92	96. 既存の UXSPi 展開パッケージの選択	109
83. パブリッシュされた更新の表示	93	97. テンプレートを使用したソフトウェア更新	110
84. コンポーネントの状況	95	98. 「要約 (Summary)」ページ	111
85. サイト・システムとして使用するサーバーの選 択	97	99. SCCM サーバーから SCCM クライアントへ の IBM 更新のデプロイ	112
86. ローカル・コンピューター・ポリシーの構成	98	100. IBM 更新リポジトリに接続できないエラー	118
87. イン트라ネットの Microsoft 更新サービスの保 存場所にある署名済み更新を許可	99	101. ファイル署名の検証の失敗	119
88. ソフトウェア更新の展開	100	102. WSUS サーバーへの接続が失敗したことを示 すメッセージ	120
89. ソフトウェアの更新の展開ウィザード - 全般	101	103. トレース・レジストリー・キーの変更	122
90. 「展開パッケージ (Deployment package)」ペー ジ	102	104. クライアント・システム上の更新履歴の表示	123
91. 「配布ポイント」ページ	103	105. 「Publish Wizard」の「Confirm Updates Packages」ページ	124
92. 「ソフトウェアの更新の展開ウィザード」の 要約	104	106. 「コントロール パネル」内の SCCM エー ジェント	125
93. 古い UXSPi 提供情報の削除	106	107. 「Configuration Manager のプロパティ」の開 始	126
94. UXSPi ソフトウェア・パッケージの展開	107		

表

1. 頻繁に使用される用語と頭字語 ix	3. エラー・コード 123
2. サポートされるシステム 113	

本書について

このユーザーズ・ガイドは、IBM® System Updates for Microsoft System Center Configuration Manager の最新情報を提供します。IBM System Updates ツールは、ご使用の環境の IBM システム更新を入手および公開するために使用します。

規則および用語

太字の「注」、「重要」、または「注意」で始まっているパラグラフは、重要な情報を強調する特定の意味を持つ注意書きです。

注: これらの特記事項は重要なヒント、ガイダンス、またはアドバイスを提供します。

重要: これらの特記事項は、不都合なまたは困難な状態を避けるために役立つ情報またはアドバイスを提供します。

重要: これらの特記事項では、プログラム、デバイス、またはデータへの考えられる損傷を示します。損傷が起こりうる指示または状態の前には警告通知が表示されます。

下の表に、本書で使用されている一部の用語、頭字語、および省略語についての説明があります。

表 1. 頻繁に使用される用語と頭字語

用語/頭字語	定義
DSA	IBM Dynamic System Analysis
SCCM	Microsoft System Center Configuration Manager
SEP	IBM System Enablement Pack
SSL	Secure Sockets Layer
SUAP	IBM System Updates Acquisition and Publishing
UXSP	UpdateXpress System Packs
UXSPi	UpdateXpress System Pack Installer
WSUS	Windows Server Update Services

情報リソース

IBM System Updates for Microsoft System Center Configuration Manager v5.0 に関する追加情報は、製品資料および WWW 上で入手することができます。

PDF ファイル

PDF 形式で提供されている資料を表示および印刷します。

Adobe Acrobat Reader のダウンロード

PDF ファイルを表示または印刷するには、Adobe Acrobat Reader が必要です。コピーを Adobe Reader Web サイトからダウンロードすることができます。

PDF ファイルの表示と印刷

以下のリストにある PDF ファイルは、すべて表示または印刷が可能です。 IBM System x Integration Offerings for Microsoft Systems Management Solutions にアクセスしてサインインし、資料のダウンロード・リンクを見つけます。各資料の最新版は、製品のダウンロード・ページで入手可能です。

- *IBM System Updates for Microsoft System Center Configuration Manager v5.0* リリース情報
- *IBM System Updates for Microsoft System Center Configuration Manager v5.0* ユーザーズ・ガイド

PDF ファイルの保存

PDF ファイルを保存するには、以下のステップを実行します。

1. ご使用のブラウザで、PDF へのリンクを右クリックします。
2. 以下のいずれかのタスクを実行します。

Web ブラウザー	コマンド
Internet Explorer の場合	「名前を付けて保存」をクリックします。
Netscape Navigator または Mozilla の場合	「リンク ターゲットに名前を付けて保存」をクリックします。

3. PDF ファイルを保存したいディレクトリに移動します。
4. 「保存」をクリックします。

World Wide Web リソース

以下の Web ページでは、IBMSystem x、BladeCenter® サーバー、およびシステム管理ツールの理解、使用、およびトラブルシューティングに役立つリソースが提供されています。

Microsoft Systems Management Solutions for IBM Servers の IBM Web サイト

IBM System x Integration Offerings for Microsoft Systems Management Solutions

IBM System Updates for Microsoft System Center Configuration Manager v5.0 用の最新のダウンロードを見つけます。

IBM Systems テクニカル・サポート・サイト

IBM Systems のサポート.

IBM ハードウェアおよびシステム管理ソフトウェアのサポートを見つけます。

IBM システム管理ソフトウェア: ダウンロード・ソフトウェア登録

IBM Systems Director: Downloads

IBM Systems Director などの IBM システム管理ソフトウェアをダウンロードします。

IBM System x システム管理ページ

IBM systems management solutions for System x

IBM Director エージェントおよび IBM Director コア・サービス を使用した IBM システム管理の概要を提供します。

IBM ServerProven® ページ

IBM ServerProven Compatibility for hardware, applications, and middleware

IBM ServerProven Compatibility for BladeCenter products

IBM System x、IBM BladeCenter、および IBM IntelliStation® ハードウェアとのハードウェア互換性に関する情報を入手します。

Microsoft System Center Configuration Manager ページ

System Center Technical Resources

第 1 章 IBM System Updates for Microsoft System Center Configuration Manager v5.0

このセクションのトピックでは、IBM System Updates for Microsoft System Center Configuration Manager v5.0 および製品フィーチャーの概要について説明します。

コンピューターの BIOS、ファームウェア、ドライバー、およびハードウェア関連のアプリケーションを最新の状態に保持することは、IT 管理者の重要なアクティビティです。IT 管理者にとって、環境を安定した信頼できる状態で保持するために、準拠性の判別、更新の計画、適切なハードウェア更新の選択、正しいシステム集合への更新の展開を行うことは、複雑で時間がかかることです。

Microsoft System Center 製品の Microsoft System Center Configuration Manager(SCCM) および Windows Server Update Services (WSUS) との連携を通じて、IBM System Updates for Microsoft System Center Configuration Manager v5.0 は確実に、最新の IT 環境を保持するための時間と労力を節減します。

バージョン 5.0 の新機能

IBM System Updates for Microsoft System Center Configuration Manager v5.0 では、以下の新規サポートが提供されます。

- Microsoft System Center Configuration Manager 2012 R2
- Microsoft Windows 2012 R2

試用ライセンスのサポート

この製品の初回インストール時に製品ライセンスがアクティブ化されていない場合は、試用ライセンスが自動的にアクティブになります。試用ライセンスをアクティブにするためには、事前にご使用のシステム時刻が正しいことを確認してください。試用期間は、試用ライセンスがアクティブ化してから 90 日間です。試用期間中は、プレミアム・フィーチャーが使用できます。

試用期間の最後の 5 日間には、試用ライセンス・ソフトウェアによって、試用ライセンスの有効期限が切れることを示す通知が表示されます。この通知は 24 時間ごとに表示されます。試用ライセンスの有効期限が切れた後で、プレミアム・フィーチャーを維持するには、製品ライセンスをアクティブ化する必要があります。製品ライセンスをアクティブ化した後、手動でコンポーネントを再始動して、プレミアム・フィーチャーを有効にしてください。

フリー (無料) フィーチャー

このリリースは、バージョン 3.0 のフリー・フィーチャーおよび機能をすべて備えており、以下の新規および改良されたフリー・フィーチャーおよび機能拡張も組み込まれています。

新しいフィーチャーを使用して以下を行うことができます。

- ローカル更新を Windows Server Update Services に公開する。
- Windows Server Update Services サーバー上で公開された更新を期限切れにする。
- IBM Web サイトから最新の更新をダウンロードする。
- デフォルトではインストールされない、特殊なハードウェアまたは未検出のハードウェアに対する更新を強制インストールする。これには、Brocade、Emulex、および QLogic の HBA と CNA が含まれます。
- 詳細ビューで参照可能になった前提条件および被前提条件の更新情報を表示する。

機能拡張には以下が含まれます。

- バージョン 3.1 で導入された新機能を含む、更新されたユーザー・インターフェース。
- OS に依存しないファームウェア更新をダウンロード、公開、およびデプロイするための、新しい更新ファイル・フォーマット .uxz のフル・サポート。このような更新のフォーマットは、従来の実行可能ファイル (EXE) ではありません。UXZ ファイルを使用してこれらの処理が行われます。

プレミアム・フィーチャー

IBM System Updates インストール済み環境が IBM Upward Integration for Microsoft System Center v3.1 以降に登録されている場合、プレミアム・フィーチャーが使用可能です。アクティベーション・ライセンスの購入については、IBM 担当員または IBM ビジネス・パートナーにお問い合わせください。

90 日間の試用ライセンス期間を過ぎてもプレミアム・フィーチャーを使用できるように、IBM Upward Integration for MSSC v3.0 から製品ライセンスを入手することもできます。

詳しくは、1 ページの『試用ライセンスのサポート』を参照してください。

以下の追加機能は有料で、管理対象エンドポイント基準ごとに v3.1 以降のアクティベーション・ライセンスを購入する必要があります。

- IBM Web サイトで、サポートされるマシン・タイプ用のすべてまたは選択した更新について、最新の更新がないかを確認します。
- IBM Web サイト上の使用可能な更新に関する詳細情報を提供します。これには、一般情報、インストール情報、およびプラットフォーム情報が含まれます。
- Windows Server Update Services WSUS 更新に関する詳細情報 (一般情報および特定のパッケージ化情報を含む) を提供します。
- 「更新の比較レポートの生成」は、ユーザーが更新を CSV または TXT ファイルにエクスポートするための機能を提供します。

- System Updates ツールを使用して、エンドポイントの更新の展開のジャーナルをリモートで表示することができます。
- ダウングレード目的で更新をインストールすることができます。同じ更新名でパブリッシュされた更新は、すべて有効期限切れになります。

IBM System Updates for Microsoft System Center Configuration Manager v5.0 による IBM システムのサポート方法

IBM System Updates for Microsoft System Center Configuration Manager v5.0 は、マシン・タイプ・ベースのダウンロード・メカニズムを備えています。これにより、IBM Web サイト経由で更新を検索することなく、最新の IBM システム更新ソフトウェアを容易にダウンロードすることが可能になります。

IBM System Updates を使用すると、カタログ・ファイル (最新の更新を提供していない場合があります) を使用せずに最新の更新を適用することが可能になります。

IBM System Enablement Pack

IBM System Enablement Pack (SEP) には、システム固有のコード (最新のドライバ、スクリプト、バイナリ、その他のファイルなど) が含まれます。このパッケージは、新規の IBM System x および Blade サーバーで IBM Dynamic System Analysis DSA、ファームウェア更新、およびオペレーティング・システムの展開をサポートするために使用されます。

新規システムでソフトウェア・ツールをサポートするには、関連する SEP が必要です。IBM System Updates ツールは、使用可能な新規バージョンの IBM UpdateXpress System Pack Installer (UXSPi) および SEP パッケージをダウンロードおよび展開します。

注: IBM Web サイトから、ご使用のサーバーをサポートする最新バージョンの UXSPi をダウンロードすることができます。UXSPi をクライアント・マシンにデプロイする前に、必要な SEP をデプロイ済みおよびインストール済みであることを確認してください。

ハードウェアおよびソフトウェア要件

このセクションのトピックでは、IBM System Updates のハードウェアおよびソフトウェア要件について説明します。

ハードウェア要件

IBM System Updates ツールには、特定のハードウェア要件はありません。このツールは、IBM 以外のサーバーか、Windows オペレーティング・システムに対応する IBM サーバー、ワークステーション、またはラップトップで実行することができます。

サポートされるオペレーティング・システム

IBM System Updates Acquisition and Publishing ツールは、以下の Windows オペレーティング・システムをサポートします。

- Windows 2012 R2
- Windows Server 2012
- Windows Server 2008 SP1/R2
- Windows Server 2008 SP1/SP2
- Windows Server 2008 SP1/SP2 x64
- Windows Server 2003 SP2/R2
- Windows Server 2003 SP2/R2 x64

必要なソフトウェア

Windows Server Update Services 3.0 SP1 以降のバージョンの管理コンソールが必要です。Windows Server Update Services 3.0 SP1 以降のバージョンがローカル・コンピュータにインストールされていない場合、Updates Publisher Setup を実行する前に、Windows Server Update Services 3.0 SP1 以降の管理コンソールをインストールする必要があります。Windows Server Update Services WSUS のバージョンが 4.0 より前の場合は、WSUS パッチが必要です。このパッチは Windows Server Update Services 3.0 Service Pack 2 用の更新プログラムについて Web ページからダウンロードできます。

ホスト・コンピュータに IBM System Updates ツールをインストールするために使用するアカウントには、Windows Server Update Services 管理者特権が必要です。

第 2 章 IBM System Updates のインストール

このセクションのトピックでは、IBM System Updates のインストールおよびアンインストール方法について説明します。

IBM System Updates ツールのインストール

このトピックでは、IBM System Updates ツールのインストール方法について説明します。

始める前に

IBM System Updates for Microsoft System Center Configuration Manager v5.0 をインストールする方法は 2 つあります。

- 1 つ目は、IBM System Updates for Microsoft System Center Configuration Manager v5.0 セットアップ・パッケージ (EXE ファイル) を使用する方法です。
- 2 つ目は、IBM Upward Integration for Microsoft System Center Installer を使用する方法です。

IBM Upward Integration for Microsoft System Center Installer について詳しくは、「IBM Upward Integration for Microsoft System Center bundle - IBM BladeCenter and System x」を参照してください。

このタスクについて

手順

1. IBM System x Integration Offerings for Microsoft Systems Management Solutions Web サイトにアクセスします。
2. 「**Microsoft System Center Configuration Manager (SCCM), System Updates**」をクリックし、最新バージョンの IBM System Updates ツールをダウンロードします。

注: ご使用のシステムに Windows Server Update Services 3.0 SP1 以降がインストールされていない場合、次のメッセージが表示されます。



図 1. WSUS 3.0 sp1 以降がインストールされていないことを示すメッセージ

「OK」をクリックしてプログラムを停止し、インストールを完了します。

プログラムのインストール中に、IBM System Updates ツールの「インストールの準備をしています」ページが開きます。

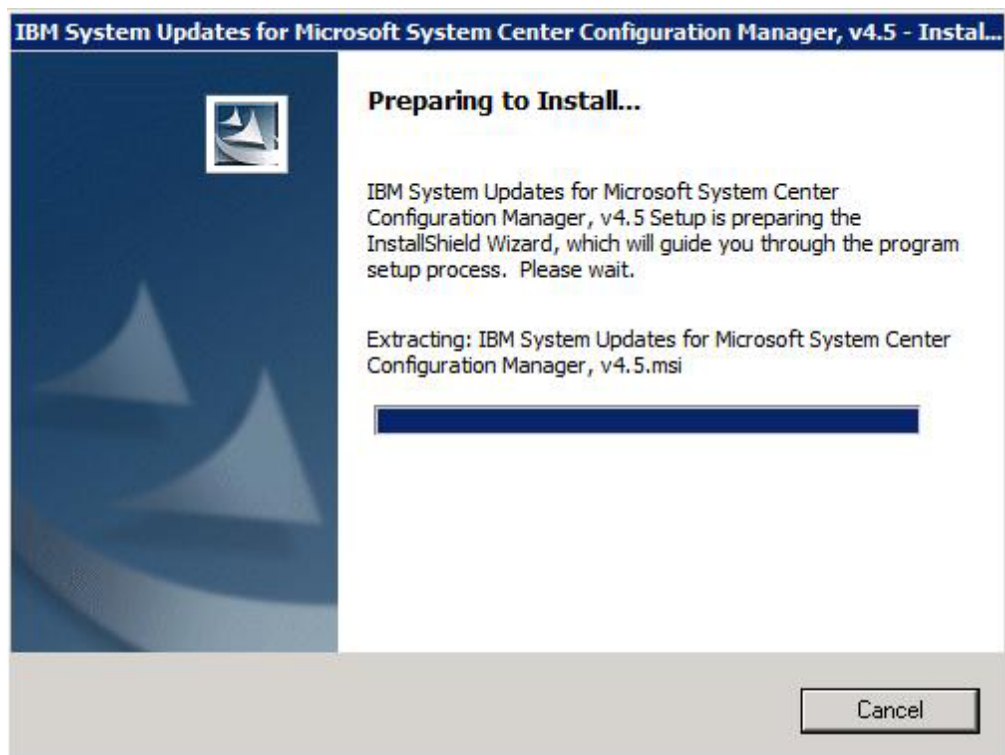


図 2. IBM System Updates のインストールの準備中

3. 「Next」をクリックすると、「InstallShield Wizard」ページが開きます。何らかの理由でインストールを停止する必要がある場合は、「Cancel」をクリックします。

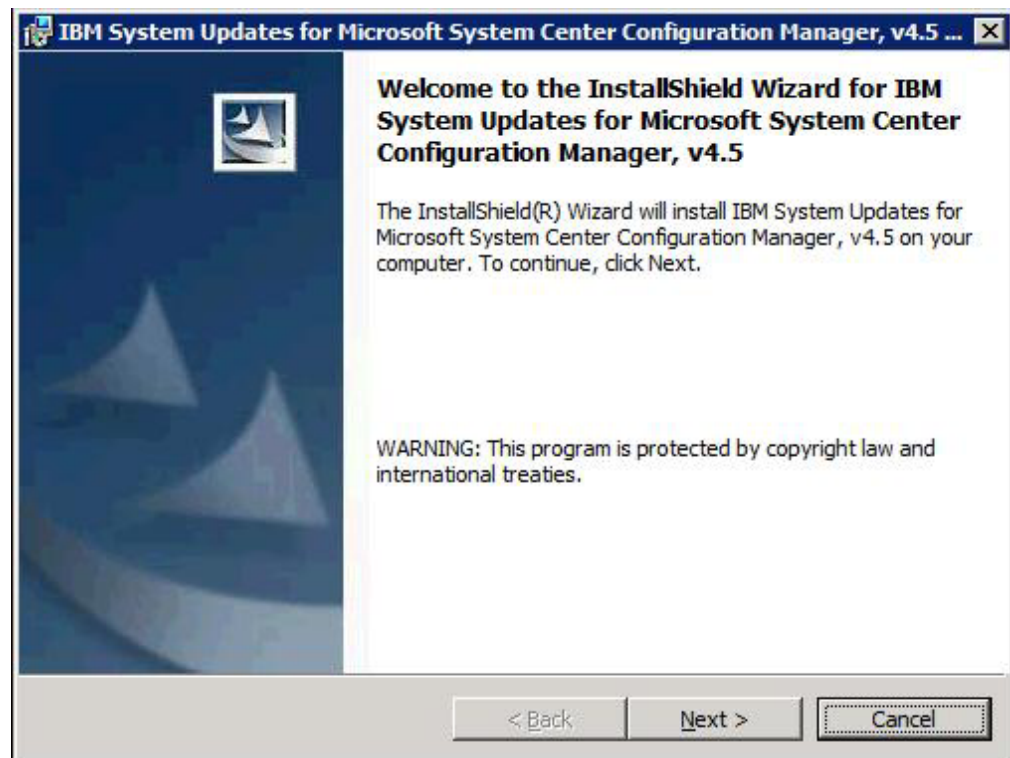


図 3. IBM System Updates の「InstallShield Wizard」ウェルカム・ページ

4. 「Next」をクリックしてインストールを続行し、「License Agreement」に進みます。

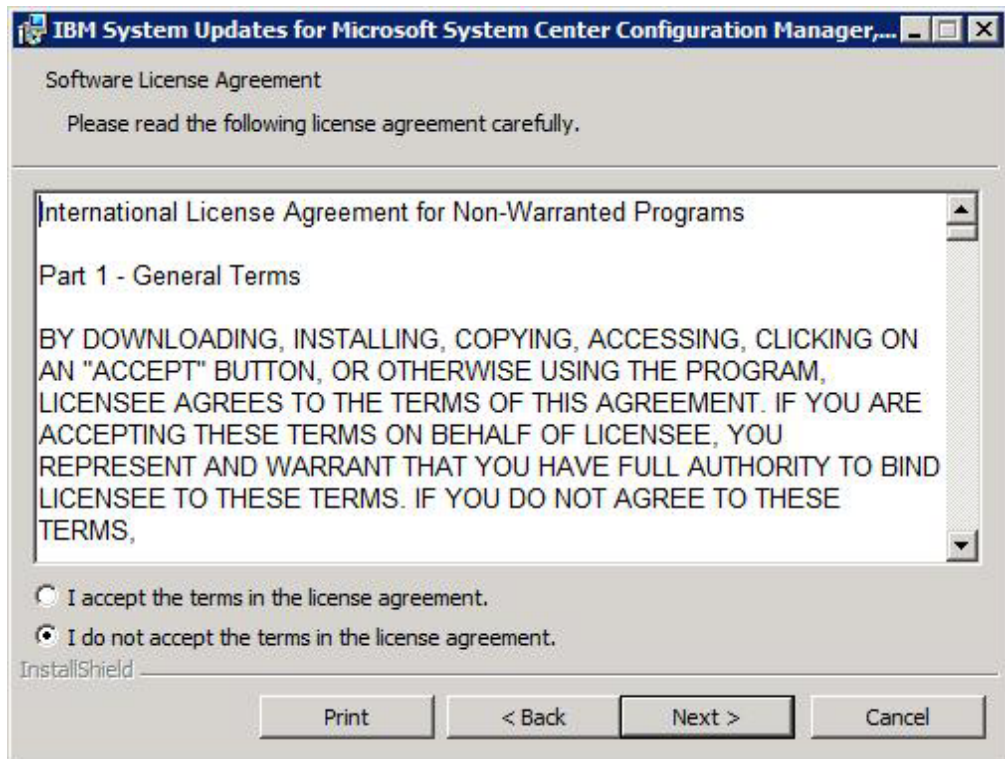


図4. ソフトウェアの使用許諾契約書

5. 使用許諾契約書の条項を読み、「**使用許諾契約書の条項に同意します (I accept the terms in the license agreement)**」を選択し、「次へ」をクリックします。
 - 製品ライセンスがアクティブにされていない場合、「試用バージョン」ページが開きます。「試用バージョン」ページで以下のステップを実行してください。
 - 製品ライセンスがアクティブ化されていた場合は、「宛先フォルダー (Destination Folder)」ページが開きます。ステップ 7 を実行してください。
6. オプション: 「試用バージョン」ページで、以下の選択肢のいずれか 1 つを選択します。
 - 「**IBM に問い合わせる**」をクリックして、有効な製品ライセンスを入手します。
 - 「次へ」をクリックして、「宛先フォルダー (Destination Folder)」ページに進みます。

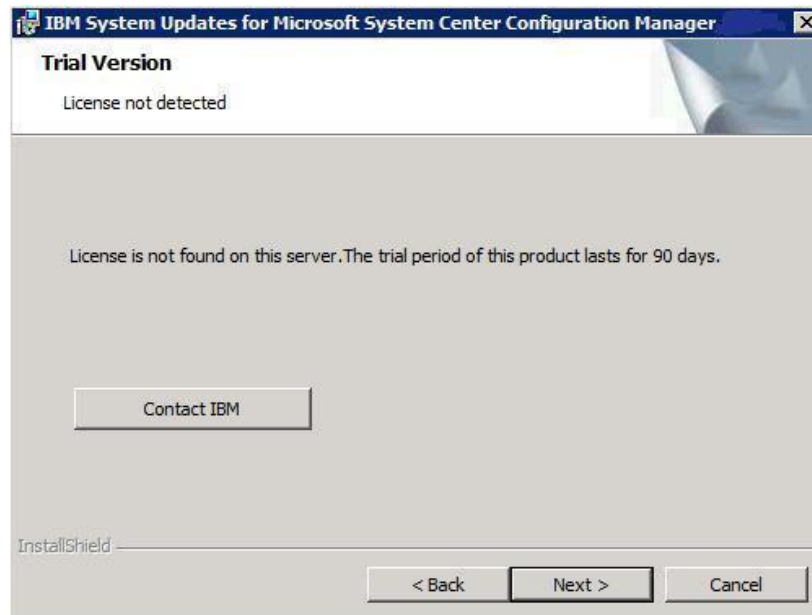


図 5. 「試用バージョン」 ページ

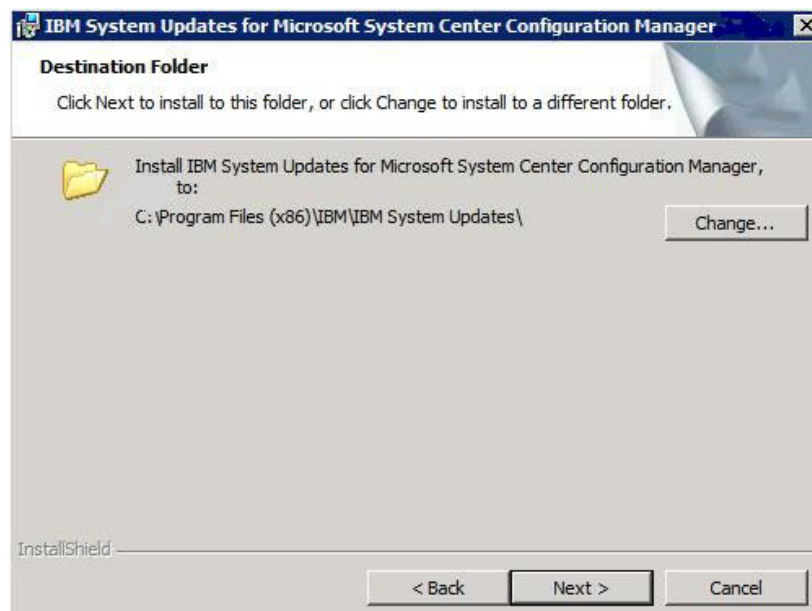


図 6. 宛先フォルダー

7. 「インストール先フォルダー」 ページで、「次へ」をクリックしてデフォルトのインストール・ディレクトリーを受け入れるか、「変更」をクリックして新しい場所を入力します。「プログラムのインストールの準備完了」 ページが開きます。

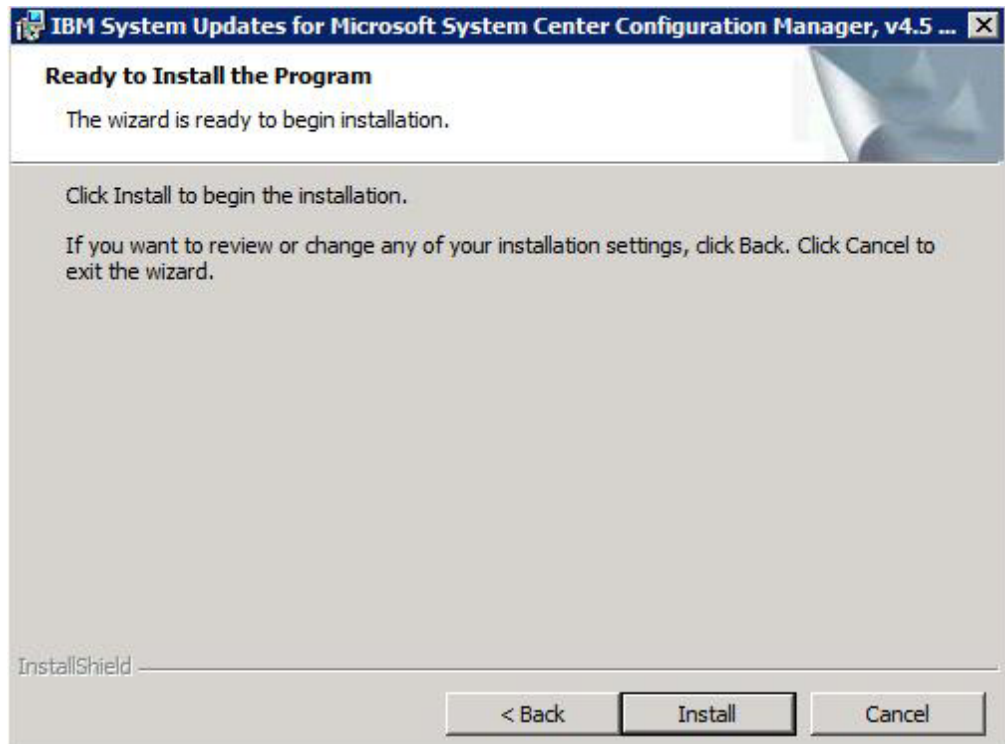


図7. プログラムをインストールする準備完了

8. 「**Install**」をクリックし、インストールを開始します。「インストールの進行状況」 ページが表示されます。

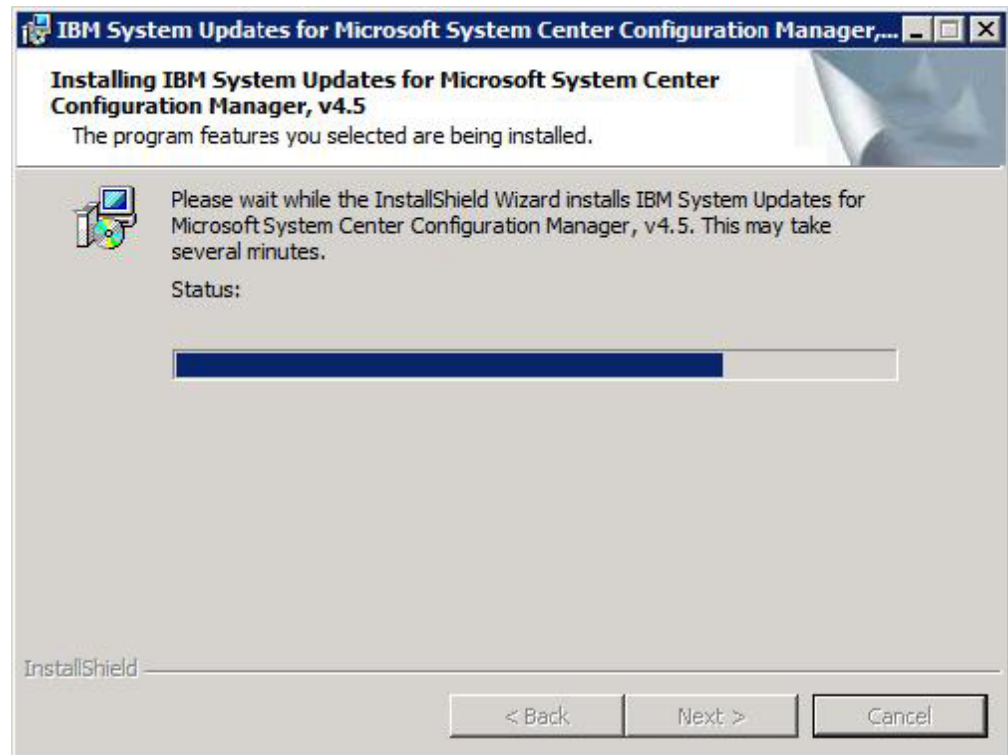


図8. インストールの進行状況

注: インストール中、コマンド・プロンプト・ウィンドウに、必要なインストール・ファイルの解凍が表示されます。インストール中にエラーが発生した場合、そのエラーが表示されます。コマンド・プロンプト・ウィンドウは閉じないでください。インストールは完了までに数分かかります。

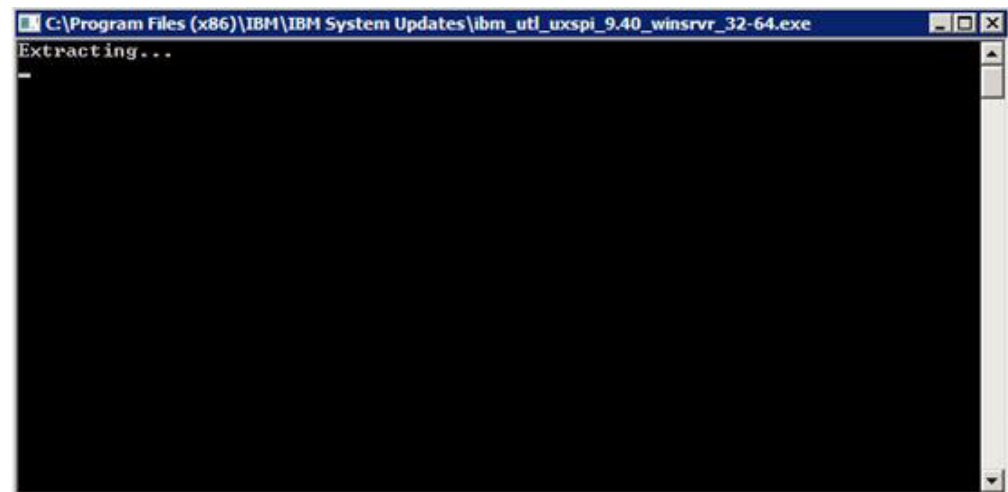


図9. インストール・ファイルの抽出

インストールが完了すると、「InstallShield Wizard Completed」ページが開きます。

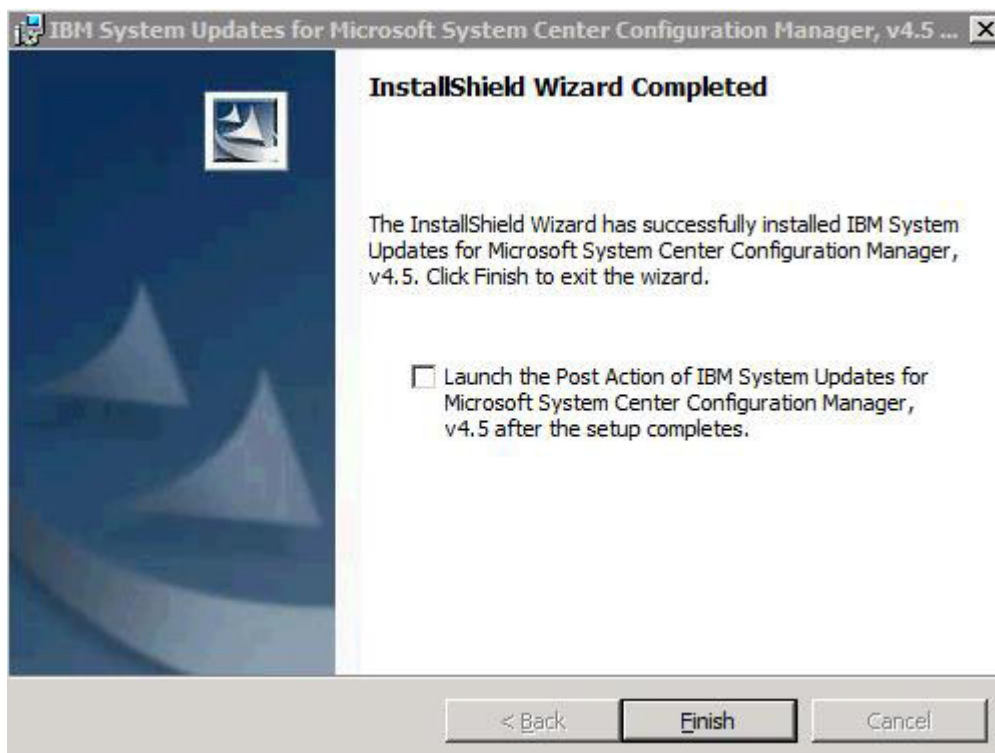


図 10. 「InstallShield Wizard Completed」 ページ

9. 次のオプションのいずれかを選択してください。

- 「**Finish**」をクリックして、インストールを完了します。
- 「**IBM System Updates for Microsoft System Center Configuration Manager 2007 v5.0 のポスト・アクションを起動する (Launch the Post Action of IBM System Updates for Microsoft System Center Configuration Manager 2007, v5.0)**」チェック・ボックスを選択して、IBM System Updates ツールの「セットアップ (Setup)」ウィザードを開始します。

注: 「セットアップ (Setup)」ウィザードは、「スタート」メニューから開始することもできます。

IBM System Updates ツールのアンインストール

IBM System Updates for Microsoft System Center Configuration Manager v5.0 ツールをアンインストールする方法は 4 つあります。

IBM System Updates ツールをアンインストールするには、以下のいずれかのステップを実行します。

- 「プログラムの追加と削除」オプションを使用してアンインストールする。
Windows Server 2008 オペレーティング・システムの場合は、「プログラムと機能」を使用してアンインストールすることができます。
- IBM System Updates for Microsoft System Center Configuration Manager v5.0 Installer (EXE ファイル) の「削除」オプションを選択する。
- IBM Integrated Installer (EXE ファイル) を使用して「削除」オプションを選択する。
- 「スタート」メニューから「アンインストール」を選択する。

注: アンインストール処理中に、ログ・ファイル、一時フォルダー、および UXSPi アップグレード・ファイルは削除されません。これらのファイルは、手動で削除する必要があります。

第 3 章 IBM System Updates および System Center Configuration Manager 2007 の操作

このセクションのトピックでは、IBM System Updates および Microsoft System Center Configuration Manager 2007 がどのように連携して機能するかを説明します。

IBM System Updates Acquisition and Publishing ツール バージョン 5.0

IBM System Updates Acquisition and Publishing (SUAP) ツールは、IBM System Updates for Microsoft System Center Configuration Manager v5.0 のコア・コンポーネントです。このツールは、IBM Web サイトから更新を取得し、その更新を Windows Server Update Services サーバーにパブリッシュする機能を提供します。

IBM System Updates for Microsoft System Center Configuration Manager v5.0 を使用すると、お客様固有のマシン・タイプに関して、設定の構成、マシン・リストの維持、および更新の管理が容易になります。

ナビゲーション・ペインは、次の 3 つのビューから構成されます。

- Home
- すべての更新
- マイ・マシン

「Home」ビューの使用

「Home」ビューには、IBM System Updates での作業を始めるために役立つ 3 つのオプションが用意されています。

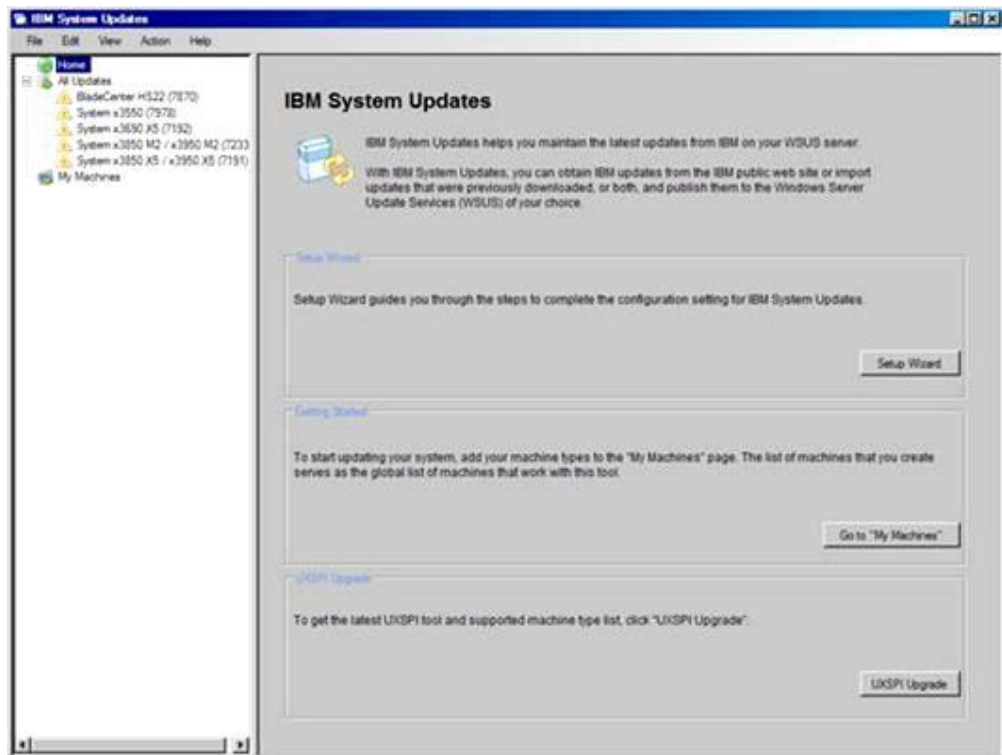


図 11. 「Home」ビュー

セットアップ・ウィザード

「セットアップ・ウィザード」オプションは、IBM System Updates の設定を確認するための手順をガイドします。

入門 「入門」オプションは、System Updates ツールを操作するためのマシン・タイプ・リストを作成することによって、システムの更新を始める場合に使用します。

UXSPi アップグレード

「UXSPi アップグレード」オプションは、最新の UXSPi ツールと、サポートされるマシン・タイプのリストを入手するために使用します。

「セットアップ (Setup)」ウィザード

「セットアップ (Setup)」ウィザードは、IBM System Updates の構成設定のセットアップを完了するための手順をガイドします。

この構成設定のセットアップが完了した後で、その構成設定を表示したり編集したりすることができます。構成設定を表示および編集するには 2 つの方法があります。「スタート」メニューから以下のいずれかの方法を選択します。

- 「IBM SUAP tool Menu」 > 「Edit」 > 「Preferences」。
- 「セットアップ・ウィザード」

Windows Server Update Services サーバーの構成:

このトピックでは、Windows Server Update Services (WSUS) サーバーの構成方法について説明します。WSUS サーバーは、パブリッシュを行うために使用されます。正常に更新をパブリッシュするには、WSUS サーバー上で管理権限が必要です。

手順

1. 以下の WSUS サーバー・オプションのいずれかを選択します。

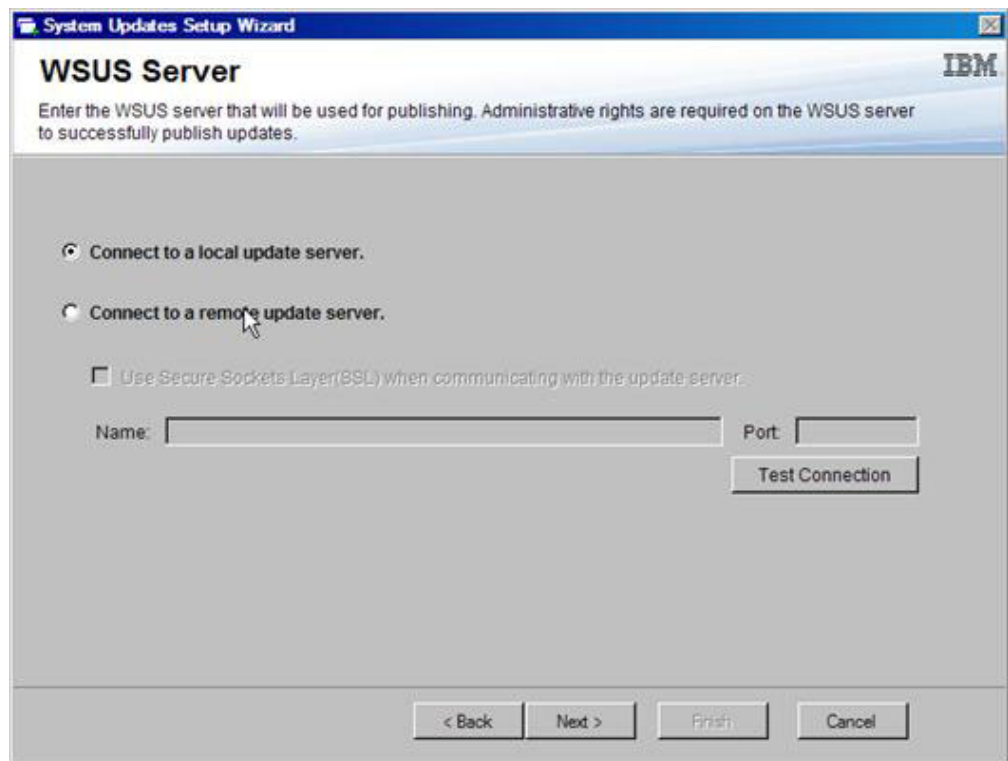


図 12. WSUS サーバーの「System Updates Setup Wizard」

- IBM System Updates がインストールされているサーバーと同じサーバーを WSUS 用に使用するには、「ローカル更新サーバーに接続する」をクリックします。
- ネットワーク経由で WSUS サーバーに更新を公開するには、「リモート更新サーバーに接続する」をクリックします。

注: 「リモート更新サーバーに接続する」オプションを選択した場合は、WSUS 更新サーバーの名前と、そのサーバーへの接続に使用するポートを指定してください。WSUS 更新サーバーの名前として、ホスト名または IP アドレスを使用できます。

このオプションを選択した場合は、「**Secure Sockets Layer (SSL) を使用する (Use Secure Sockets Layer (SSL))**」チェック・ボックスを選択することで、Secure Sockets Layer を使用できます。Secure Sockets Layer については、『Windows Server Update Services サーバーでの Secure Sockets Layer の使用 (オプション)』を参照してください。

2. 「次へ」をクリックして WSUS 構成を続けます。

Windows Server Update Services サーバーでの Secure Sockets Layer の使用 (オプション):

IBM System Updates ツールは、Secure Sockets Layer (SSL) を使用した Windows Server Update Services (WSUS) サーバーへの更新の公開をサポートしています。SSL は、接続を保護することができ、IBM System Updates ツールと Windows Server Update Services サーバーの間で転送されるデータを暗号化することができます。

このタスクについて

リモート WSUS サーバー用に SSL を選択した場合は、以下の手順に従って環境を構成してください。

WSUS サーバーでの SSL の構成方法については、Windows Server Update Services ヘルプ資料の『*Using SSL with WSUS*』セクションを参照してください。Internet Information Services (IIS) ヘルプ資料の『*Secure Sockets Layer*』も参照してください。これらのヘルプ資料は、Windows Server Update Services および IIS ツールをインストールすると使用可能になります。

手順

1. SSL 証明書ファイルを IBM System Updates コンピューターに追加します。SSL 証明書を以下の場所にインポートしてください。
 - 信頼された発行元
 - 信頼されたルート証明機関
2. 以下の手順で、IBM SUAP Tool Publish ウィザードを使用して「この WSUS サーバーの SSL サポート (SSL support for this WSUS server)」を有効にします。
 - a. リモート・サーバーに接続したときと同じ方法でローカル・サーバーに接続します。
 - b. SCCM コンソールで **SSL サポート** を有効にします。
 - c. Microsoft System Center Configuration Manager の該当するバージョンを選択します。
 - Microsoft System Center Configuration Manager 2007 の場合は、SCCM コンソールを起動して、「サイトの管理」 > 「%Site Name%」 > 「サイトの設定」 > 「コンポーネントの構成」を選択します。

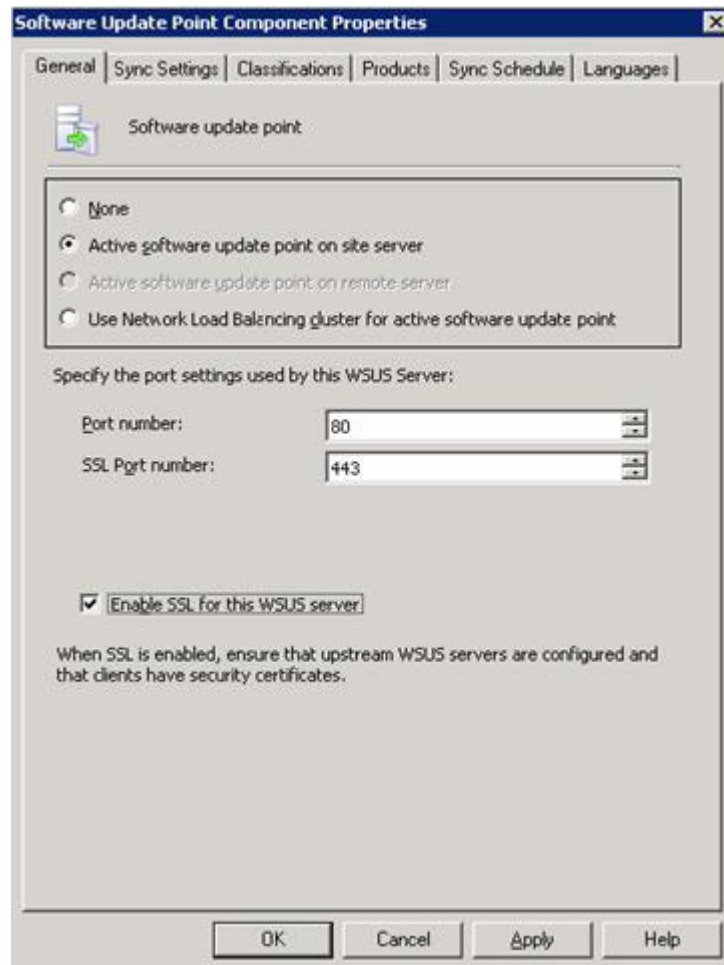


図 13. ソフトウェアの更新ポイントのコンポーネント・プロパティ (SCCM 2007)

- Microsoft System Center Configuration Manager 2012 の場合は、SCCM コンソールを起動して、「管理」 > 「サイト構成」 > 「サイト」 > 「%Site Name%」 > 「サイト・コンポーネントの構成 (Configure Site Components)」を選択します。

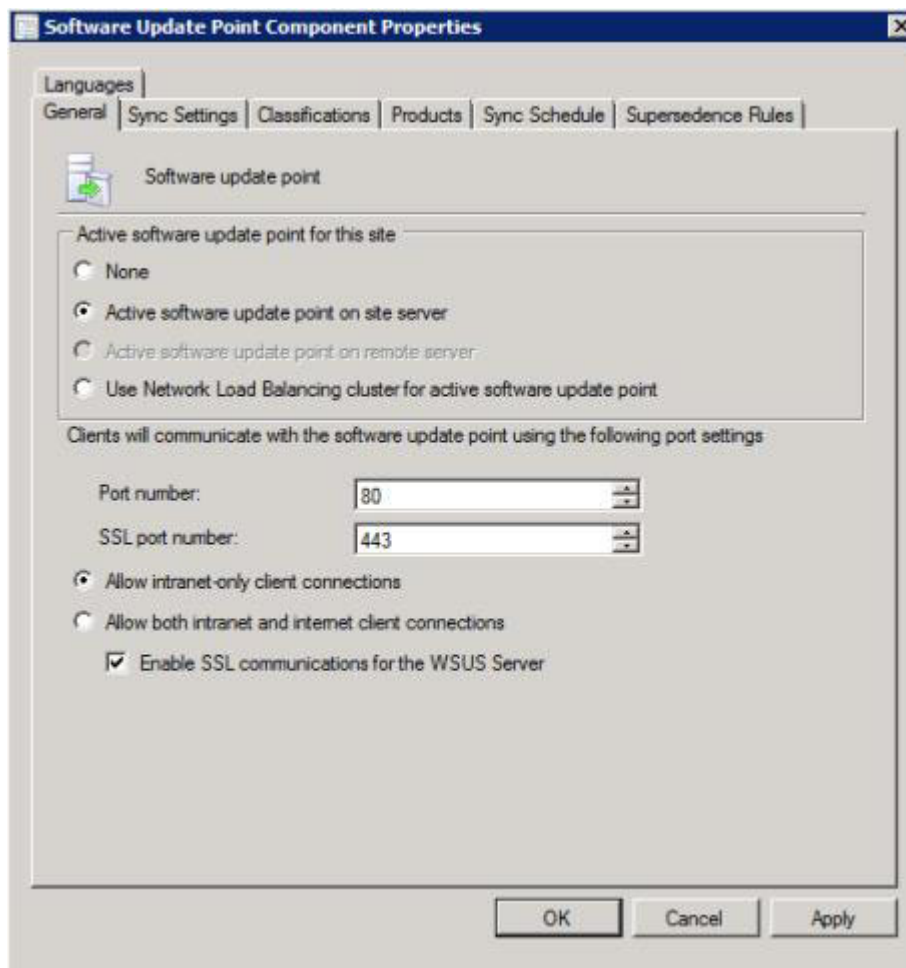


図 14. ソフトウェアの更新ポイントのコンポーネント・プロパティ (SCCM 2012)

- d. 「ソフトウェアの更新ポイント コンポーネント」を開いて「SSL サポート」を使用可能にします。

注: Windows Server Update Services サーバー名は、SSL 証明書内の「発行先名 (Issued to name)」と同じでなければなりません。

3. SSL 証明書ファイルをクライアント・コンピューターに追加します。
4. SSL 証明書を「信頼された発行元」および「信頼されたルート証明機関」にインポートします。

Windows Server Updates Services サーバー証明書の構成:

このセクションでは、Windows Server Update Services (WSUS) サーバーのデジタル証明書の構成方法について説明します。

このタスクについて

「WSUS Server Certificate」 ページで、WSUS サーバーのデジタル証明書を構成することができます。

手順

1. 以下のいずれかのオプションを使用して、構成する証明書を選択します。
 - サード・パーティー証明書にナビゲートし、それを選択するには、「参照」をクリックします。
 - 新しい自己署名証明書を生成するには、「作成」をクリックします。

注: Windows 2012 R2 以降のバージョンでの WSUS は、自己署名証明書を発行しません。証明書は、認証局をインストールすることによって作成できます。詳しくは、Install the Certification Authorityを参照してください。

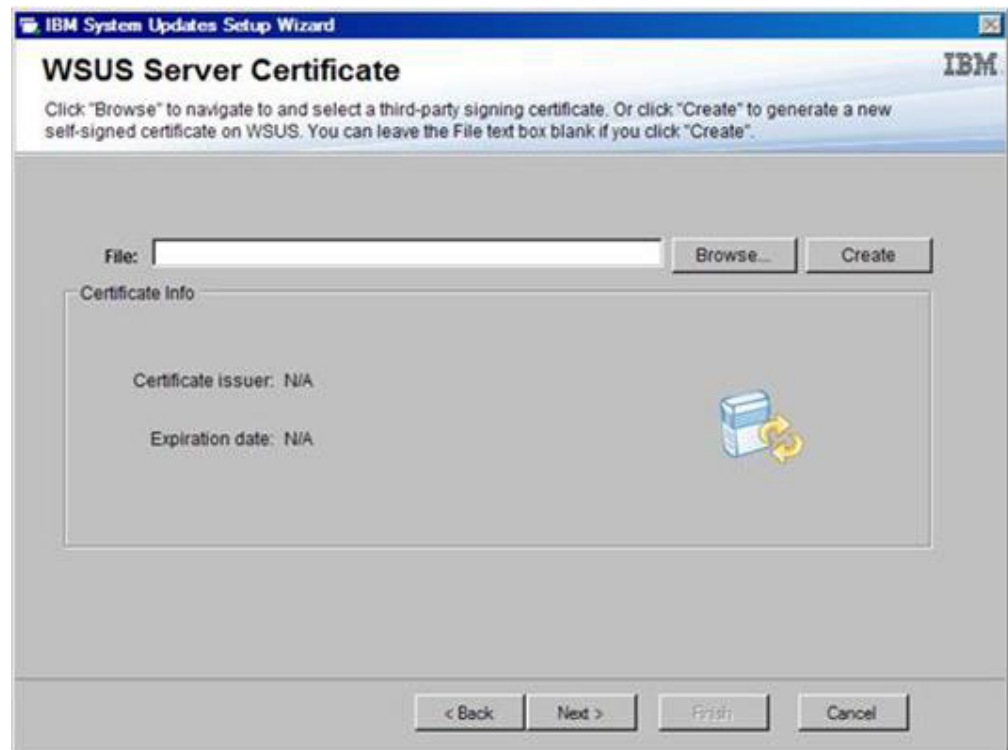


図 15. WSUS サーバー証明書

2. 「次へ (Next)」をクリックします。

次のタスク

デジタル証明書は、更新の署名に使用します。IBM 更新を SCCM サーバーに公開するには、事前に証明書を System Center Configuration Manager 更新サーバー上の該当する証明書フォルダーにコピーすることによって追加する必要があります。また、証明書は、IBM System Updates コンピューターにもコピーし、更新サーバー上のコピーと確実に同一であるようにしてください。

証明書が WSUS サーバー上にない場合、IBM System Updates ツールによって、WSUS サーバー上で自己署名証明書を生成するように要求するプロンプトが出されます。

注: IBM System Updates ツールは、第三者機関の証明書のインポートもサポートします。サード・パーティー証明書をインポートするには、「参照」をクリックし、「サード・パーティー証明書 (third-party certificate)」を選択します。

証明書の追加:

以下の手順は、適切な証明書フォルダーに証明書を追加する方法を説明しています。

手順

1. 「スタート」 > 「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
2. コマンドラインに **MMC** を入力し、「**OK**」をクリックして、Microsoft Management Console (MMC) を開きます。
3. 証明書を追加するには、「ファイル」 > 「スナップインの追加と削除」をクリックし、「追加」をクリックします。
4. 「証明書」をクリックし、「追加」をクリックします。
5. 「コンピュータ アカウント」を選択し、「次へ」をクリックします。
6. 別のコンピューターを選択するには、更新サーバーの名前を入力するか、「参照」をクリックして更新サーバー・コンピューターを見つけます。更新サーバーが同じサーバー上にある場合は、このウィンドウで「ローカル コンピュータ」を選択します。
7. 「完了」をクリックします。
8. 「閉じる」をクリックします。
9. 「**OK**」をクリックします。
10. 「証明書」 (ローカル・コンピューターの更新サーバー名) を展開し、「**WSUS**」を展開して、「証明書」をクリックします。

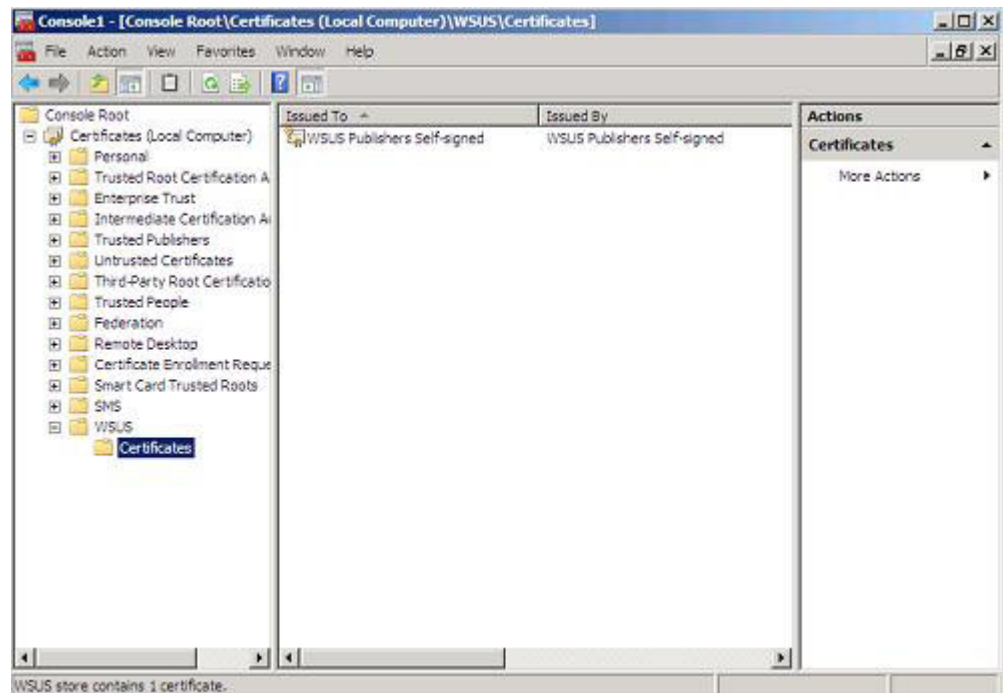


図 16. コンソール 1 - WSUS 証明書

11. 中央のペインで、証明書の名前を右クリックし、「すべてのタスク」を選択して、「エクスポート」をクリックします。「証明書のエクスポート」ウィザードが開きます。
12. デフォルト設定を使用して、ウィザードで指定された名前と場所でエクスポート・ファイルを作成します。 次のステップに進む前に、このファイルが更新サーバーから使用可能になっていなければなりません。
13. 「信頼された発行元」を右クリックし、ドロップダウン・メニューから「すべてのタスク」を選択して、「インポート」をクリックします。 ステップ 6 でエクスポートしたファイルを使用して、「証明書のインポート ウィザード」を完了します。
14. 自己署名証明書 (WSUS Publishers Self-signed など) を使用している場合は、「信頼されたルート証明機関」を右クリックし、「すべてのタスク」、「インポート」の順に選択します。 ステップ 6 でエクスポートしたファイルを使用して、「証明書のインポート ウィザード」を完了します。
15. Updates Publisher コンピューターが更新サーバーに対してリモート・コンピューターである場合、ステップ 7 と 8 を繰り返して、証明書を Updates Publisher コンピューターの証明書フォルダーにインポートします。

クライアント・コンピューターで、Windows Update Agent が更新のスキャンを行います。

重要: ローカル・コンピューターの「信頼された発行元」フォルダーにデジタル証明書が見つからない場合、最初のインストール・アクションは失敗します。更新カタログをパブリッシュしたときに自己署名証明書 (WSUS Publishers

Self-signed など) が使用された場合、証明書の妥当性を検証するために、その証明書もローカル・コンピュータの「信頼されたルート証明機関」の証明書フォルダーになければなりません。

証明書の構成:

このトピックでは、証明書の構成方法について説明します。

このタスクについて

クライアント・コンピュータで署名証明書を構成するには、2 つの方法があります。

- **グループ・ポリシーおよび証明書インポート・ウィザードの使用 (Using Group Policy and the Certificate Import Wizard):** 22 ページの『証明書の追加』に記載された手順を実行します。
- **証明書ユーティリティおよびソフトウェア配布の使用 (Using the certutil utility and software distribution):** 以下の手順にあるステップを実行します。

手順

1. 「スタート」 > 「ファイル名を指定して実行」をクリックし、テキスト・ボックスに **MMC** を入力し、「**OK**」をクリックして Microsoft 管理コンソール (MMC) を開きます。
2. 「ファイル」をクリックし、「スナップインの追加と削除」を選択します。「スナップインの追加と削除」ダイアログ・ボックスが開きます。
3. 「追加」をクリックし、「証明書」を選択して、「追加」をクリックします。「証明書スナップイン」ダイアログ・ボックスが開きます。
4. 「コンピューター アカウント」を選択し、「次へ」をクリックします。「コンピューターの選択」ダイアログ・ボックスが開きます。
5. 以下のいずれかのサーバー・オプションを選択します。
 - **別のコンピューター (Another):** 更新サーバーの名前を入力するか、「参照」をクリックして更新サーバーを見つけます。
 - **ローカル コンピューター:** 更新サーバーが同じサーバー上にある場合は、このオプションを使用します。
6. 「完了」をクリックして、「スタンドアロン スナップインの追加」ダイアログ・ボックスに戻ります。
7. 「閉じる」をクリックして、「スナップインの追加と削除」ダイアログ・ボックスに戻ります。
8. 「**OK**」をクリックします。

9. MMC コンソールで、「証明書」(更新サーバー名)を展開し、「WSUS」を展開して、「証明書」を選択します。
10. 結果ペインで証明書を右クリックして、「すべてのタスク」、「エクスポート」の順に選択します。デフォルト設定を使用して「証明書のエクスポートウィザード」のステップを完了し、ウィザードで指定した名前と場所でエクスポート証明書ファイルを作成します。
11. カタログ内の更新のスキャンに Windows Update Agent を使用する各クライアント・コンピュータの更新カタログの署名に使用した証明書を追加するには、以下のいずれかの方法を使用します。
 - 自己署名証明書の場合: 「信頼されたルート証明機関」および「信頼された発行元の証明書」フォルダーに証明書を追加します。
 - 認証局 (CA) 発行の証明書の場合: 「信頼された発行元の証明書」フォルダーに証明書を追加します。

注: Windows Update Agentは、「グループ ポリシー」設定がローカル・コンピュータで使用可能にされているかを確認します。Updates Publisher を使用して作成および公開された更新を Windows Update Agent でスキャンするには、「グループ ポリシー」設定が有効になっている必要があります。詳しくは、TechNet: Windows Update Agent を参照してください。

アウトバウンド接続の構成:

このトピックでは、アウトバウンド接続の構成方法について説明します。

このタスクについて

アウトバウンド接続の構成には、次の図に示す 3 つのオプションがあります。

ローカル・マシンはインターネットに直接アクセスできる

このオプションを選択した場合、アウトバウンド接続用の追加のネットワーク構成は不要です。

ローカル・マシンはインターネットへのアクセスにプロキシ・サーバーが必要 (The local machine requires a proxy server to access the Internet)

このオプションを選択した場合は、IBM System Updates がインターネットに接続できるように、HTTP プロキシをセットアップする必要があります。

ローカル・マシンはインターネットにアクセスできない (The local machine will not have access to the Internet)

このオプションを選択した場合は、更新が以前に保存されたローカル・リポジトリから更新を行うことができます。

注: IBM Web サイトから最新の更新を入手するには、インターネット接続が必要です。自動更新を選択していない場合は、手動で更新をローカル・リポジトリに入れる必要があります。

手順

1. アウトバウンド接続オプションの 1 つを選択します。

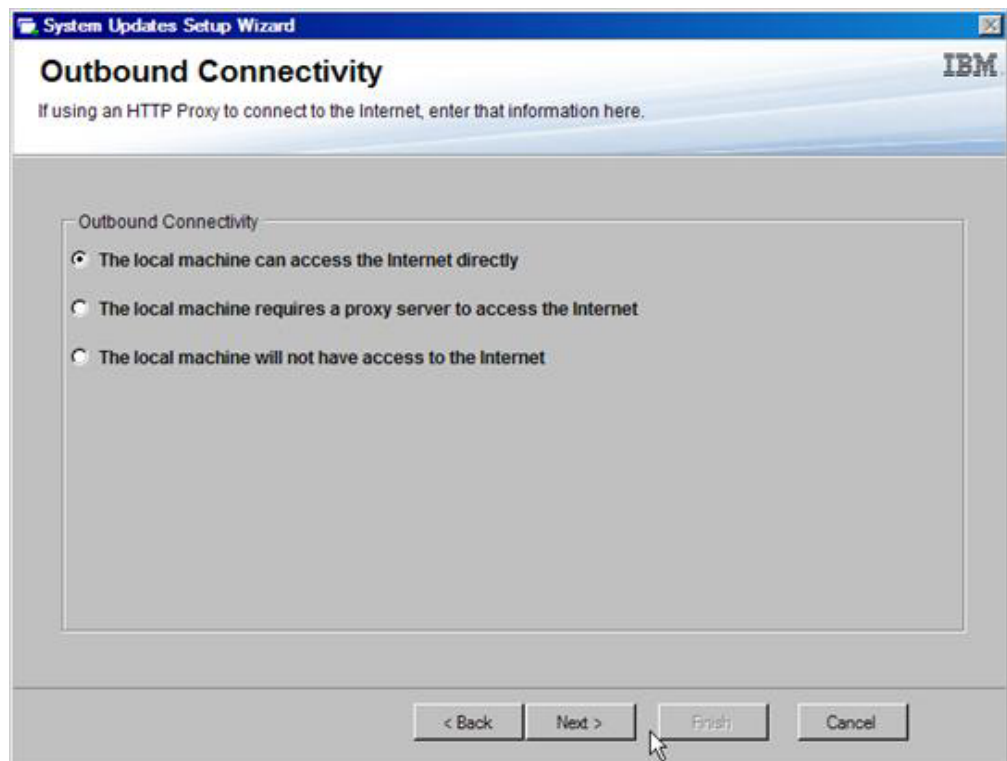


図 17. アウトバウンド接続

- ローカル・マシンはインターネットに直接アクセスできる
- ローカル・マシンはインターネットへのアクセスにプロキシ・サーバーが必要 (The local machine requires a proxy server to access the Internet)
- ローカル・マシンはインターネットにアクセスできない

注: 「ローカル・マシンはインターネットへのアクセスにプロキシ・サーバーが必要 (The local machine requires a proxy server to access the Internet)」オプションを選択した場合は、以下の情報を入力してください。

- ホスト
- ポート

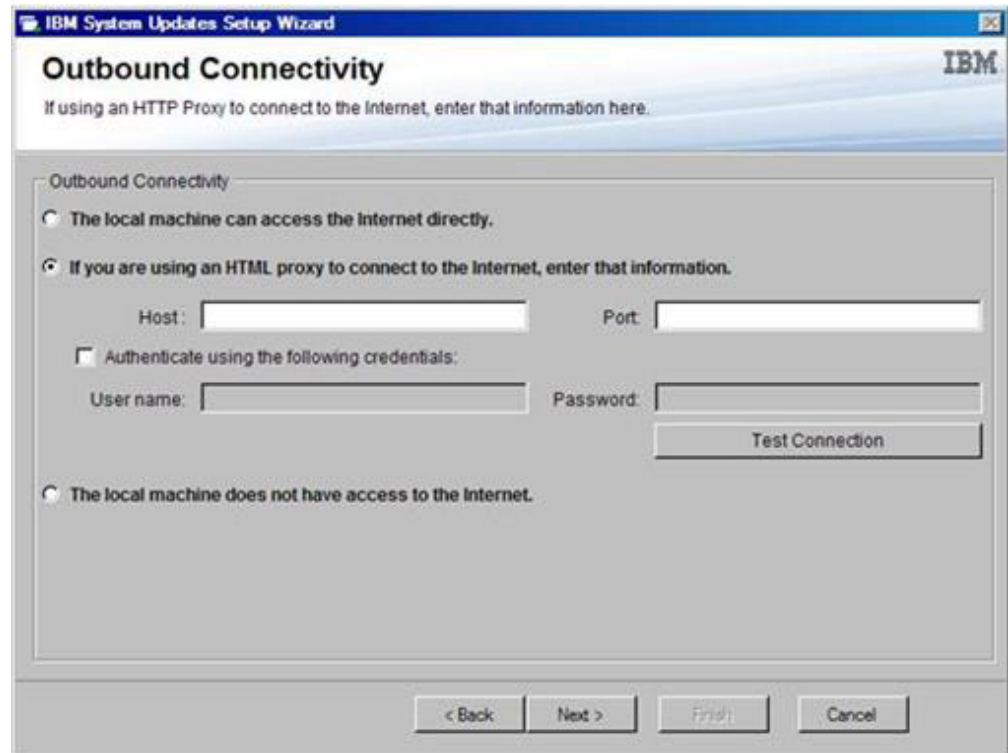


図 18. HTTP プロキシ

2. 「次へ (Next)」をクリックします。「ローカル・リポジトリの構成 (Configuring the local repository)」ページが開きます。『ローカル・リポジトリの構成』を参照し、このトピックに示されている手順を実行してください。

ローカル・リポジトリの構成:

このトピックでは、更新用にローカル・リポジトリを構成する方法について説明します。

手順

1. 現行フォルダーを受け入れるか、「参照」をクリックしてローカル・リポジトリ用の別のフォルダーを見つけます。

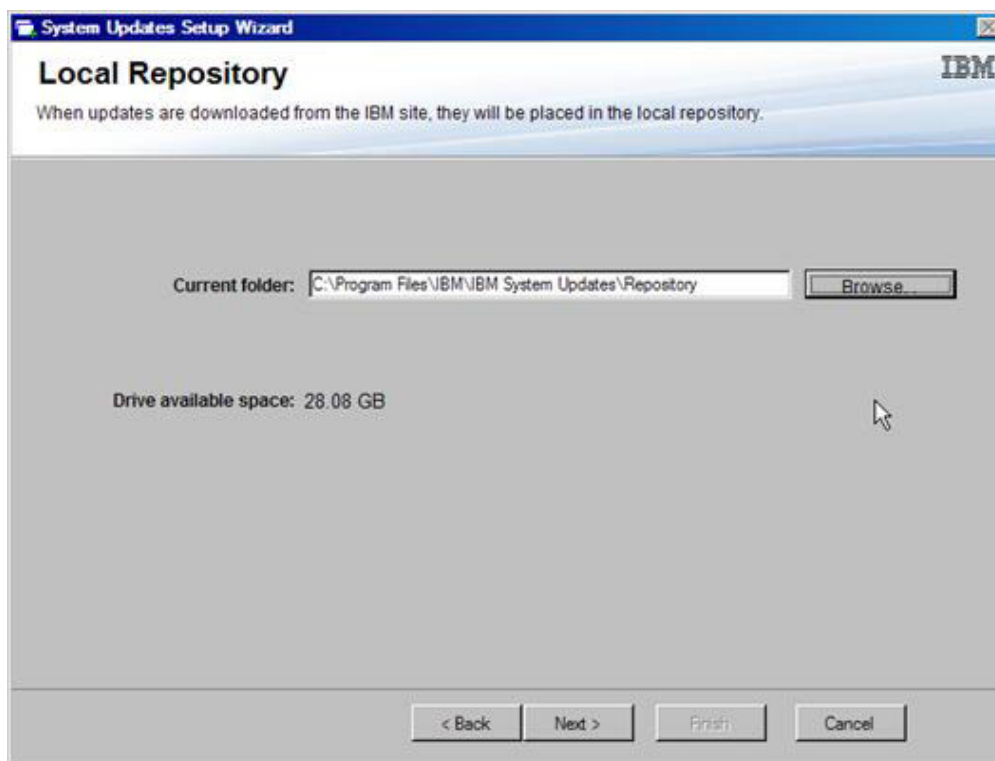


図 19. ローカル・リポジトリ

2. 「次へ (Next)」をクリックします。「セットアップの確認」ページが開きます。

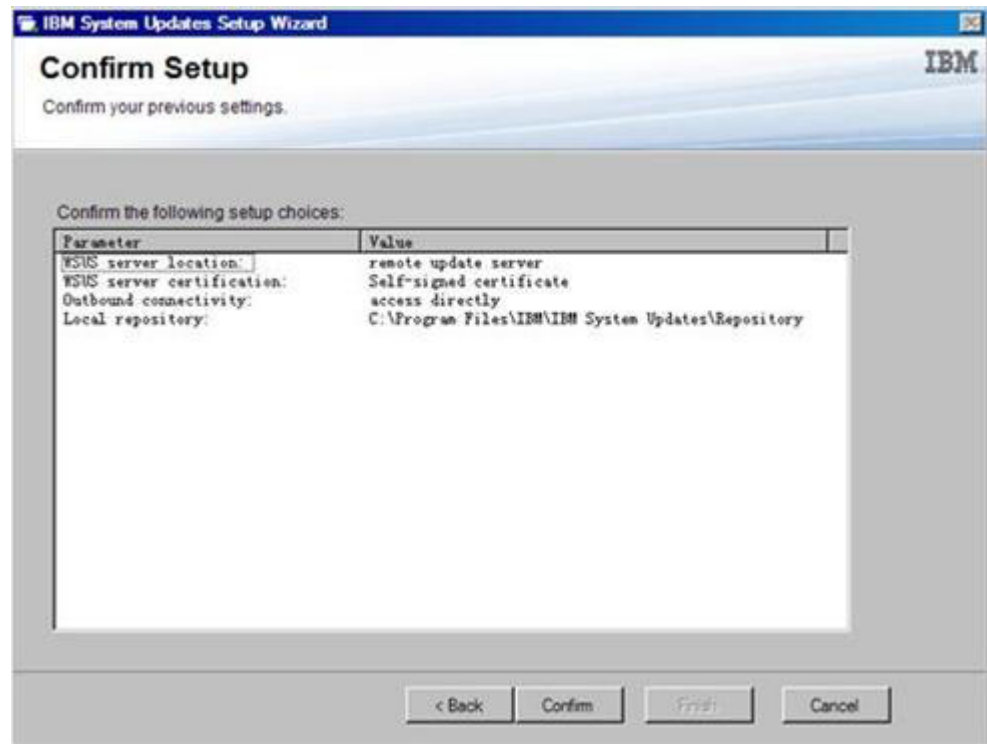


図 20. セットアップの確認

3. 「確認」をクリックして、前の設定を確認します。「セットアップが終了しました」ダイアログ・ボックスが開きます。

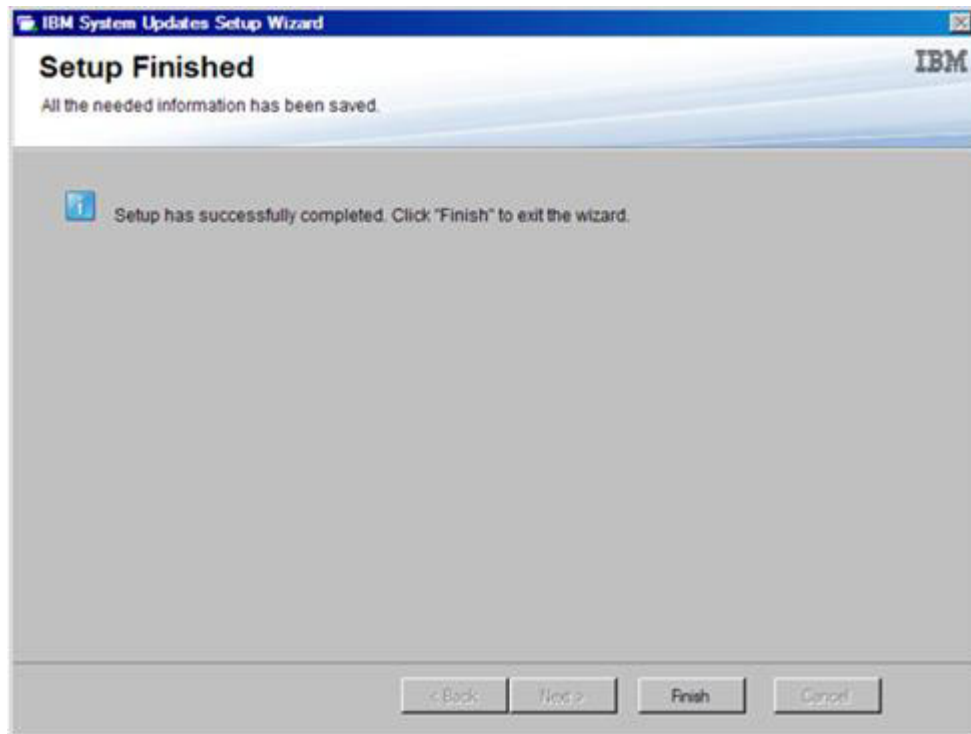


図 21. セットアップが終了しました

4. 「**Finish**」をクリックして、Setup Wizard を完了します。

マシン・タイプの表示

ご使用のコンピューターの更新を開始するには、事前にサポートされるマシン・タイプのリストからご使用のマシン・タイプを追加する必要があります。

このタスクについて

ご使用のマシン・タイプを確認する方法は 2 つあります。以下のいずれかのステップを実行します。

- 「Home」ビューの「**マイ・マシンに移動 (Go to My Machines)**」をクリックします。
- ナビゲーション・ペインの「**コンピューター**」ビューをクリックします。詳しくは、61 ページの『「マイ・マシン」ビューを使用したマシン・タイプの追加および削除』を参照してください。

UXSPi のアップグレード

「UXSPi アップグレード」オプションは、IBM System Updates Acquisition and Publishing ツールをアップグレードすることなく、新しい IBM System x および Blade サーバーに対する自動化された更新を提供します。この機能は、IBM System Enablement Pack に組み込まれています。「UXSPi アップグレード」オプションを使用して、新しいサーバーをサポートするために必要な最新の UXSPi ツール、サポートされる最新のサーバー・リスト、および IBM System Enablement Pack を IBM Web サイトから取得します。

このタスクについて

「UXSPi アップグレード」オプションには、インターネット接続が必要です。以下の手順を実行して、UXSPi のアップグレードを完了します。

手順

1. UXSPi をアップグレードするための以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 「Home」ビューで「UXSPi アップグレード」をクリックします。
 - IBM System Updates and Acquisition and Publishing ツール・メニューから「UXSPi アップグレード」を選択します。
 - 「アクション」リストから「UXSPi をアップグレードして最新のマシンを検査」を選択します。
- 「UXSPi をアップグレードして最新のマシンを検査」ウィンドウが開きます。

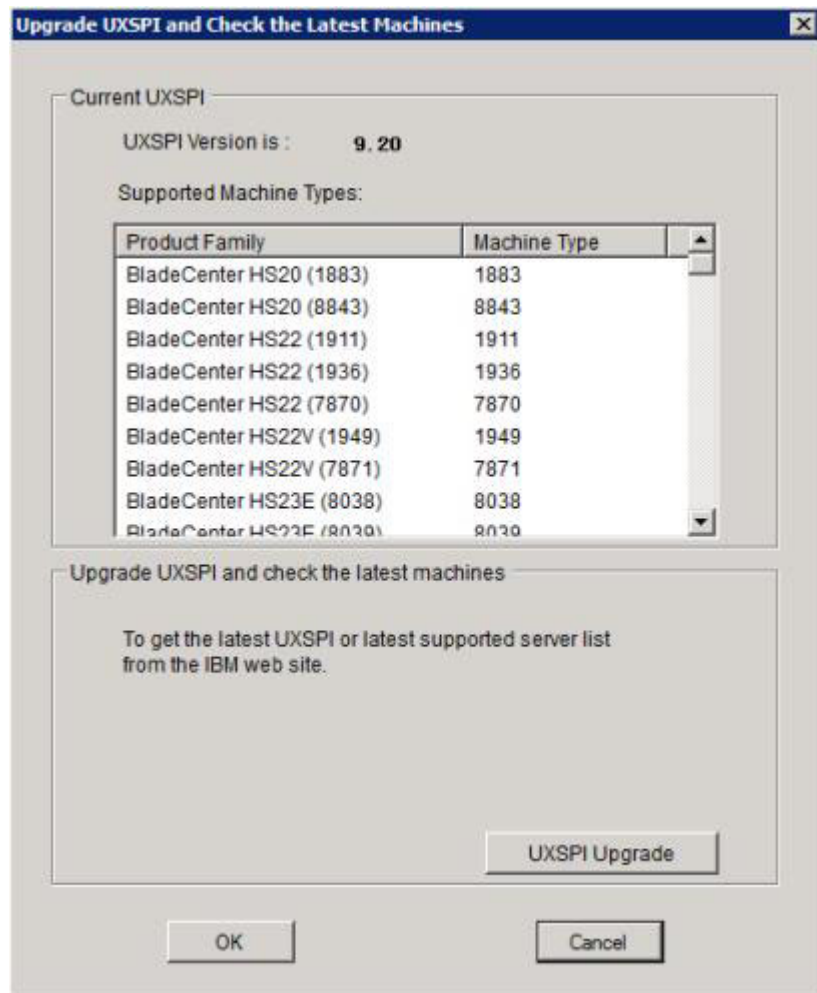


図 22. 「UXSPi をアップグレードして最新のマシンを検査」 リスト

2. 「UXSPI アップグレード」をクリックして先に進みます。「UXSPi ツールをアップグレードして最新のマシンを検査 (Upgrade UXSPi tool and check the latest machine)」リスト状況ウィンドウが開き、「UXSPI のアップグレード中...」が示されます。

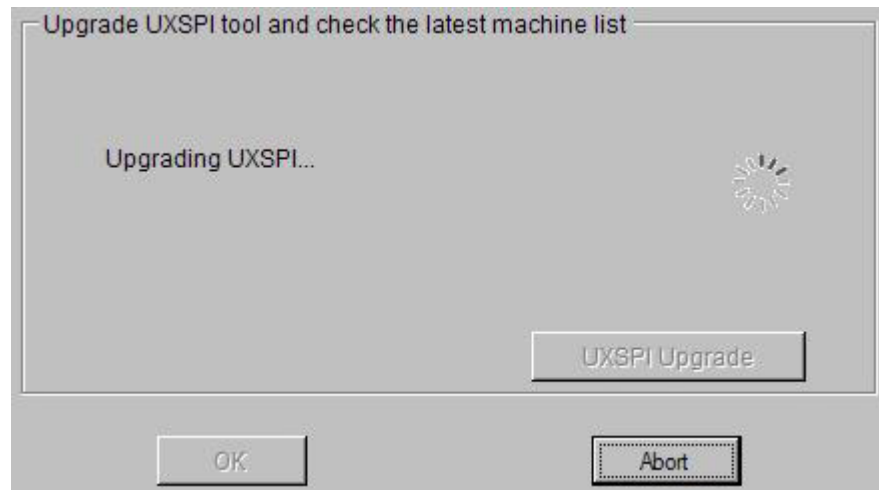


図 23. UXSPI ツールのアップグレードの進行状況を示すウィンドウ

注: UXSPi のアップグレードには、ネットワーク速度に応じて時間がかかります。

UXSPI のアップグレードが正常に完了すると、「**UXSPi をアップグレードして最新のマシンを検査**」リストに新しい UXSPi バージョンが示されます。サポートされる IBM System x サーバーのリストに、IBM Web サイトで入手可能な最新サーバーが入ります。

「All Updates」ビューの使用

「すべての更新」ビューでは、ナビゲーション・ペインに現行マシンのリストが示されます。

このタスクについて

「すべての更新」ビュー・オプションを使用するには、以下の手順を実行してください。

手順

1. 「Home」ビューで、「すべての更新」を展開し、各マシンの更新の状況を表示します。
2. 「すべての更新」の下にリストされている、関連する詳細を表示するマシンを選択します。右ペインに更新情報が表示され、そのマシンに更新がない場合は、次のメッセージが表示されます。

このマシンの更新はありません。(There is no update for this machine.)

IBM Web サイトまたは WSUS サーバーからの更新を確認するか、ローカル・フォルダーから更新をインポートできます。
(You can check updates from IBM website or the WSUS server, or import them from a local folder.) また、以前に更新がダウンロードされ、インポートされている場合は、それらの更新を再ロードできます。
(Or you can reload the updates if they have been downloaded and imported earlier.) 「アクション」ボタンをクリックして、プロセスを開始してください。
(Click the Action button to start the process.)

下図に、「すべての更新」にリストされた 3 つのマシン・タイプを含む例を示します。 BladeCenter HS22 マシンが選択されており、現在更新はありません。



図 24. 更新がないことを示す「All Updates」ビューの例

3. 「アクション」リストをクリックし、「IBM サイトからのすべての更新の検査 (Check all updates from IBM site)」を選択して、更新の検査プロセスを開始します。 次の図は、System x3100 M4 マシンに対して使用可能な更新の例を示しています。

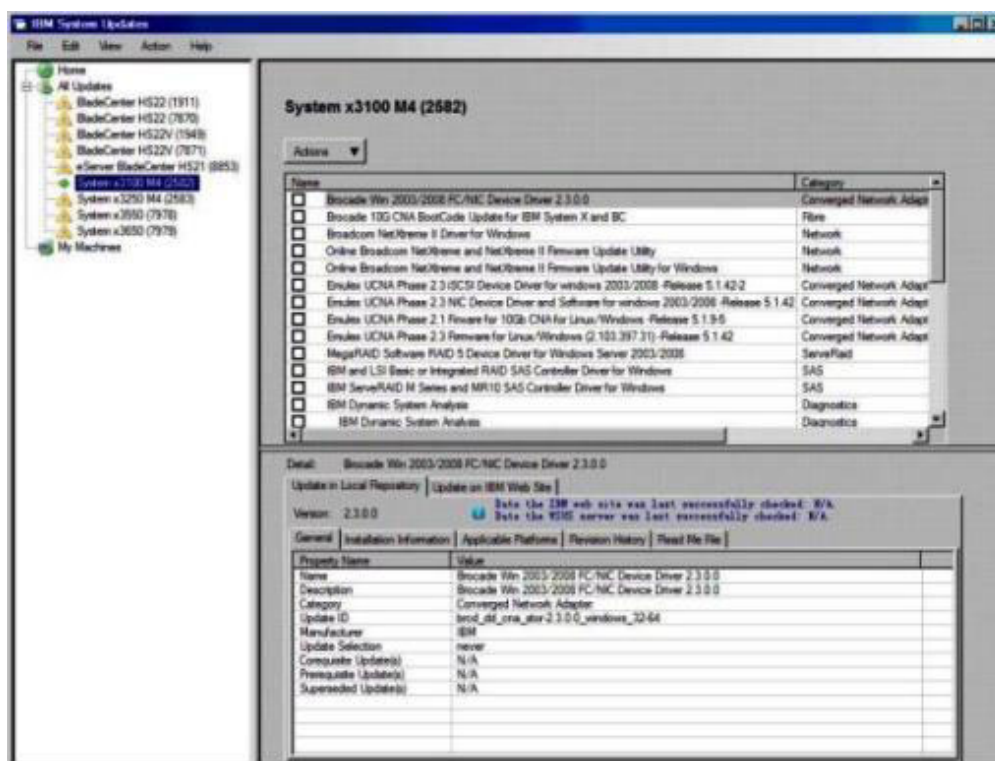


図 25. System x3100 M4 の更新の「すべての更新」ビューの例

4. 右上のペインで、詳細情報を表示する更新を選択します。 更新を選択すると、更新に関して以下のようなより具体的な情報を提供するタブのある、詳細ウィンドウが開きます。
 - 更新バージョン番号
 - IBM Web サイトおよびサーバーで前回検査が正常に行われた日付
 - 各タブにリストされる、更新に関するより具体的な情報

ローカル更新の再ロード

以前に IBM Web サイトから更新をダウンロードした、あるいは同じリポジトリ・パスに更新をインポートした場合は、それらの更新を IBM System Updates Acquisition and Publishing ツールに再ロードすることができます。

「アクション」をクリックし、「ローカル更新の再ロード (Reload local updates)」を選択します。

ローカル・ディレクトリーからの更新のインポート

更新を IBM Web サイトからダウンロードし、それらをローカル・ディレクトリーまたは共有ネットワーク・ロケーションに保存した場合は、「インポート」ウィザードを使用してそれらを IBM System Updates Acquisition and Publishing ツールにインポートすることができます。

更新に関する以下の情報に注意してください。

- 更新パッケージが ZIP ファイルの形式で IBM Web サイトからダウンロードされた場合は、まずその更新パッケージ・ファイルを解凍してください。 IBM System Updates Acquisition and Publishing ツールは、ZIP ファイルの内容が解凍されていることを必要とします。
- 各更新には、バイナリー・ファイル (.exe) とメタデータ・ファイル (.xml) が含まれています。 IBM System Updates Acquisition and Publishing ツールで更新が受け入れられるためには、これらの両方のファイルが必要です。
- 各 IBM System Enablement Pack (SEP) には、ZIP ファイル (.zip) とメタデータ・ファイル (.xml) が含まれています。 IBM System Updates Acquisition and Publishing ツールで更新が受け入れられるためには、これらの両方のファイルが必要です。

「インポート」ウィザードを使用した更新のインポート:

Import Wizard は、ローカル・ディレクトリーまたは共有ネットワーク・ロケーションから更新をインポートします。

このタスクについて

この更新には、個別の更新、シーケンス・パッケージ、あるいは UpdateXpress System Packs を使用することができます。

手順

1. 「インポート」ウィザードを開始するには、ナビゲーション・ペインの「コンピューター名」をクリックし、「アクション」リストから「更新をローカル・サイトからインポート (Import updates from local site)」を選択します。「Import Wizard」のウェルカム・ページが開きます。

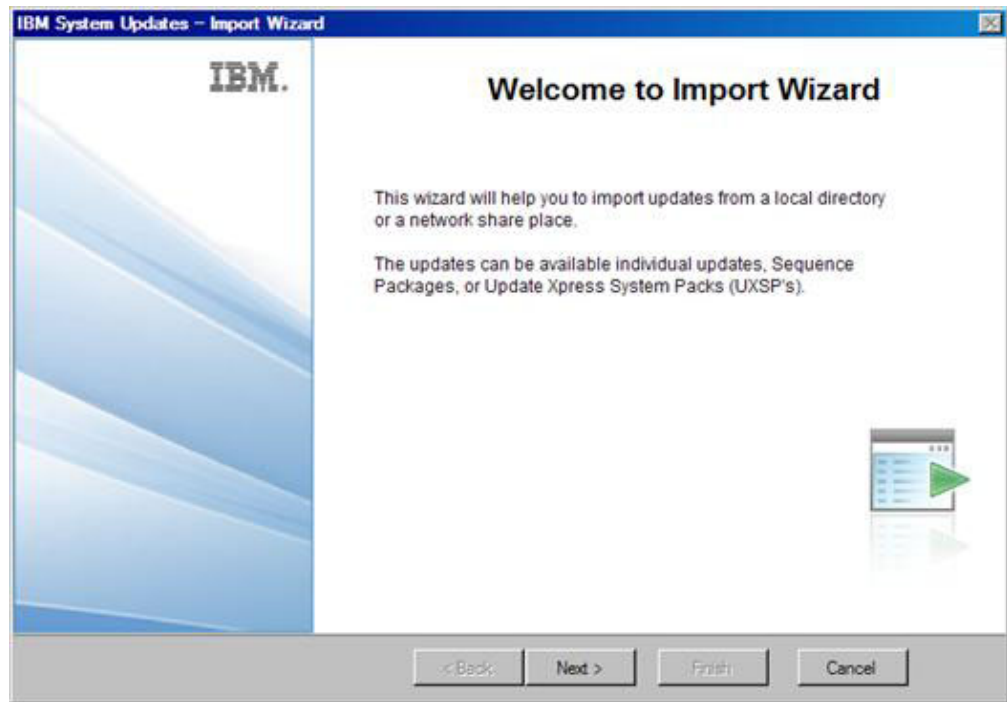


図 26. 「Import Wizard」のウェルカム・ページ

2. 「Next」をクリックして先に進みます。「Select Updates Source」ページが開きます。

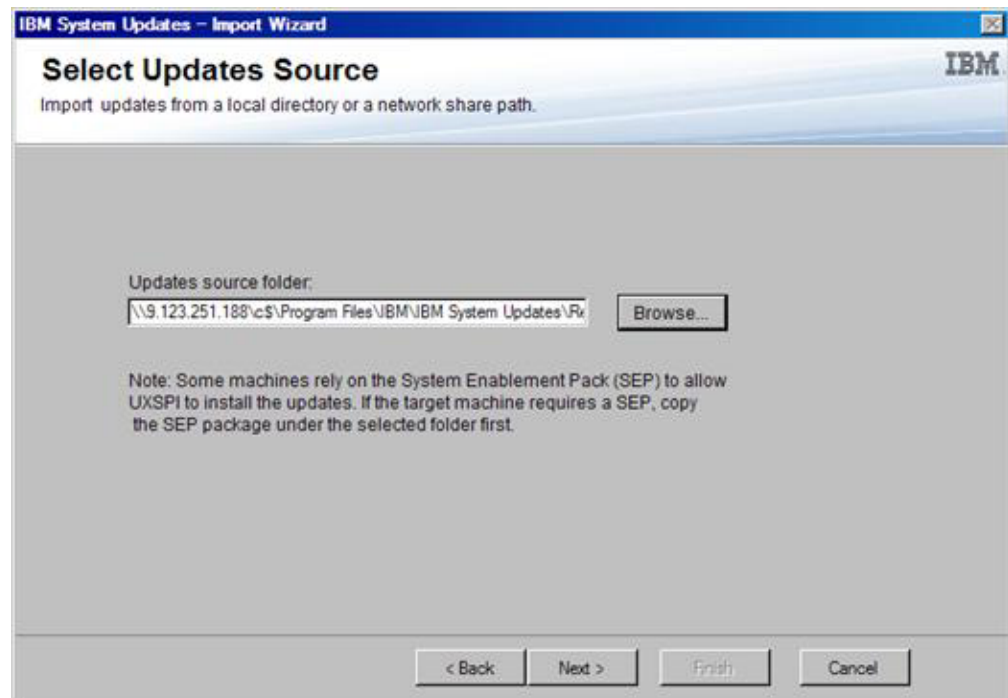


図 27. 更新ソースの選択

3. 「参照」をクリックし、「更新ソース・フォルダー」を選択して、「次へ」をクリックします。

注: IBM System Updates Acquisition and Publishing ツールは、更新をルート・パスにインポートします。サブディレクトリーにある更新はインポートされません。これらのファイルをインポートするには、「インポート」ウィザードを再度実行し、「更新の選択」ページでサブディレクトリーを選択します。

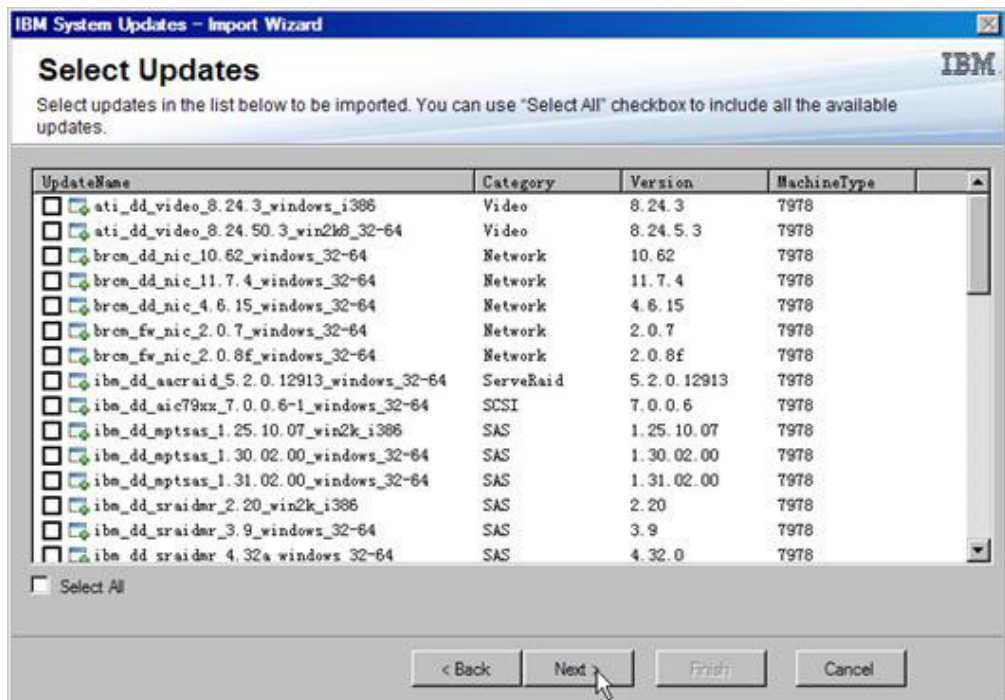


図 28. 更新の選択

- 「更新の選択」ページで、個々の更新を選択するか、「すべて選択」チェック・ボックスを選択して選択可能なすべての更新を選択することができます。
「Next」をクリックして、IBM System Updates ローカル・リポジトリへの更新のインポートを開始します。「更新のインポート中」ページに、インポート操作の進行状況が示されます。

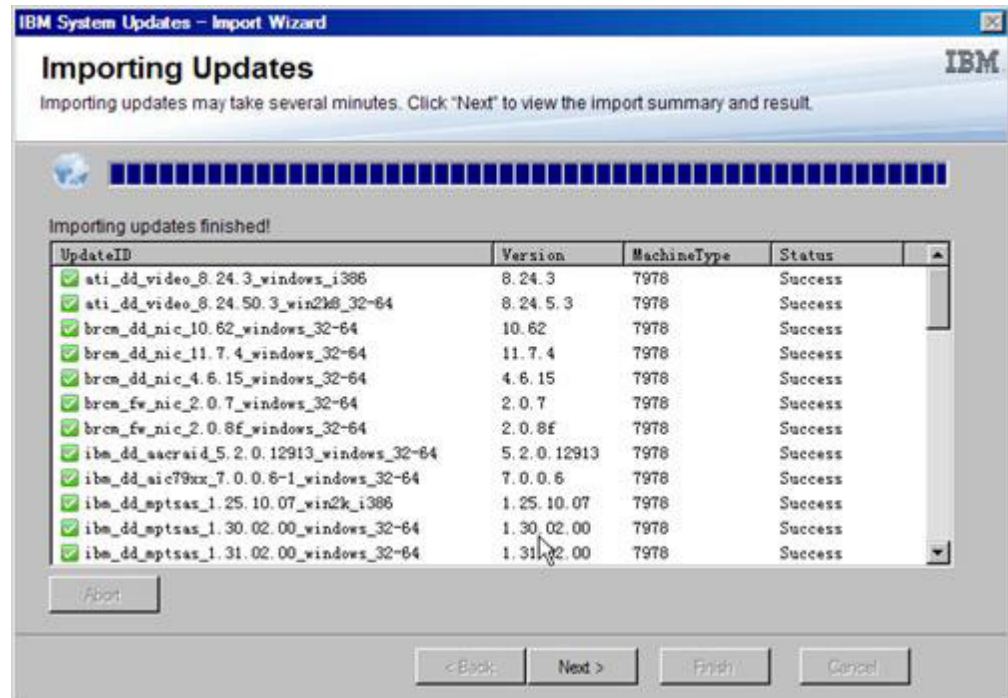


図 29. 「Importing Updates」 ページ

5. 更新のインポートが正常に完了したら、「Next」をクリックして、インポートされた更新の要約を表示します。「インポートが完了しました」ページにインポートの状況が表示され、インポートされた更新数と、それらの更新のリストが表示されます。

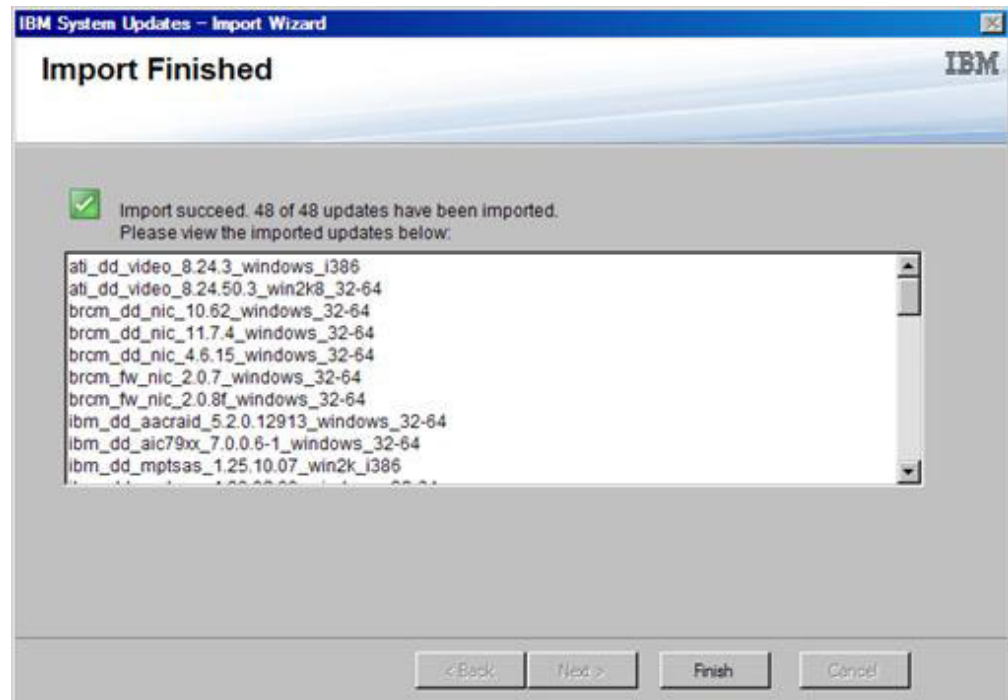


図 30. インポートが完了しました

6. 「完了」をクリックします。

IBM Web サイトからのすべての更新の検査

このトピックでは、IBM Web サイトから、特定のマシン・タイプのすべての更新を検査する方法について説明します。

このタスクについて

この作業を行うには、インターネットへのネットワーク接続と製品ライセンスが必要です。 HTTP プロキシを使用してインターネットにアクセスすることも、インターネットに直接接続することも可能です。

IBM Web サイトからの更新を検査するには、次の 2 つのオプションがあります。

- **IBM サイトからのすべての更新を検査 (Check all updates from IBM site)** するには、ステップ 1 を実行します。
- **IBM からの選択した更新を検査 (Check selected updates from IBM)** するには、ステップ 2 を実行します。

手順

1. ナビゲーション・ペインで「コンピューター名」をクリックし、「アクション」リストをクリックして、「**IBM サイトからのすべての更新の検査 (Check all updates from IBM site)**」を選択します。 このアクションにより、IBM Web サイトにある特定のマシン・タイプに関連するすべての更新の検査が実行されます。
2. ナビゲーション・ペインで「コンピューター名」をクリックします。右ペインに何らかの更新がリストされている場合は、リスト・ビューからそれらの更新を 1 つ以上選択します。(複数の更新を選択する場合は、**Ctrl** または **Shift** を押します。)「**IBM からの選択した更新の検査 (Check selected updates from IBM)**」を「アクション」リストから選択します。 このアクションにより、IBM Web サイトにある特定のマシン・タイプに関連する選択された更新の検査が実行されます。

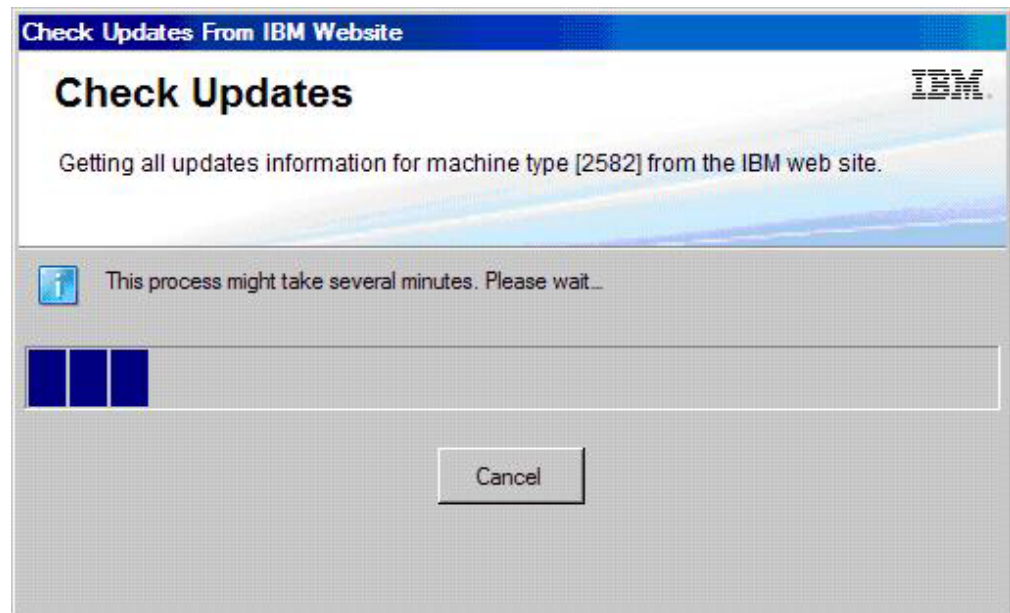


図 31. IBM Web サイトからすべての更新を検査

この処理は、完了までに数分かかります。

「更新の検査」プロセスが完了すると、IBM サイト行の更新のバージョンが更新され、更新に関する詳細情報が示されます。IBM サイト上のバージョンがローカル・リポジトリ上のバージョンより新しい場合は、更新名の横に青いアイコンが表示され、古いバージョンを示す警告メッセージが表示されます。

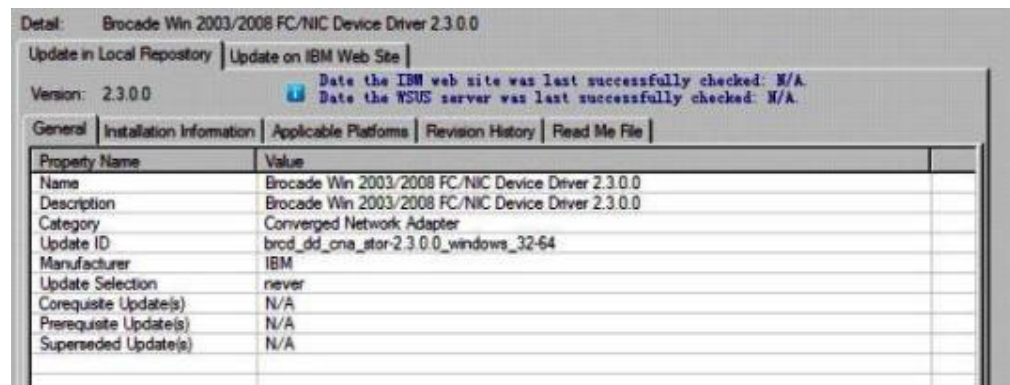


図 32. 「General」タブの詳細情報が表示された更新ビュー

「全般」タブには以下のプロパティのリストがあります。このタブは、「更新」ビューの右下のペインに表示されます。

- 名前
- 説明
- カテゴリー
- 更新 ID
- 製造元
- 更新の選択

- 相互に必要な更新
- 前提条件の更新
- 置き換えられる更新



図 33. 「適用可能なプラットフォーム」タブの「更新」ビュー

「適用可能なプラットフォーム」タブには、アプリケーション・オペレーティング・システムの更新のリストがあります。

IBM Web サイトからの選択した更新のダウンロード

このトピックでは、選択した更新の最新バージョンを IBM Web サイトからダウンロードする方法について説明します。IBM Web サイトで検査が完了した更新（リモート更新と呼ばれます）のみを、ダウンロード対象として選択できます。

始める前に

この操作を行うには、インターネットへのネットワーク接続とライセンスが必要です。HTTP プロキシを使用してインターネットにアクセスすることも、インターネットに直接接続することも可能です。

このタスクについて

UpdateXpress System Package は、各 System x および BladeCenter サーバーごとに、更新可能なオンライン・ファームウェアとデバイス・ドライバ更新の統合テスト済みバンドルを備えています。

最新の個別の更新をダウンロードすることは、最新の更新をインストールする場合に推奨される方法です。このオプションを使用すると、UXSP オプションより最新の更新およびホット・フィックス（使用可能なものがある場合）をダウンロードすることができます。

手順

1. ダウンロード対象として、個々の更新を選択するか、**Ctrl** または **Shift** を押したまま複数の更新を選択します。
2. 「アクション」リストから、「**選択した更新を IBM Web サイトからダウンロード (Download Selected updates from IBM website)**」を選択します。「ダウンロード」ウィザードが開始されます。

「ダウンロード (Download)」ウィザードの使用:

選択した更新を IBM Web サイトからダウンロードするには、「ダウンロード (Download)」ウィザードを使用します。

手順

1. 「アクション」リストから、「**選択した更新を IBM Web サイトからダウンロード (Download Selected updates from IBM website)**」を選択します。「ダウンロード (Download)」ウィザードが起動し、更新のダウンロード操作が開始されます。

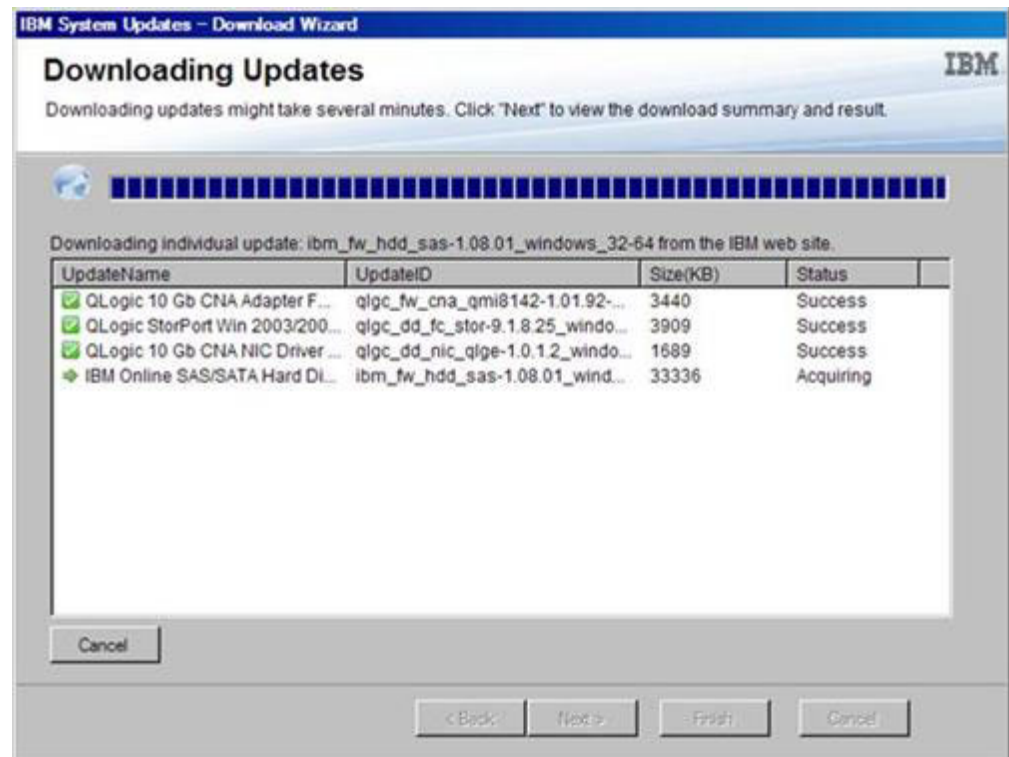


図 34. 更新のダウンロード中

ダウンロードが完了したら、サマリー・ページにダウンロード状況が表示されます。

2. 「完了」をクリックします。

選択した更新のダウンロードおよびそれらの更新の Windows Server Update Services サーバーへの公開

このトピックでは、選択した更新の最新バージョンをダウンロードし、その更新を Windows Server Update Services (WSUS) サーバーに直接パブリッシュする方法について説明します。

始める前に

更新のダウンロードおよびそれらの更新の WSUS への公開を始める前に、公開環境を準備する必要があります。詳しくは、18 ページの『Windows Server Update Services サーバーでの Secure Sockets Layer の使用 (オプション)』を参照してください。

このタスクについて

この操作を行うには、インターネットへのネットワーク接続とライセンスが必要です。HTTP プロキシを使用してインターネットにアクセスすることも、インターネットに直接接続することも可能です。

注: IBM Web サイトで検索済みの更新のみを、ダウンロード対象として選択できます。

手順

1. 個々の更新を選択するか、**Ctrl** または **Shift** を押したまま複数の更新を選択します。
2. 「アクション」リストから、「**選択した更新を IBM Web サイトからダウンロード (Download Selected updates from IBM website)**」を選択します。「ダウンロードおよび公開 (Download and Publish)」ウィザードが開始されます。

Download and Publish Wizard の使用:

ダウンロードおよび公開ウィザードを使用して、選択した更新を WSUS に公開することができます。

このタスクについて

ダウンロードおよび公開する個々の更新、または複数の更新を選択すると、「ダウンロードおよび公開 (Download and Publish)」ウィザードが開始されます。

手順

1. 「I accept the terms in the license agreement」をクリックします。

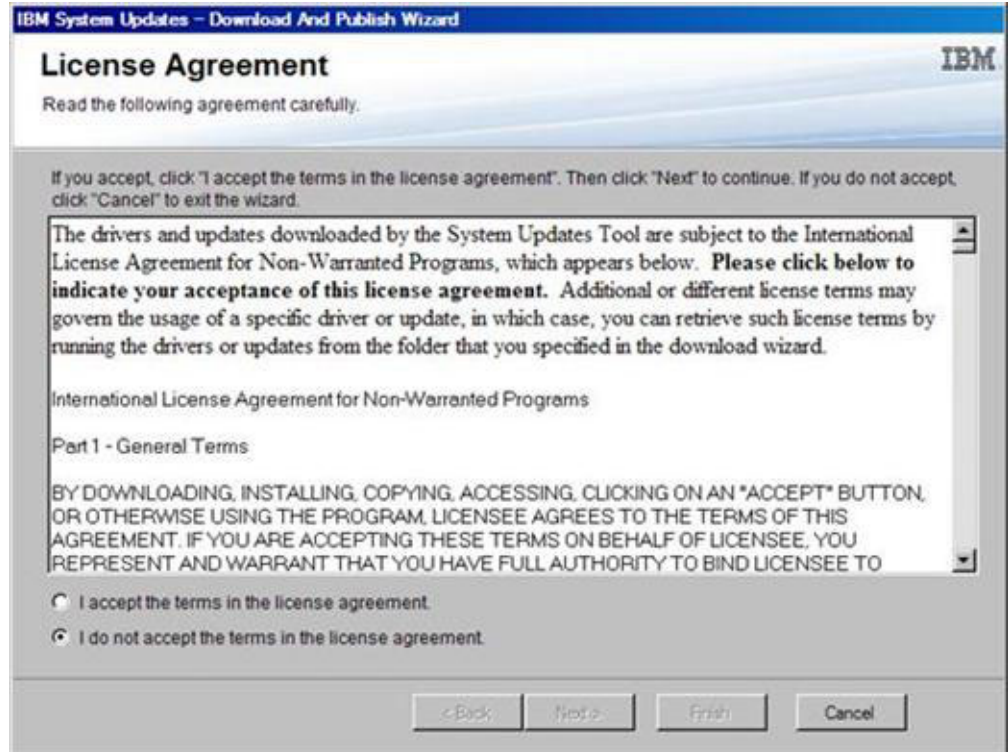


図 35. 「Publish Wizard」の「License Agreement」ページ

2. 「Next」をクリックして更新のダウンロードを開始します。

更新のダウンロード操作は完了までに数分かかります。

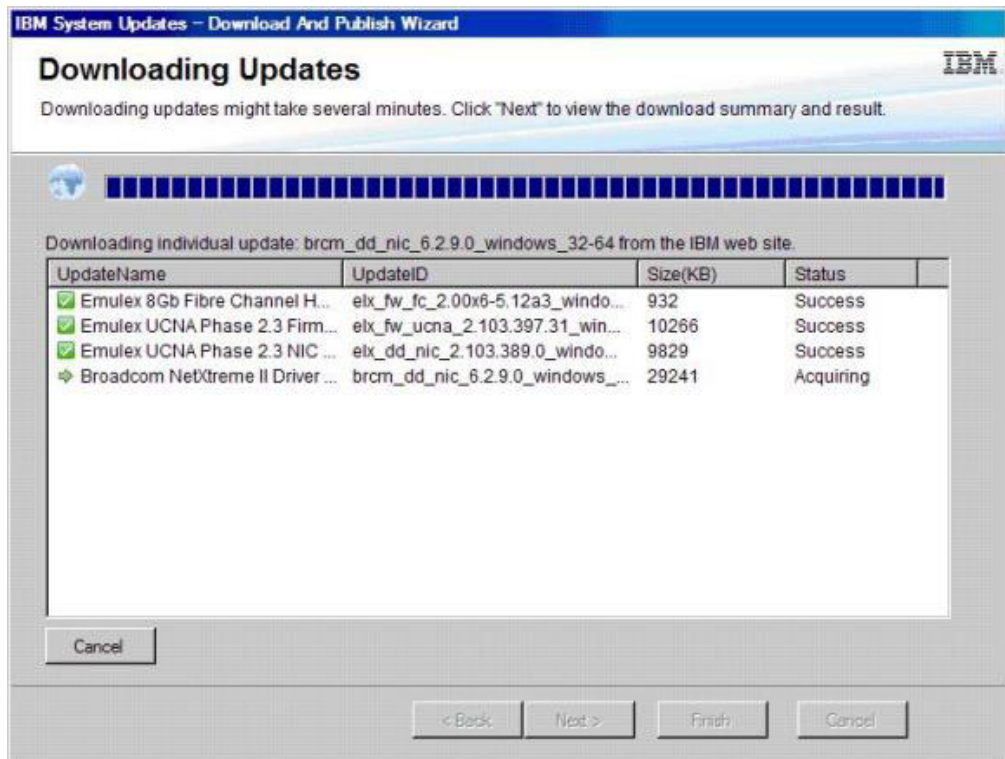


図 36. 更新のダウンロード中

更新のダウンロードが完了すると、ダウンロード状況が要約ページに表示されます。

3. 「次へ (Next)」をクリックします。
4. 次の図に示すように、「Confirm Updates Packages」ページで、リストされたすべての更新について、WSUS サーバーにパブリッシュする準備が完了していることを確認します。

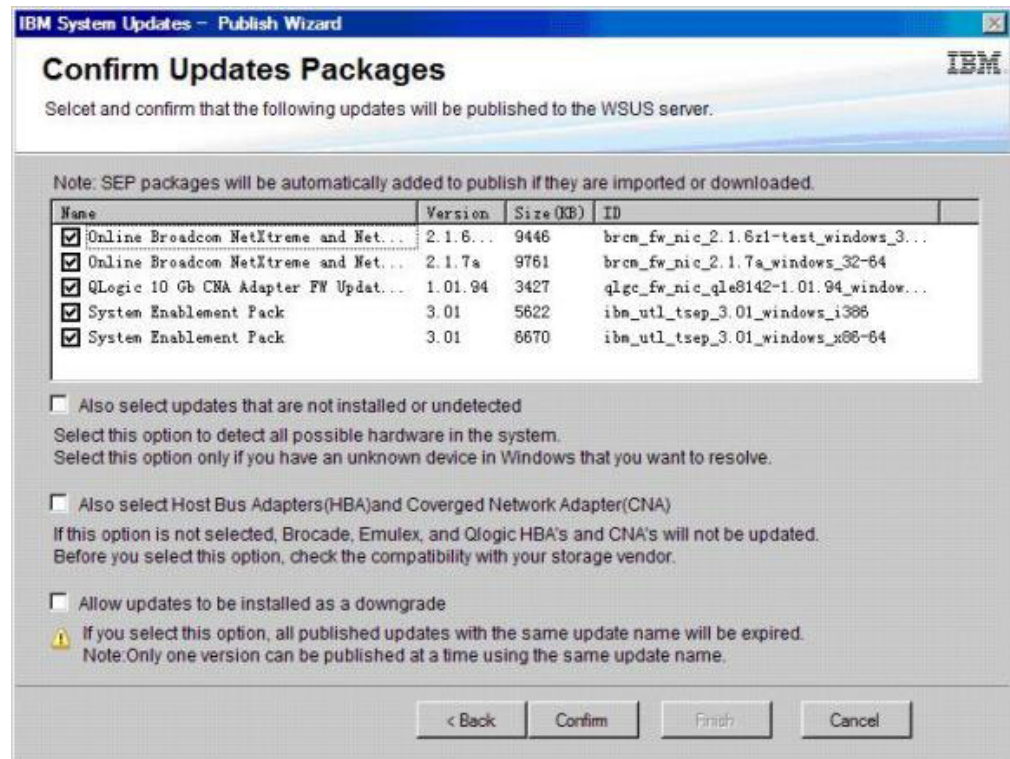


図 37. 更新パッケージの確認

5. 次のオプションのいずれかを選択してください。

- 「**Also select updates that are not installed or are undetected**」。このオプションは、システム内のすべての可能なハードウェアの検出を試行します。このオプションは、解決する必要がある不明なデバイスが Windows にある場合にのみ選択してください。
- 「**Also select Host Bus Adapters (HBA) and Covered Network Adapter (CNA)**」。このオプションを選択しない場合、Brocade、Emulex、および Qlogic の HBA および CNA は更新されません。このオプションを選択する前に、ストレージ・ベンダーとの互換性を確認してください。
- 「**Allow updates to be installed as a downgrade**」。このオプションは、システム内のハードウェアに対して、ダウングレード・バージョンのファームウェアまたはドライバのインストールを試行します。このオプションは、より高いバージョンの更新が既にインストールされている可能性があるときに、更新をインストールしたい場合にのみ選択してください。

6. 「**Confirm**」をクリックして、パブリッシュの結果を表示します。「Publishing Updates」ページが表示されます。この操作は完了までに数分かかります。

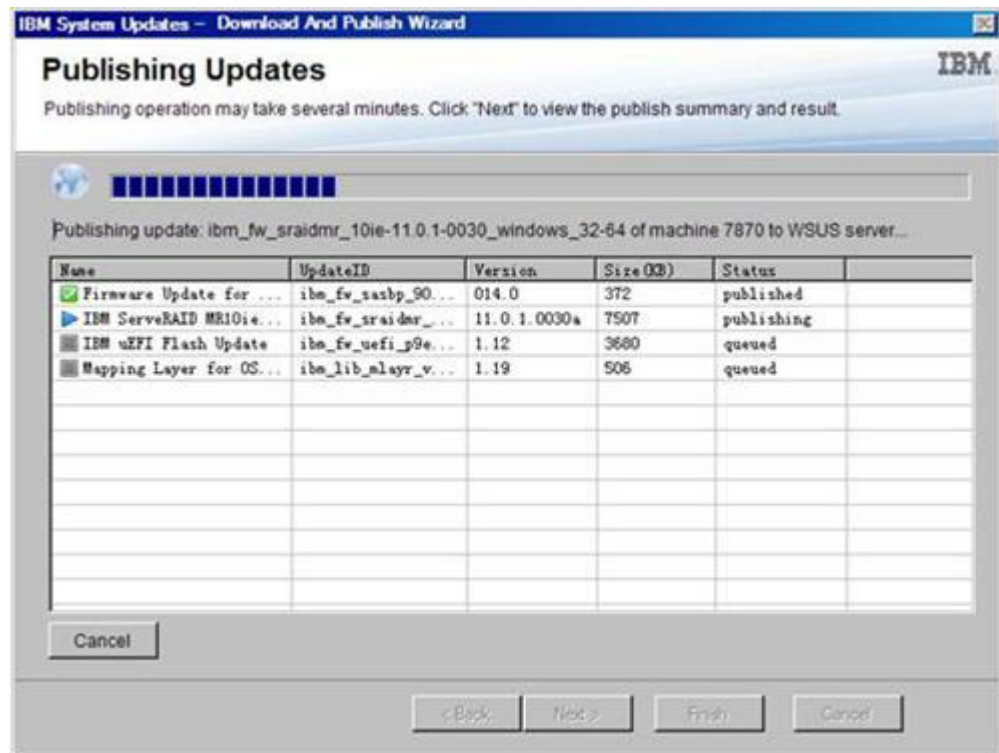


図 38. 「Publishing Updates」 ページ

「Publishing operation is complete」ページには、パブリッシュの結果が表示され、WSUS サーバーに正常にパブリッシュされた更新の数が表示されます。パブリッシュされなかった更新がある場合は、リストされます。

7. 「**Finish**」をクリックします。

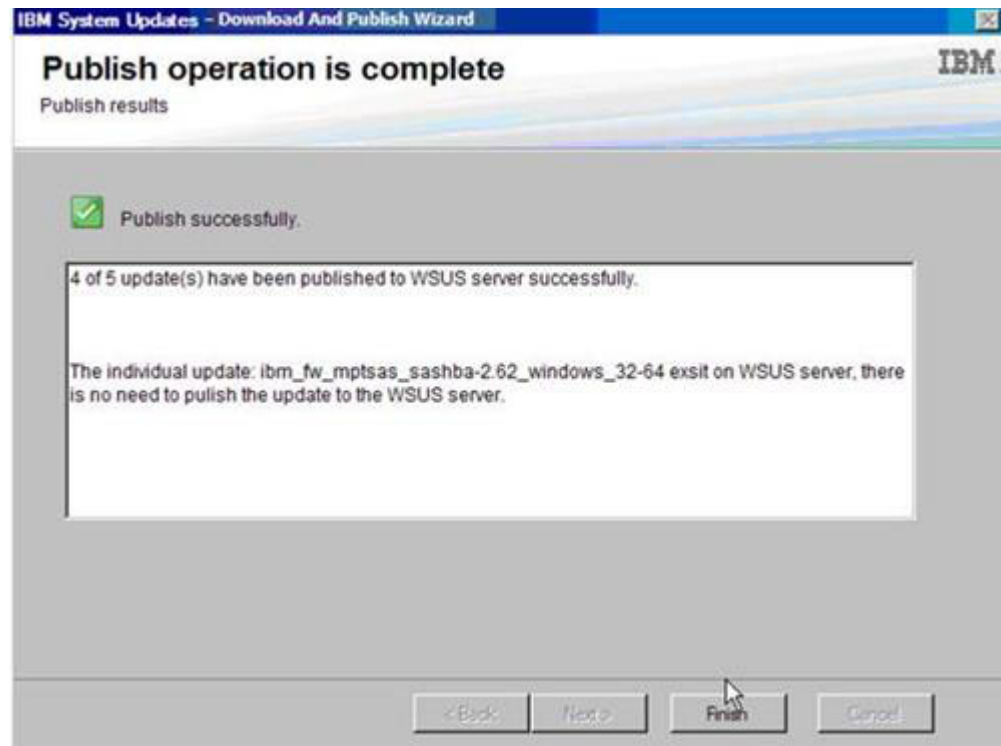


図 39. 「Publish operation is complete」 ページ

選択した更新を Windows Server Update Services サーバーに公開

このトピックでは、選択した更新を Windows Server Update Services (WSUS) サーバーに公開する方法について説明します。

始める前に

IBM 更新をパブリッシュする前に、WSUS サーバーおよび証明書が正しく構成されていることを確認してください。詳しくは、17 ページの『Windows Server Update Services サーバーの構成』を参照してください。

このタスクについて

この操作を行うには、インターネットへのネットワーク接続とライセンスが必要です。HTTP プロキシを使用してインターネットにアクセスすることも、インターネットに直接接続することも可能です。WSUS サーバーの構成について詳しくは、17 ページの『「セットアップ (Setup)」ウィザード』を参照してください。

「公開 (Publish)」ウィザードの使用:

このトピックでは、「公開 (Publish)」ウィザードの使用方法について説明し、ターゲットの Windows Server Update Services サーバーに更新を公開する手順を示します。

手順

1. ダウンロード対象として、個々の更新を選択するか、**Ctrl** または **Shift** を押したまま複数の更新を選択します。
2. 「アクション」リストから、「**選択した更新を WSUS に公開 (Publish Selected updates to WSUS)**」を選択して、「公開」ウィザードを開始します。

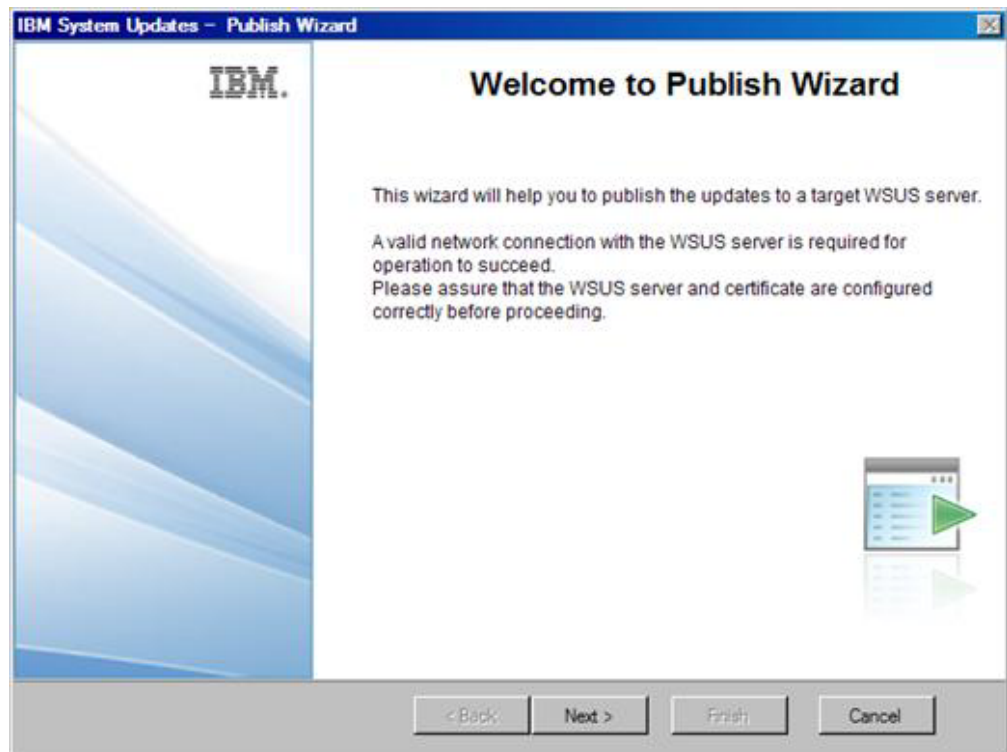


図 40. 「Publish Wizard」のウェルカム・ページ

3. 44 ページの『Download and Publish Wizard の使用』の手順を完了します。

更新シーケンスの作成

1 つのシーケンス・パッケージ内に複数のローカル更新を編成することができます。シーケンス・パッケージは、更新をラップしており、それらの更新をクライアント・マシンに展開します。UpdateXpress System Pack Installer によってシーケンス・パッケージがインストールされる際に、自動的に更新のインストール順序が決定されます。

別のデプロイメント用にシーケンス・パッケージを保存または再インポートできます。下図は、my first sequence.xml というシーケンスを保存する例です。

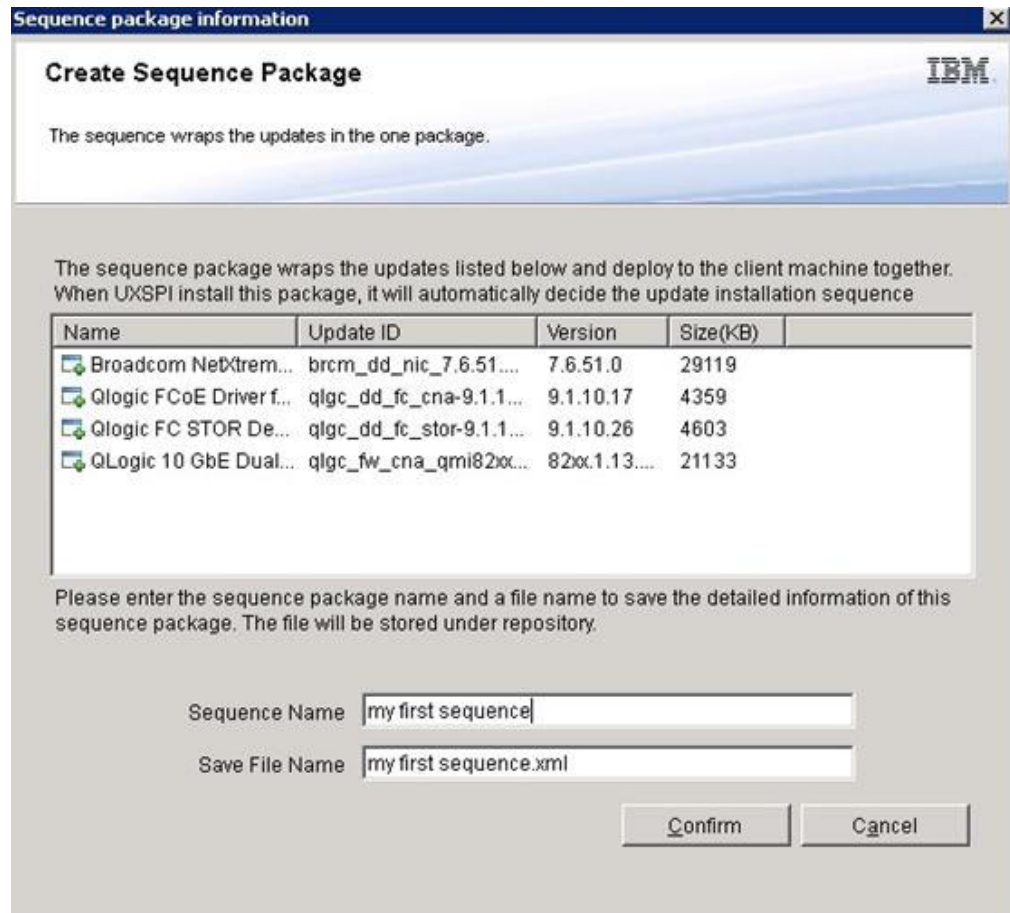


図 41. シーケンス・パッケージの作成

更新リストには、入手可能な更新のリストと、保存されたシーケンス「my first sequence」が含まれています。

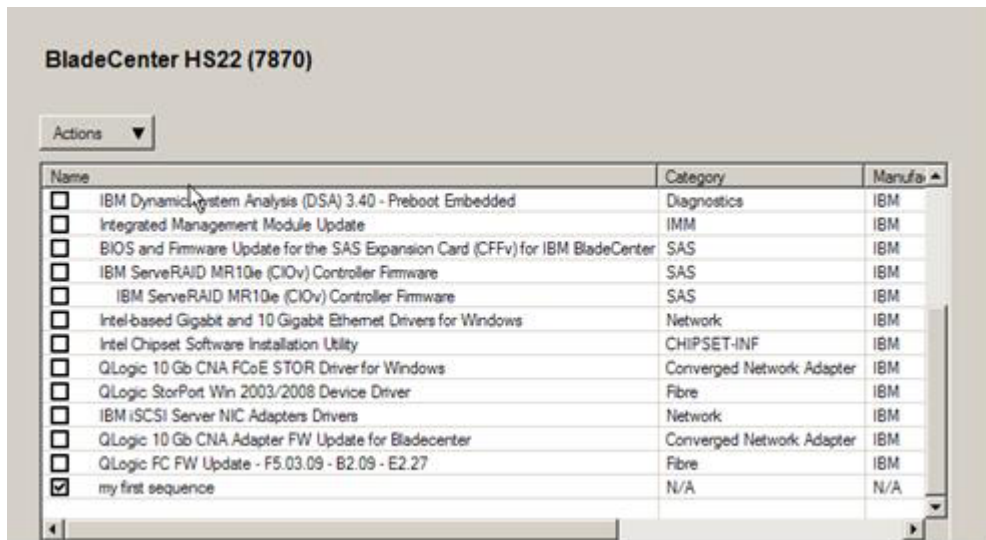


図 42. 保存されたシーケンス・パッケージのある更新リスト

「**my first sequence**」を選択して、そのシーケンス更新パッケージの具体的な情報を表示します。

詳細ウィンドウの「**全般**」タブに、シーケンス・パッケージのプロパティのリストが表示されます。

更新 ID には、シーケンスの名前、日付、および固有 ID が含まれます。



図 43. シーケンス更新の「General」タブ

「個別の更新」タブには、下図のように、更新の順次リストが表示されます。

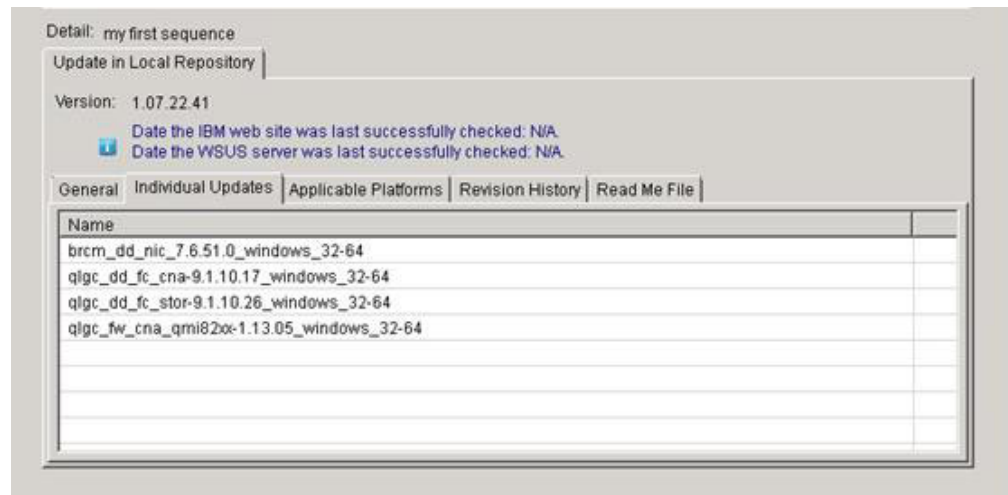


図 44. 「Individual Updates」 タブ

Windows Server Update Services 更新の検査

このセクションのトピックでは、Windows Server Update Services (WSUS) サーバーからの更新を検査する方法について説明します。

WSUS サーバーからの更新を検査するには、次の 2 つの方法があります。

- Windows Server Update Services からのすべての更新を検査します。
- Windows Server Update Services からの選択した更新を検査します。

Windows Server Update Services からのすべての更新の検査:

このトピックでは、Windows Server Update Services (WSUS) からのすべての更新を検査する方法について説明します。

このタスクについて

この操作を行うには、インターネットへのネットワーク接続とライセンスが必要です。 HTTP プロキシを使用してインターネットにアクセスすることも、インターネットに直接接続することも可能です。

手順

1. ナビゲーション・ペインで、「コンピューター名」をクリックします。
2. 「アクション」リストで、「WSUS からのすべての更新の検査 (Check all updates from WSUS)」を選択します。

「WSUS からのすべての更新の検査」操作は完了までに数分かかります。操作の実行中には、進行状況ウィンドウが表示されます。

Windows Server Update Services からの選択した更新の検査:

このトピックでは、Windows Server Update Services (WSUS) サーバーからの選択した更新の有無を検査する方法について説明します。

このタスクについて

この作業を行うには、インターネットへのネットワーク接続と製品ライセンスが必要です。 HTTP プロキシを使用してインターネットにアクセスすることも、インターネットに直接接続することも可能です。

手順

1. ナビゲーション・ペインで、「コンピューター名」をクリックします。
2. 「アクション」リストで、「WSUS サーバーからの選択した更新の検査 (Check selected updates from WSUS server)」を選択します。

「WSUS サーバーからの選択した更新の検査」操作の実行中には、進行状況ウィンドウが表示されます。この操作は、完了までに数分かかります。

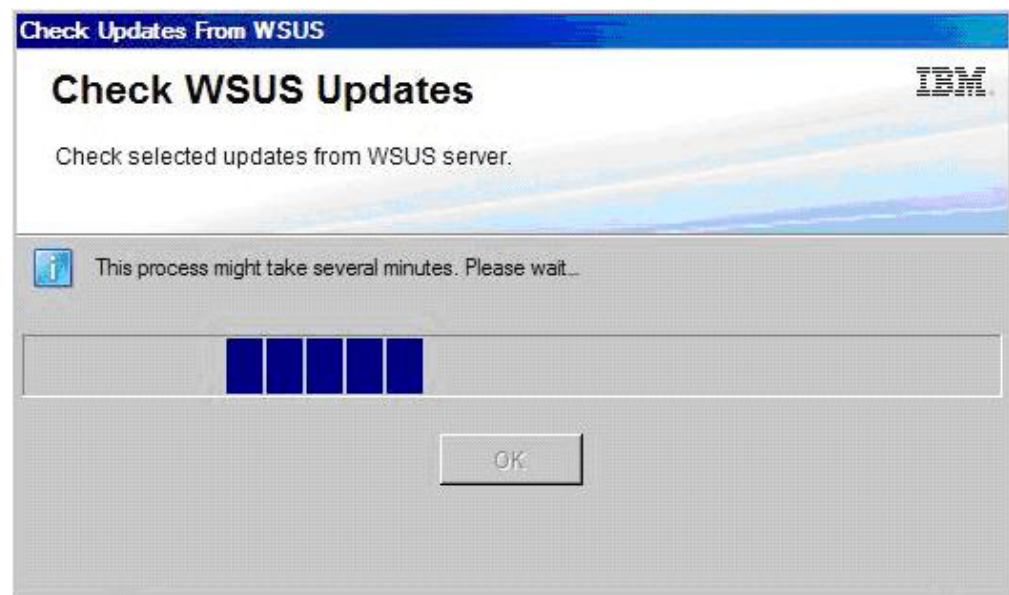


図 45. WSUS からの選択した更新の検査

WSUS サーバー上の更新のバージョンが確認されると、WSUS 欄のバージョンが更新されます。「Update on WSUS Server」タブには、更新の一般情報および WSUS 上のパッケージの情報が表示されます。

Windows Server Update Services からの選択した更新を期限切れにする

このトピックでは、Windows Server Update Services (WSUS) からの選択した更新を有効期限切れにする方法について説明します。

このタスクについて

この操作を行うには、インターネットへのネットワーク接続とライセンスが必要です。 HTTP プロキシを使用してインターネットにアクセスすることも、インターネットに直接接続することも可能です。 WSUS サーバーの構成について詳しくは、17 ページの『「セットアップ (Setup)」ウィザード』を参照してください。

重要: 更新を有効期限切れにするオプションは、ロールバックすることができません。

手順

- 1 つまたは複数の更新を選択して「OK」をクリックします。

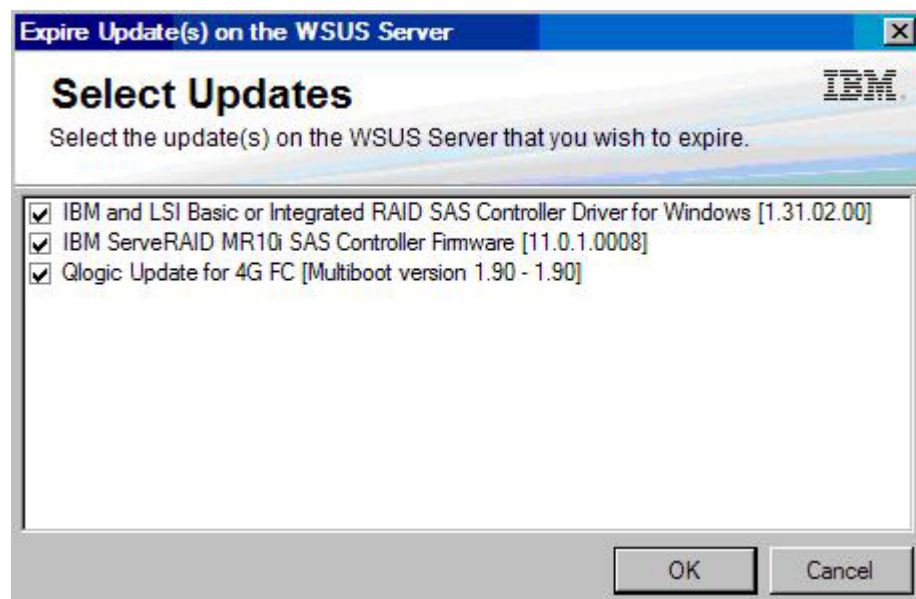


図 46. WSUS サーバー上の更新を有効期限切れにする

2. 「アクション」リストから、「選択した更新を WSUS に対して期限切れにする (Expire Selected updates to WSUS)」を選択します。「期限切れ (Expire)」ウィザードが開きます。

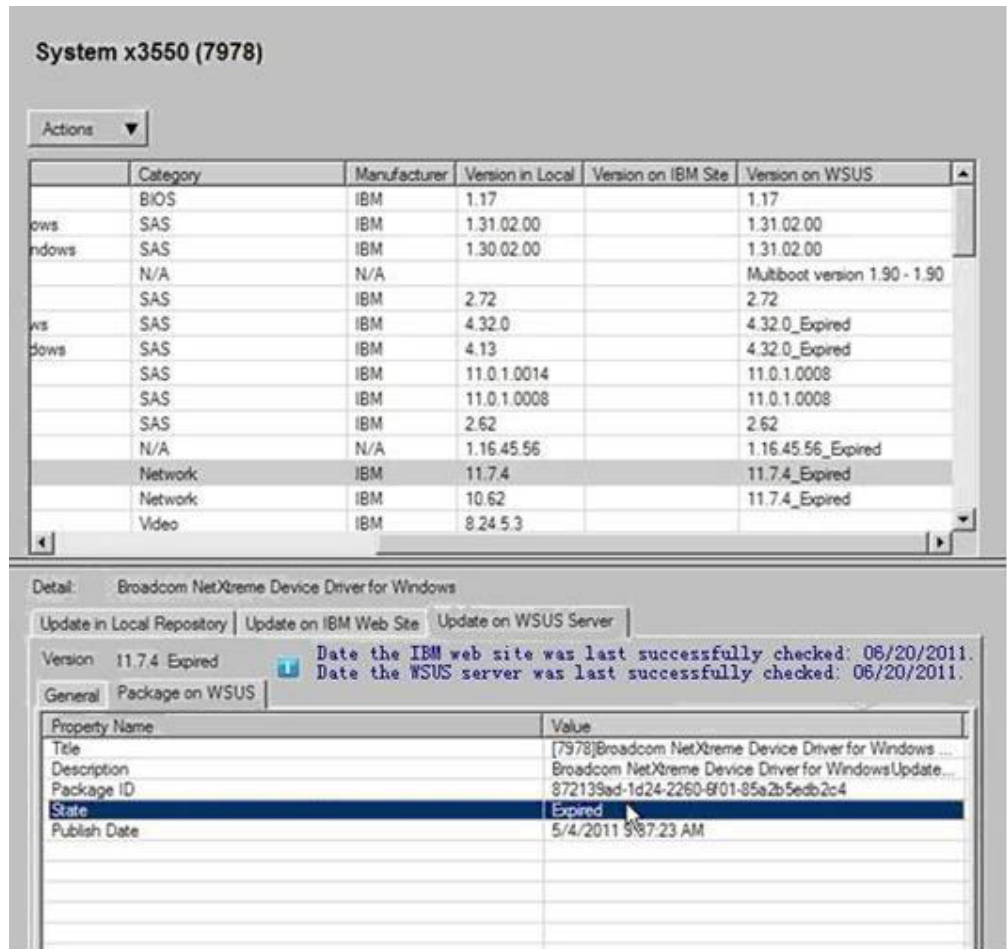


図 47. 有効期限切れになった更新の詳細ビュー

期限切れにする操作が完了すると、バージョンが *Version Number_Expired* に更新されます。「WSUS での更新 (Update on the WSUS)」タブ上の詳細情報が更新され、*State* プロパティ値が *Expired* に変更されます。

Windows Server Update Services からの選択した更新を期限切れにする (ライセンスなし)

有効なライセンスがない場合、有料のソリューションとは別の方法を使用して、Windows Server Update Services (WSUS) サーバーに対して選択した更新を有効期限切れにすることができます。選択した更新がまだ WSUS サーバーに公開されていない場合、更新を期限切れにするアクションは失敗します。

手順

1. 期限切れにする対象として、個々の更新または複数の更新を選択します。
2. 「アクション」リストから、「選択した更新を WSUS に対して期限切れにする (Expire Selected updates to WSUS)」を選択します。「期限切れウィザードのご使用条件 (Expire Wizard License Agreement)」ページが表示されます。



図 48. 期限切れウィザードのご使用条件 (Expire Wizard License Agreement)

3. 「使用条件の条項に同意します (I accept the terms in the license agreement)」をクリックし、「次へ」をクリックして選択した更新を期限切れにする操作に進みます。「期限切れ (Expire)」ウィザードが開きます。

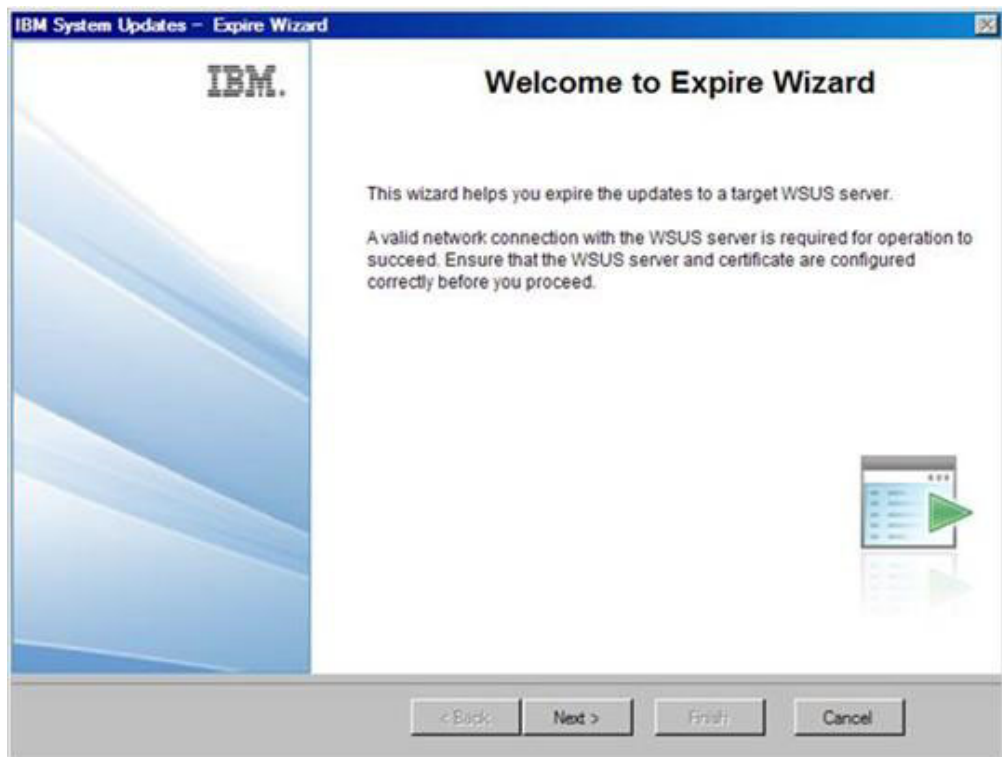


図 49. 「Expire Wizard」のウェルカム・ページ

4. 「次へ (Next)」をクリックします。「期限切れウィザードの更新パッケージの確認 (Expire Wizard Confirm update packages)」ページが開きます。

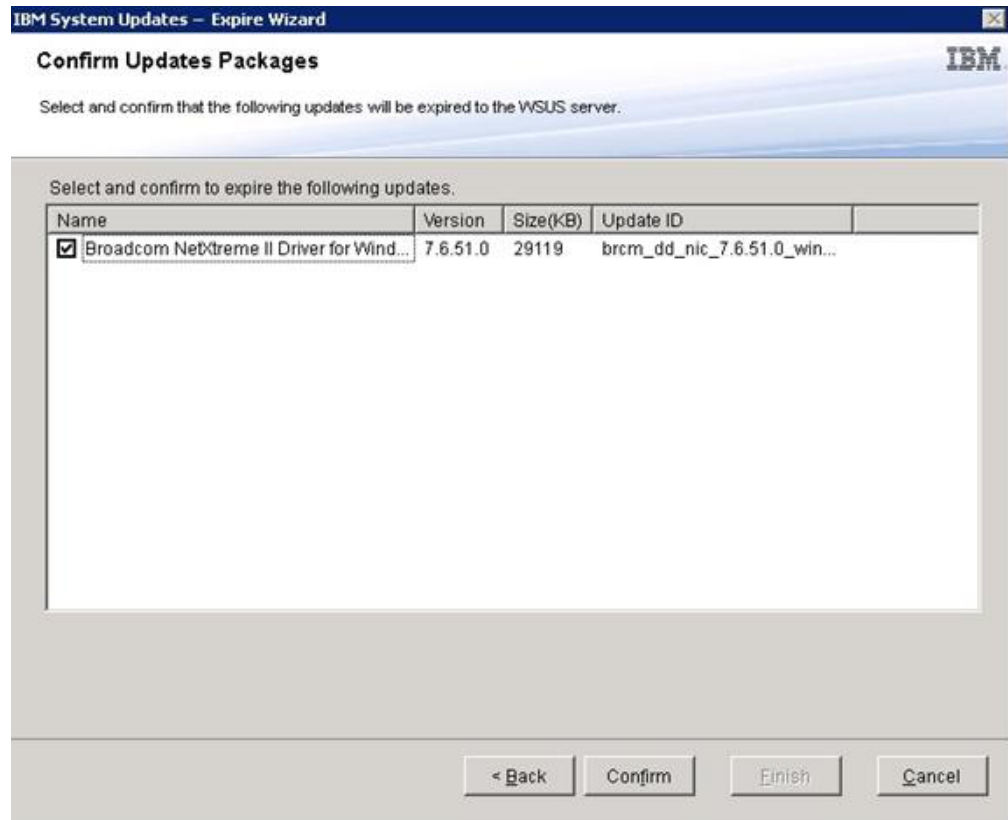


図 50. 期限切れウィザードの更新パッケージの確認 (Expire Wizard Confirm update packages)

5. 「確認」をクリックして現在の期限切れ選択内容を確認するか、「戻る (Back)」をクリックして期限切れにする更新の前の選択を変更します。更新を期限切れにする操作が完了すると、更新の期限切れ状況が表示されます。



- 60 IBM System Updates for Microsoft System Center Configuration Manager v5.0 ユーザーズ・ガイド

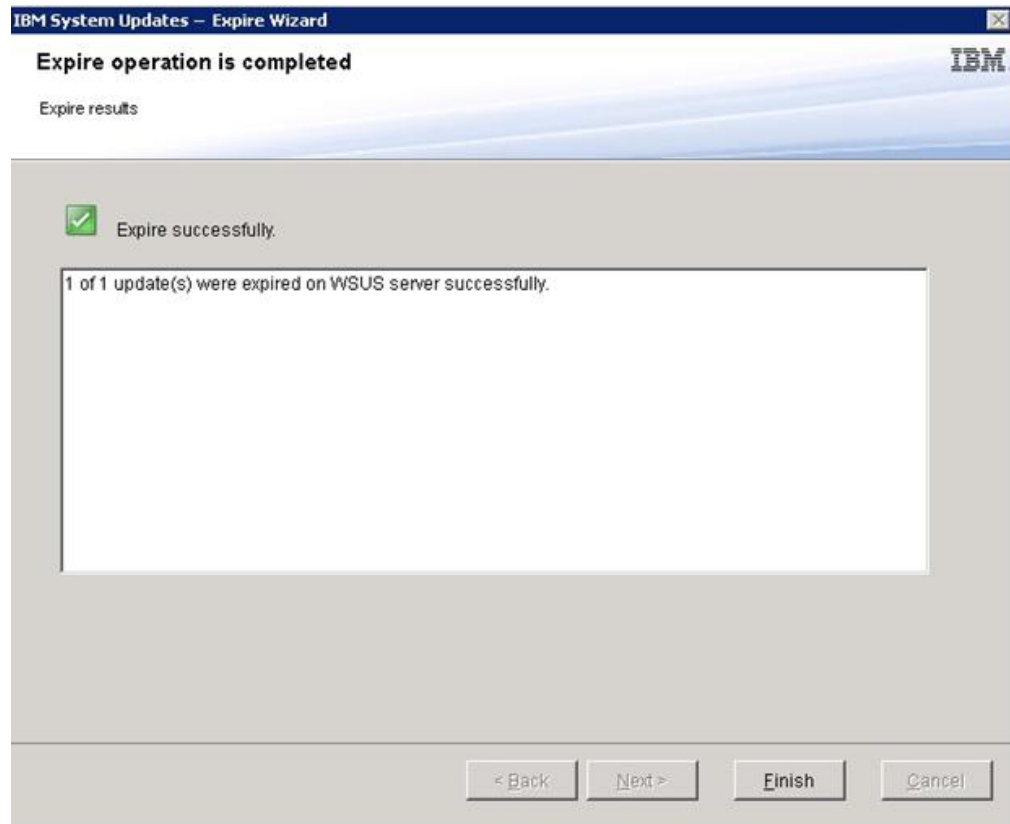


図 52. 期限切れ操作結果

7. 「終了 (Finish)」をクリックして、「期限切れ (Expire)」ウィザードを終了します。

選択した更新の削除

選択した更新を IBM 更新リポジトリから削除することができます。

「マシン名」をクリックし、「アクション」リストから「選択した更新の削除 (Delete selected updates)」を選択します。

「マイ・マシン」ビューを使用したマシン・タイプの追加および削除

「My Machines」ビューには、IBM System Updates ツールで操作することができるシステム上のマシンのリストが表示されます。IBM System Updates ツールを使用して、リストのマシン・タイプを追加または削除することができます。「マイ・マシン」ビューで変更が行われると、「すべての更新」ビューが更新されます。

手順

1. ナビゲーション・ペインで、「コンピューター」をクリックします。右ペインに、System Updates ツールによって管理できるマシンのリストが表示されます。

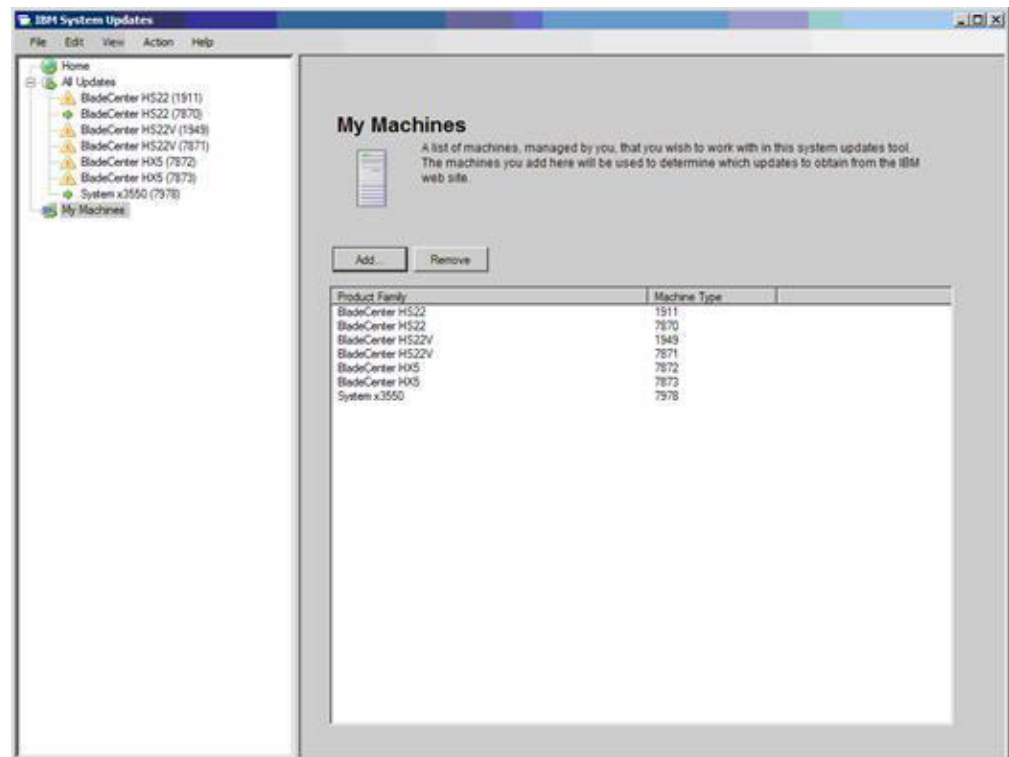


図 53. 「My Machines」 ビュー

2. 「追加」をクリックして、「新規マシン・タイプの追加」ダイアログ・ボックスを開きます。

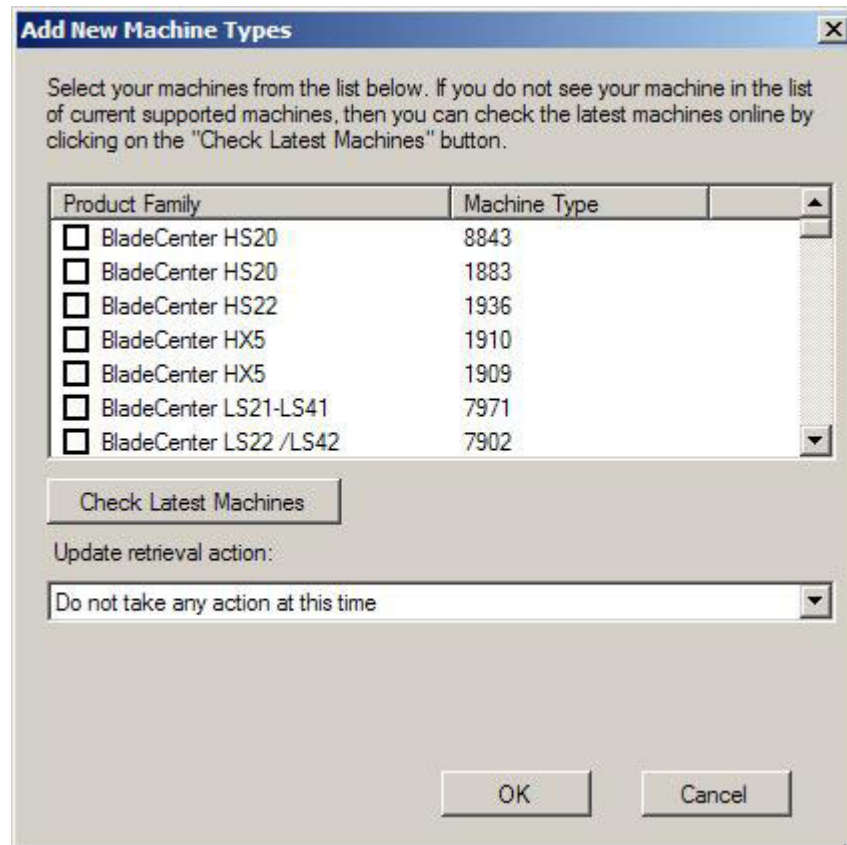


図 54. 新規マシン・タイプの追加

- 1 つまたは複数のマシン・タイプを選択します。新しいマシン・タイプを追加する際には、「更新取得アクション」を選択できます。

「Update retrieval」アクションには、次の 3 つのオプションがあります。

- すぐに IBM Web サイトで更新を確認
- 更新をローカル・フォルダーからリポジトリにコピーする
- 更新が既にリポジトリにあるため、現時点ではアクションを行わない (Do not take any action at this time as the updates are already located in the repository)

「最新のマシンを検査 (Check Latest Machines)」をクリックしてマシン・リストを更新することもできます。このステップを実行するには、インターネットへのネットワーク接続とライセンスが必要です。HTTP プロキシを使用してインターネットにアクセスすることも、インターネットに直接接続することも可能です。

「Check Latest Machines」オプションについて詳しくは、31 ページの『UXSPi のアップグレード』を参照してください。

更新の比較レポートを生成

更新レポートを生成することにより、IBM System Updates Acquisition and Publishing ツールで管理されている更新を検査することができます。「Generate Updates Comparison Report Wizard」では、ローカル・ディレクトリあるいは共有ネットワーク・ロケーションに CSV ファイルまたは TXT ファイルとして保管できる比較レポートが提供されます。更新レポートには、IBM System Updates Acquisition and Publishing ツールによって管理されている更新のリストが示されます。

手順

1. 「スタート」メニューから IBM System Updates Acquisition and Publishing ツールを起動します。
2. アプリケーション・メニュー・バーで、「アクション」をクリックし、「更新の比較レポートを生成」を選択して「更新の比較レポートを生成」ウィザードを開始します。



図 55. 「Generate Updates Report Wizard」のウェルカム・ページ

3. 「Next」をクリックして続行します。「更新の比較レポートを生成」ページが開きます。

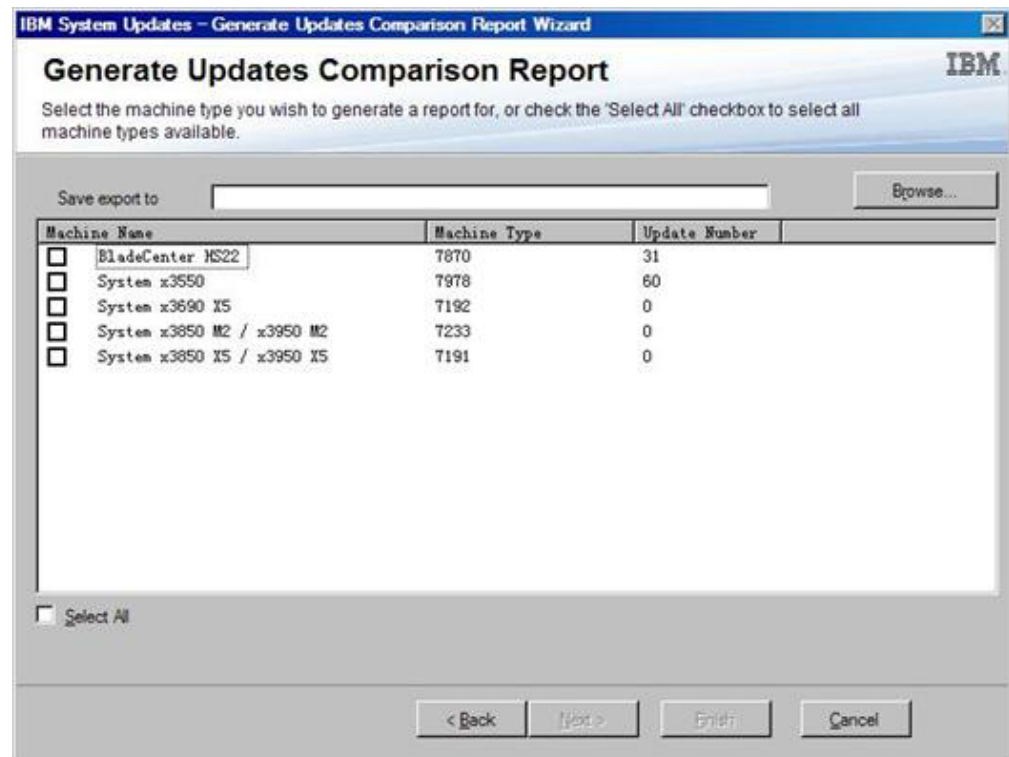


図 56. 更新の比較レポートを生成

4. 「参照」をクリックして、エクスポートされたレポートがある場所を選択します。
5. 比較レポートを生成する 1 つ以上のマシン・タイプを選択するか、「すべて選択」をクリックして使用可能なマシン・タイプをすべて選択し、「次へ」をクリックします。

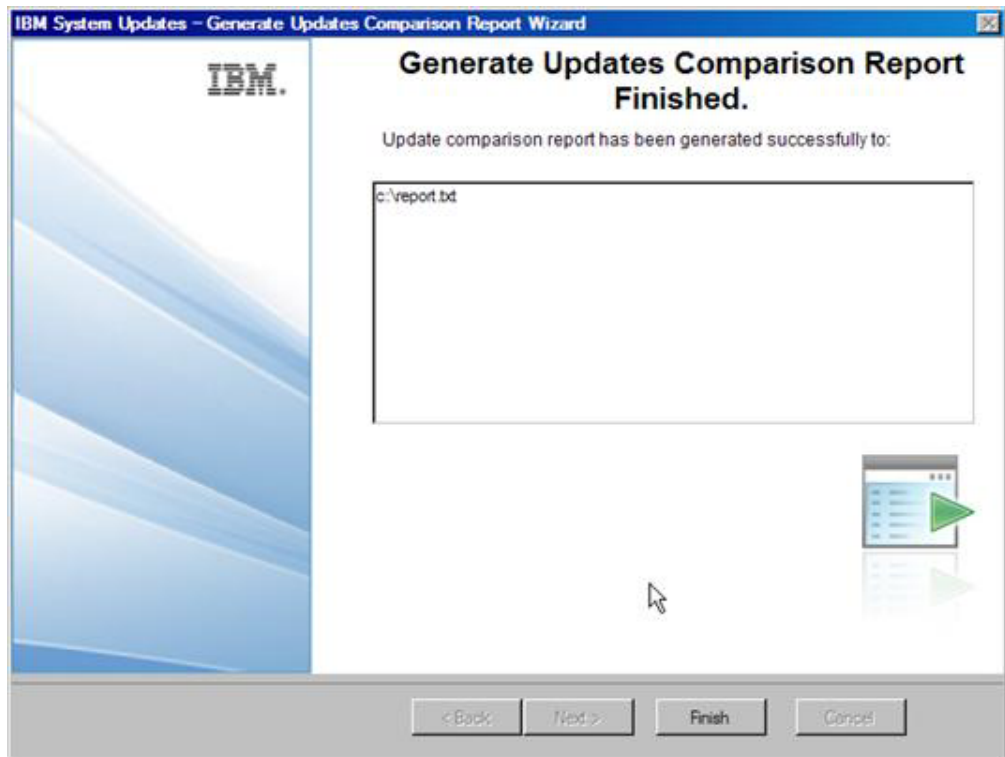


図 57. 更新の比較レポートの生成が終了しました

6. 「**Finish**」をクリックして「Generate Updates Comparison Report Wizard」を閉じます。ステップ 3 で指定したフォルダーに比較レポートが保存されます。

更新デプロイメント結果のジャーナルの表示

クライアント・マシンでの更新デプロイメント結果のジャーナルを表示することができます。この情報は、トラブルシューティングおよび問題診断に役立ちます。

ジャーナルは以下の情報から構成されます。

- 更新 ID
- 更新名
- 更新のバージョン
- インストール日
- デプロイメントの結果
- 詳細

「更新デプロイメント結果のジャーナルの表示 (View journal of updates deployment result)」の使用

以下の手順では、「更新デプロイメント結果のジャーナルの表示 (View journal of updates deployment result)」を生成し使用する方法について説明します。

手順

1. 「スタート」メニューから IBM System Updates Acquisition and Publishing ツールを起動します。
2. アプリケーション・メニュー・バーで「アクション」をクリックし、「エンドポイントの更新デプロイメントのジャーナルをリモート側で表示」を選択してリモート・クライアントに接続します。「更新デプロイメントのジャーナルの表示 (View journal of updates deployment)」ログイン・ページが開きます。

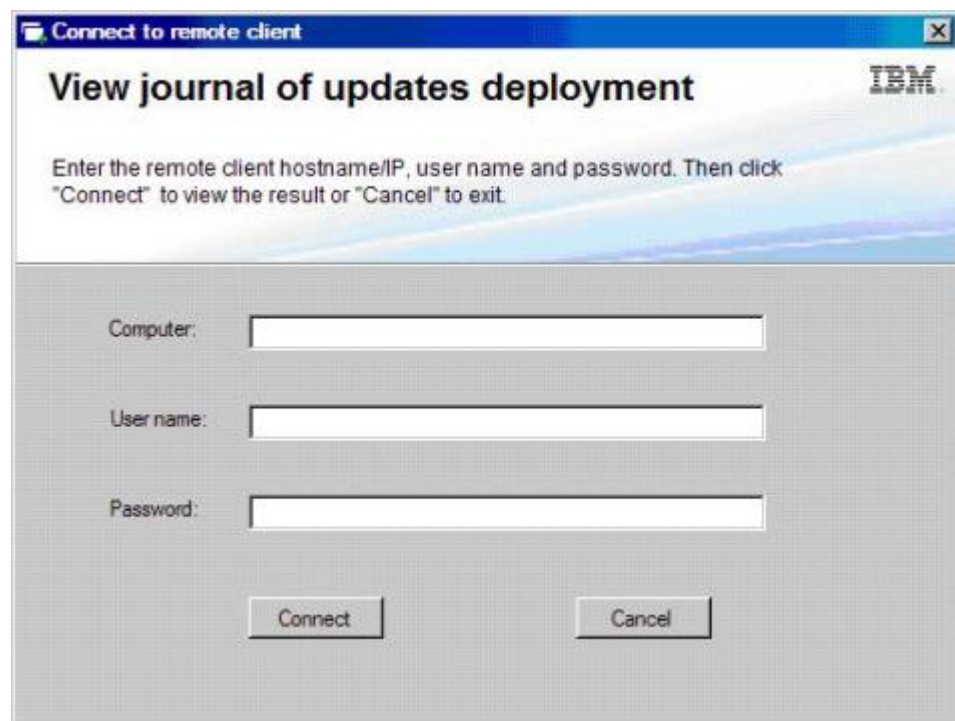


図 58. 「View journal of updates deployment」のログイン・ページ

3. このページに以下のリモート・クライアント情報を入力し、「接続」をクリックします。
 - Computer (コンピューター)
 - User name (ユーザー名)
 - パスワード

IBM System Updates Acquisition and Publishing ツールが正常にリモート・クライアントにログインすると、デプロイメント履歴状態が結果ビューに表示されます。

Update ID	Update Name	Update Version	Installation Date	Deployment Result	Detail
ibm_dd_sraidm...	IBM ServeRAID M Series a		Thursday, Marc...	SUCCESS	Double Click to see Detail
ibm_dd_sraidm...	IBM ServeRAID M Series a		Thursday, Marc...	SUCCESS	Double Click to see Detail
brcm_dd_nic_5.2	Broadcom NetXtreme II Dn...		Thursday, Marc...	Not Required	Double Click to see Detail
ibm_dd_sraidm...	IBM ServeRAID M Series a		Thursday, Marc...	SUCCESS	Double Click to see Detail
ibm_fw_bios_gfe...	IBM BIOS Flash Update	1.14 (GFE144A)	Friday, April 01,	SUCCESS	Double Click to see Detail
ls_fw_megasas...	MegaRAID 8480 SAS Cont	7.0.1-0064	Tuesday, April 1,	Not Required	Double Click to see Detail
ls_fw_megasas...	MegaRAID 8480 SAS Cont	7.0.1-0064	Monday, April 25,	FAILURE	Double Click to see Detail
ls_fw_megasas...	MegaRAID 8480 SAS Cont	7.0.1-0064	Monday, April 25,	FAILURE	Double Click to see Detail
ls_fw_megasas...	MegaRAID 8480 SAS Cont	7.0.1-0064	Monday, April 25,	FAILURE	Double Click to see Detail
ls_fw_megasas...	MegaRAID 8480 SAS Cont	7.0.1-0064	Thursday, April 2,	Not Required	Double Click to see Detail
ibm_fw_sacraid...	IBM ServeRAID 8k and 8k...		Friday, April 29,	SUCCESS	Double Click to see Detail
ibm_ufi_uxsp_gfs...	UXSP Package		Thursday, May 1,	SUCCESS	Double Click to see Detail
sequence_7978a...	Sequence Package		Friday, May 13,	SUCCESS	Double Click to see Detail
sequence_7978a...	Sequence Package		Friday, May 13,	SUCCESS	Double Click to see Detail
ibm_ufi_uxsp_gfs...	UXSP Package		Saturday, May 1,	SUCCESS	Double Click to see Detail
ibm_ufi_uxsp_gfs...	UXSP Package		Wednesday, Ma...	SUCCESS	Double Click to see Detail
sequence_7978a...	Sequence Package		Wednesday, Ma...	SUCCESS	Double Click to see Detail
ibm_ufi_uxsp_gfs...	UXSP Package		Friday, May 27,	SUCCESS	Double Click to see Detail
ati_dd_video_8.2	ATI RADEON Video Driver	8.24.5.3	Friday, May 27,	SUCCESS	Double Click to see Detail

図 59. 更新デプロイメントの結果のジャーナルを表示

4. 更新のログ・ファイルを開いて表示するには、「更新 ID」をダブルクリックするか、「更新 ID」を選択して **Enter** を押します。 ログ・ファイルは以下のファイルのいずれかです。
 - result.txt
 - co_result.xml
 - up_result.xml
 - SUAP ログ・ファイル
5. 最新のデプロイメント結果を確認するには、「最新表示 (Refresh)」をクリックします。
6. 「更新デプロイメント結果のジャーナルの表示 (View journal of updates deployment result)」を終了するには、「閉じる (Close)」をクリックします。

更新対応のためのクライアントのスキャン

管理対象システムがマシン・ポリシーを受け取ると、対応スキャンがスケジュールされます。Windows Update Agent (WUA) は、Windows Server Update Services サーバーに接続し、更新のリストを受け取り、管理対象システムをスキャンして各更新のインストール済み規則の適用可能性を調査します。

IBM 更新には、Windows Management Instrumentation (WMI) およびレジスター・キーの適用可能性を検査するための規則があります。対応情報が SCCM サーバーに返信されます。管理者は、対応情報に基づいて、どの更新が必要であるかを確認することができます。

Microsoft System Center Configuration Manager (SCCM) 2007

このトピックでは、Microsoft System Center Configuration Manager (SCCM) コンソールの使用方法について説明します。

始める前に

以下のステップでは、SCCM サーバーが環境用に既にセットアップおよび構成されていることを前提としています。SCCM サーバーのセットアップ方法について詳しくは、Configuration Manager 2007を参照してください。

このタスクについて

この作業は、Configuration Manager コンソールから実行します。

手順

1. 「スタート」メニューで、「すべてのプログラム」 > 「Microsoft System Center」 > 「Configuration Manager 2007」 > 「ConfigMgr コンソール」をクリックして、Configuration Manager コンソールを起動します。
2. ナビゲーション・ペインで、「サイト データベース」 > 「コンピューターの管理」 > 「ソフトウェア更新プログラム」の順に展開します。「ソフトウェアの更新」フォルダーにある「更新リポジトリ」を右クリックし、「同期の実行」を選択します。

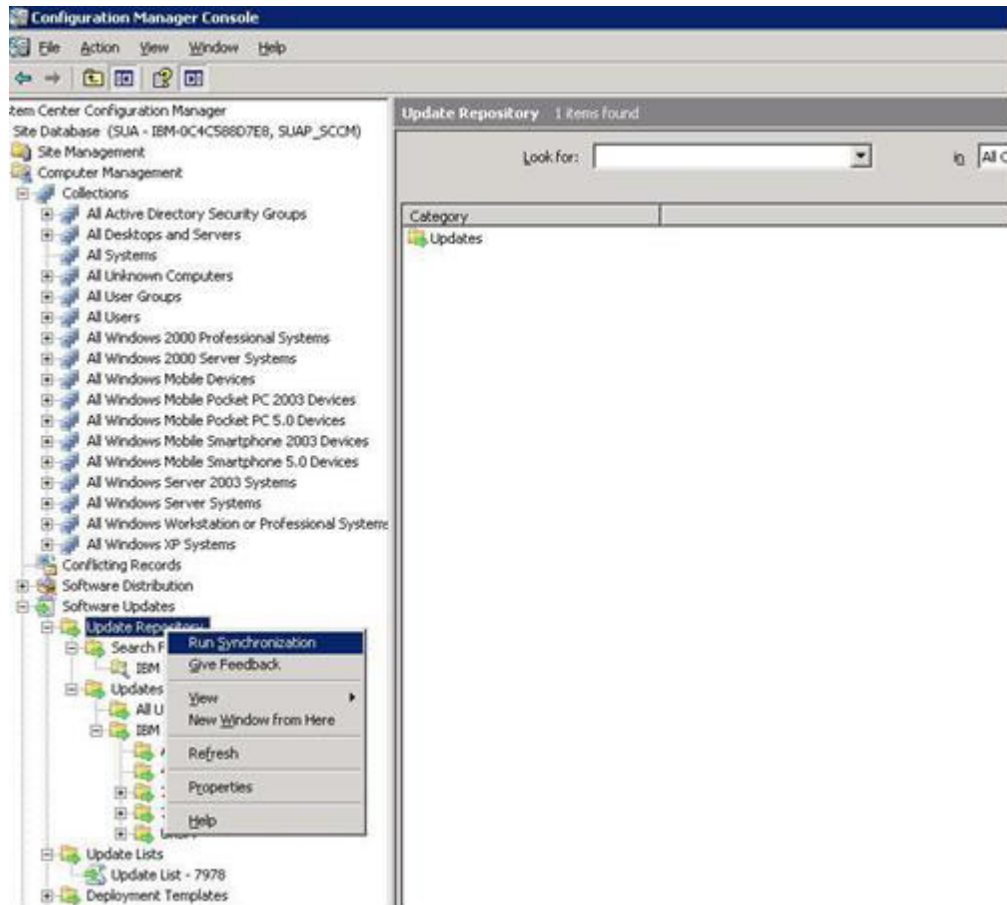


図 60. 更新リポジトリの同期

3. 「はい」をクリックして、サイト全体でのソフトウェア更新の同期を開始します。

同期プロセスは、完了までに数分かかります。プロセスが完了したことを示すグラフィック表示はありません。

次のタスク

以下の手順で、同期ログを確認して、正常に完了したかどうかを判別することができます。

1. ナビゲーション・ペインで、「サイト データベース」 > 「システムのステータス」 > 「サイトのステータス」の順に展開します。「サイト サーバー」を展開して、「コンポーネントのステータス」を選択します。SCCM サーバーのコンポーネントおよび各コンポーネントの状況のリストが、結果ペインに表示されます。
2. 結果ペインで、「SMS_WSUS_SYNC_MANAGER」を右クリックして選択し、「メッセージを表示」 > 「すべて」をクリックします。

サイト・サーバーの「SMS ステータス メッセージ ビューアー」ウィンドウが表示され、Windows Server Update Services (WSUS) Sync Manager の状況メッセージが表示されます。同期処理が開始された時刻、進行中であった時刻、完了した時刻を示す最新のメッセージに注目してください。

- 同期が正常に完了した後、「すべての更新」フォルダー内の「IBM」フォルダーを右クリックし、「最新の情報に構成」を選択して、IBM フォルダーを最新表示します。

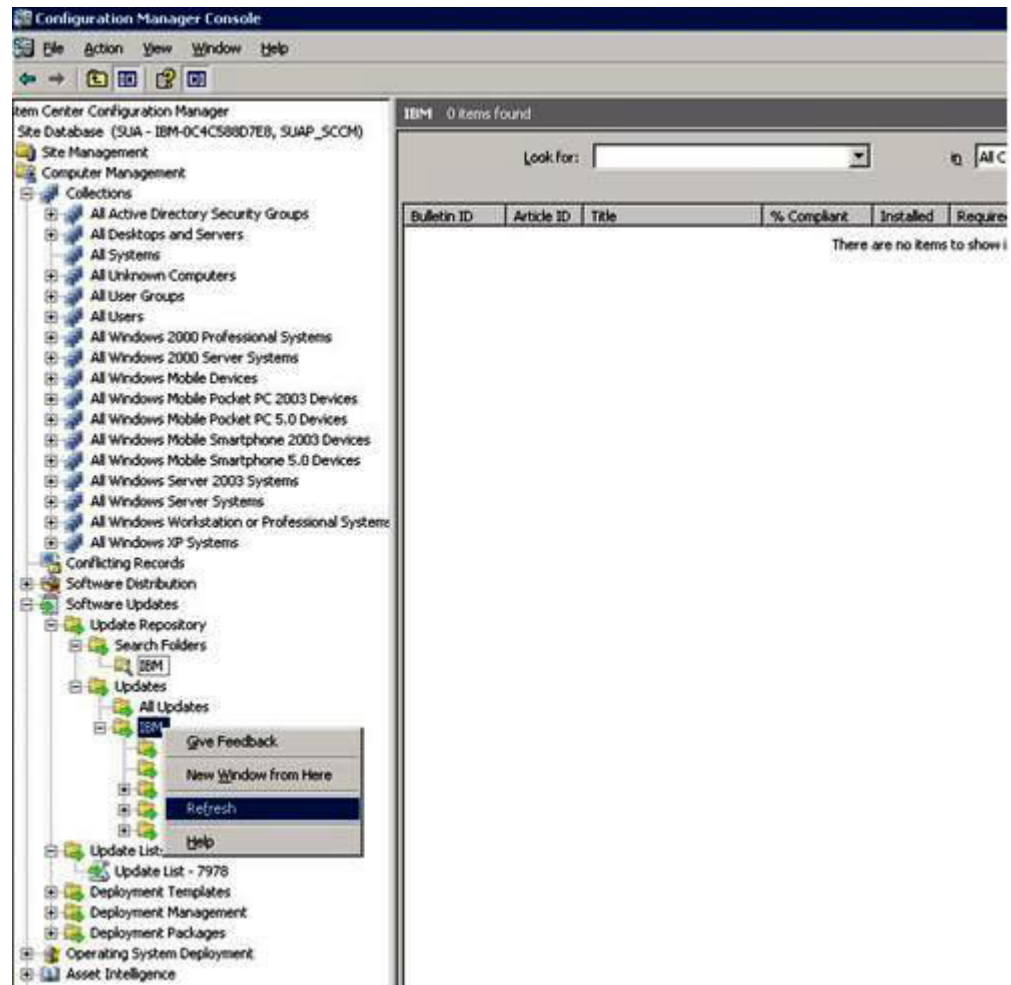


図 61. IBM フォルダーの最新表示

パブリッシュされた更新は、IBM フォルダーの下の対応するマシン・タイプのフォルダーに表示されます (次の図を参照)。

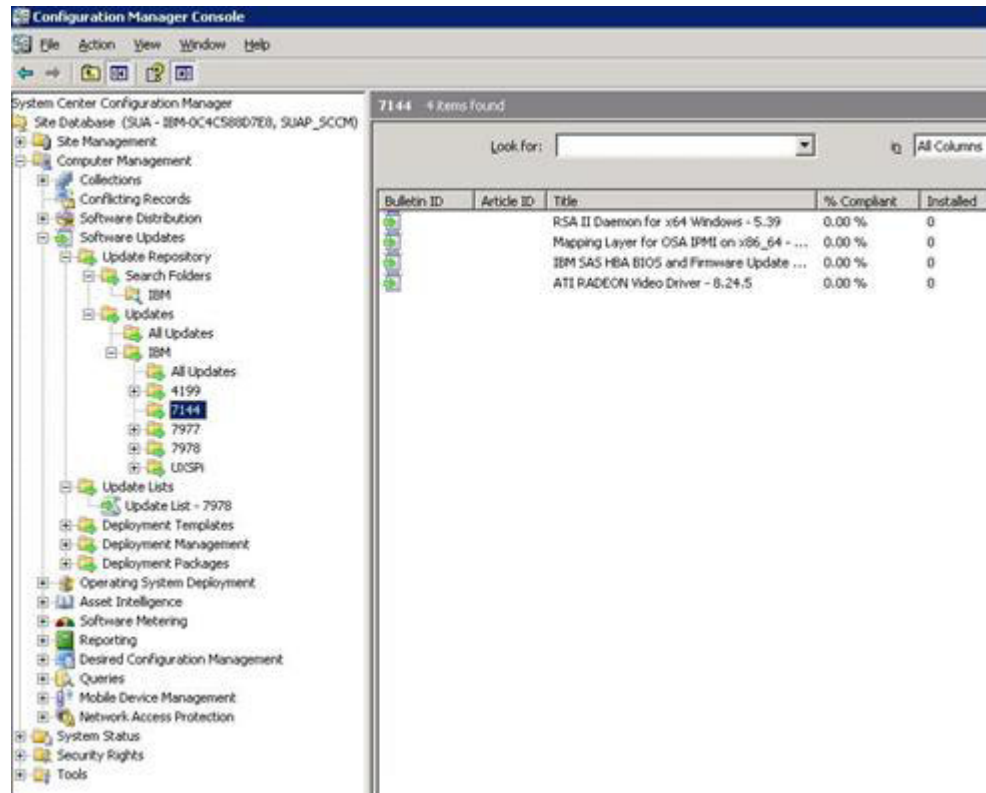


図 62. パブリッシュされた更新の表示

更新が対応するクライアントにデプロイされた後、クライアント・システムでの次のソフトウェア更新スキャン中に、クライアントはサイト・データベースに対して、更新が適用可能であるか、各クライアントにインストール済みであることを報告します。管理者は、報告されたデータを参照し、以下の情報に基づいて、どの更新を配布する必要があるかを決定することができます。

インストール済み

更新がインストールされたことを報告しているクライアントの数が示されます。

必須 更新が適用可能であり、まだインストールされていないこと、またはインストール状況がサイト・サーバー・データベースに達していないことを報告しているクライアントの数が表示されます。

不要 更新が適用されないクライアントの数が表示されます。

不明 ソフトウェア更新の対応のスキャンが正常に完了していない、あるいはスキャン結果がサイト・サーバーに報告されていないクライアントの数が表示されます。

重要: UpdateXpress System Package は、その他のすべての IBM 更新の前提条件です。他のすべての IBM 更新の前に、このパッケージをクライアント・システムにデプロイする必要があります。クライアント・システムに UpdateXpress System Package が展開されていない場合、そのクライアント・システム上では、他の IBM 更新が「必要なし」とマークされます。ターゲット・マシンに IBMSystem Entitlement Pack (SEP) パッケージが必要な場合は、UpdateXpress System Package をデプロイする前に SEP パッケージをデプロイする必要があります。

UpdateXpress System Package のデプロイが正常に完了すると、クライアント・システムにデプロイされていない更新がある場合、この更新の対応結果は「必須」とマークされます。

Microsoft System Center Configuration Manager での IBM 更新の展開

管理者は、どの更新を配布する必要があるかを判別後、その IBM 更新を選択し、デプロイメント・パッケージを作成してクライアント・システムに配布します。

ターゲット・コレクションのクライアントが管理ポイントから新規の展開を受け取ると、クライアントは、必要なソフトウェア更新バイナリーを含む展開パッケージがある配布ポイントから、ソフトウェア更新をダウンロードします。その後、バイナリーがクライアントにインストールされ、対応ステータスがサイト・サーバーに報告されます。

ダウンロードおよび公開のフェーズは、IBM System Updates Acquisition and Publishing ツールによって実行されます。このセクションのトピックでは、IBM System Updates for Microsoft System Center Configuration Manager v5.0 ソリューションを導入するために、上記の順序を使用します。

IBM 更新の展開の前提条件

このトピックでは、Microsoft System Center Configuration Manager でシステム更新ポイント役割を追加する手順について説明します。

始める前に

ナビゲーション・ペインで、「**サイト データベース**」 > 「**サイトのステータス**」を展開すると、「**サイト システムのステータス**」および「**コンポーネントのステータス**」を確認できます。すべての項目の「**サイト システムのステータス**」および「**コンポーネントのステータス**」が正常に機能している場合、SCCM サーバー状況は *OK* と表示されます。

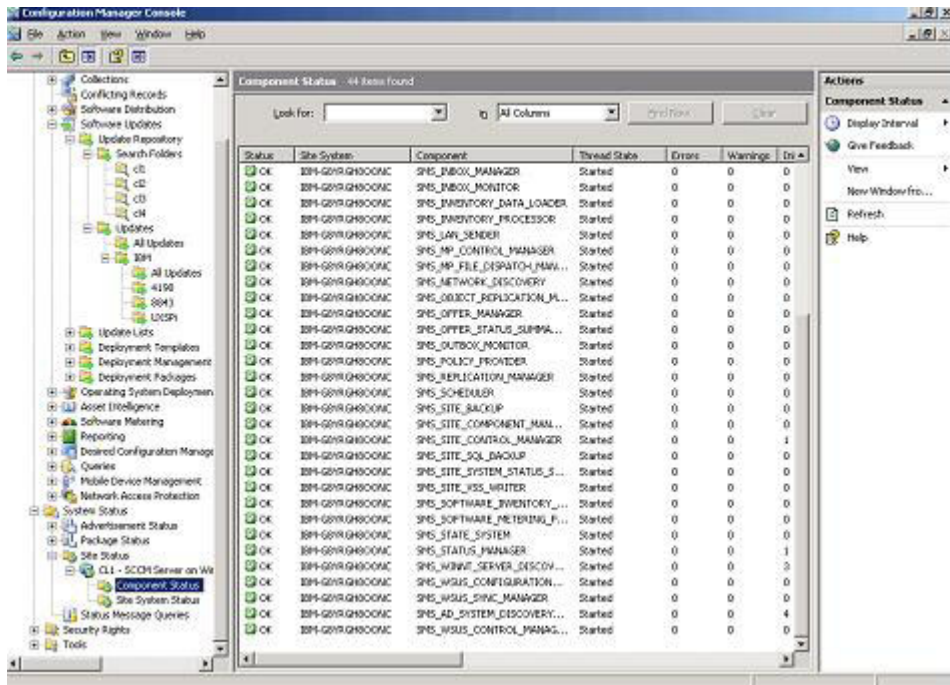


図 63. コンポーネントの状況

手順

1. SCCM のナビゲーション・ペインで、「サイト データベース」 > 「サイトの管理」 > %サイト名% > 「サイト設定」 > 「サイト システム」の順に展開し、<%システム名%> を右クリックして、「新しい役割 (New Role)」を選択します。「サイトの役割の新規作成ウィザード」が開始します。

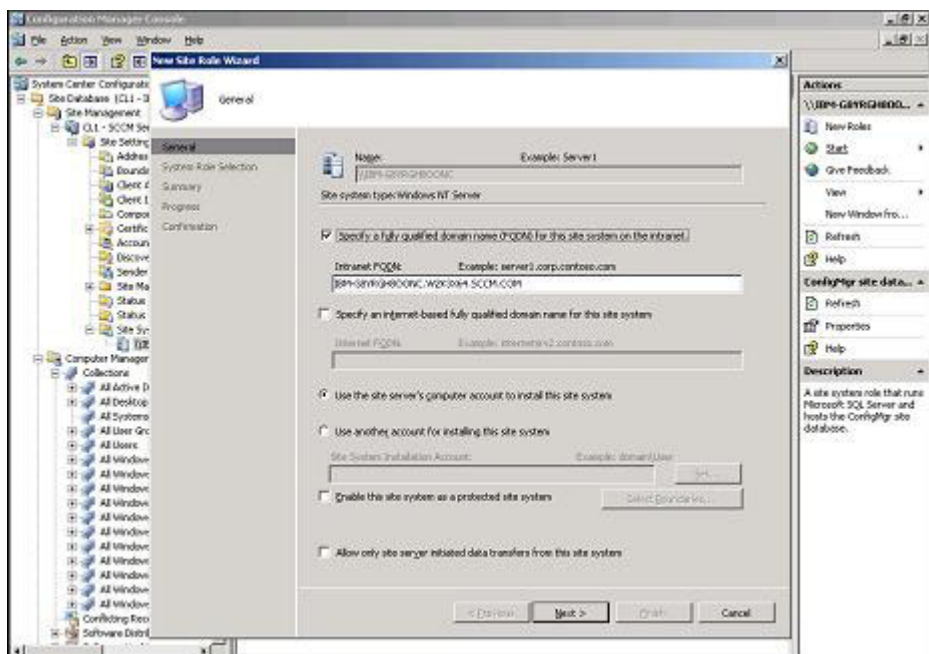


図 64. システム更新サービス・ポイントの構成

2. 「次へ (Next)」をクリックします。
3. **System Update** サービス・ポイントの役割を選択し、デフォルト設定を選択してシステム構成サービス・ポイントを構成します。
 - a. クライアント・システムを検出して、SCCM サーバーを介して管理エージェントをインストールします。
 - b. クライアント・システム上で Windows Server Update Services (WSUS) 自己署名証明書を構成します。

注: SCCM の管理対象クライアント・システムには、「信頼されたルート証明機関」フォルダー内に Windows Server Update Services Publishers Self-signed 証明書があります。

 - c. Windows グループ・ポリシー・エディターを使用して、SCCM クライアント上で「イントラネットの Microsoft 更新サービスの保存場所にある署名済みコンテンツを許可する」にチェックします。
 - d. クライアント・コンピューター上でグループ・ポリシーを構成します。

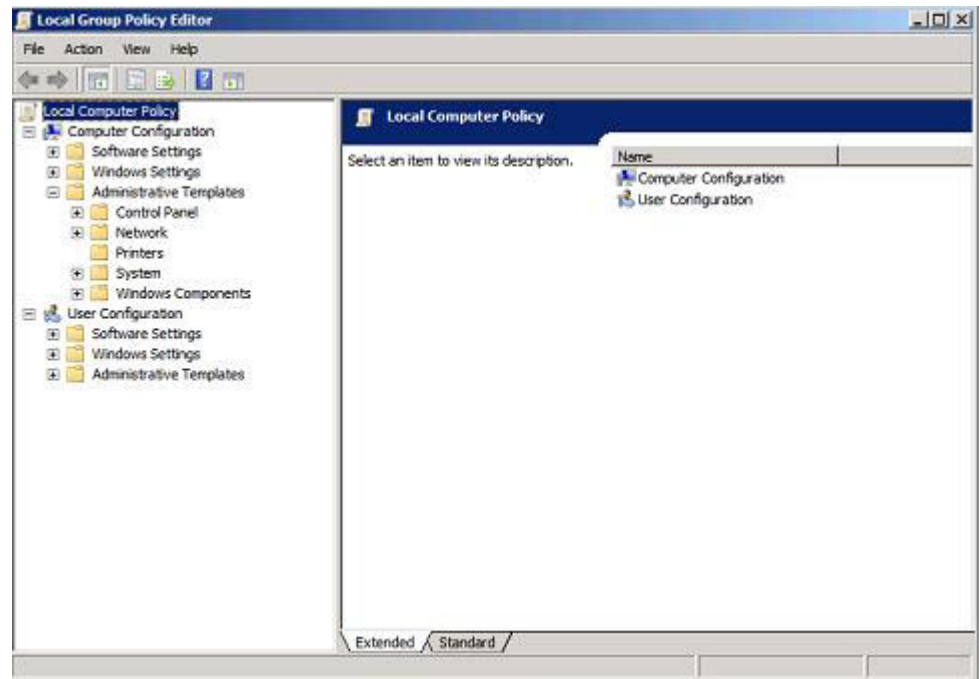


図 65. ローカル・コンピューター・ポリシーの構成

- 1) SCCM の管理対象クライアントのオペレーティング・システムで、「スタート」をクリックして「ファイル名を指定して実行」を選択します。
- 2) GPEDIT.MSC を入力して「OK」をクリックします。
- 3) 「コンピュータの構成」 > 「管理用テンプレート」 > 「Windows コンポーネント」 > 「Windows Update」を展開します。

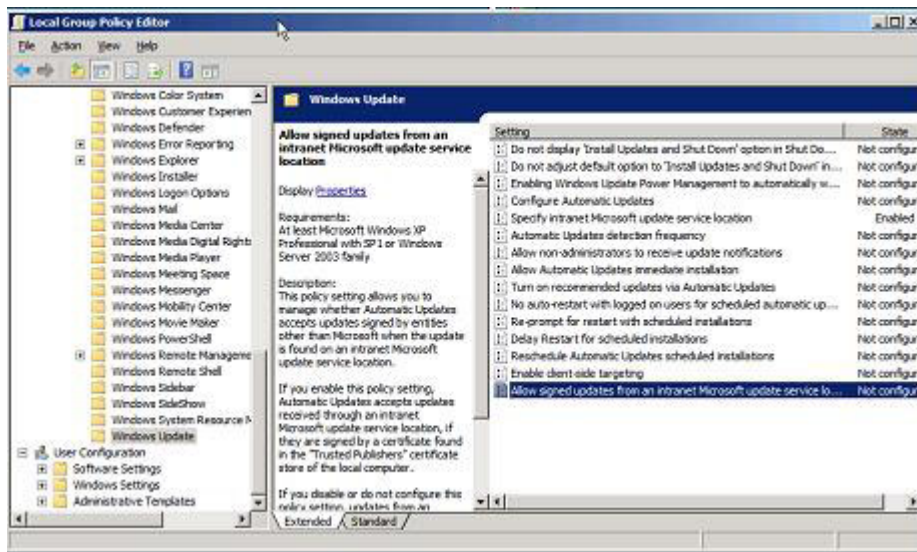


図 66. イントラネットの Microsoft 更新サービスの保存場所にある署名済み更新を許可する

- 4) 「イントラネットの Microsoft 更新サービスの保存場所にある署名済みコンテンツを許可する」をダブルクリックします。
 - 5) 「有効」を選択して「OK」をクリックします。グループ・ポリシー・エディターを閉じます。
4. IBM 更新を SCCM クライアントに展開する前に、.NET Framework 2.0 以降が SCCM クライアントにインストールされていることを確認してください。

SCCM サーバーから SCCM クライアントへの IBM System Enablement Pack のデプロイ

このトピックでは、IBM System Enablement Pack (SEP) を System Center Configuration Manager (SCCM) サーバーから SCCM クライアントにデプロイする方法について説明します。SEP は、システム固有のコードを含むパッケージです。このパッケージは、新規の System x および Blade サーバーで IBM Dynamic System Analysis (DSA)、ファームウェア更新、およびオペレーティング・システムの展開をサポートするために使用されます。ターゲット・クライアントが SEP に依存している場合は、最初にこのパッケージをデプロイしてください。

このタスクについて

以下の手順は、SCCM サーバーから SCCM クライアントに SEP パッケージを展開するためのステップを説明しています。

手順

1. SCCM コンソールを開きます。
2. 「ソフトウェア更新プログラム」 > 「IBM」を展開し、マシンの名前をダブルクリックします。
3. 右ペインで、デプロイする SEP を右クリックし、「ソフトウェア更新プログラムの展開」を選択します。

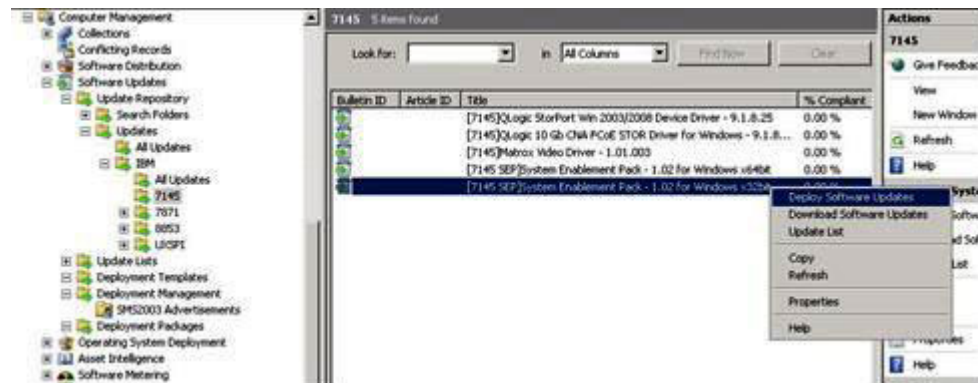


図 67. ソフトウェア更新の展開

「ソフトウェアの更新の展開ウィザード」が開きます。

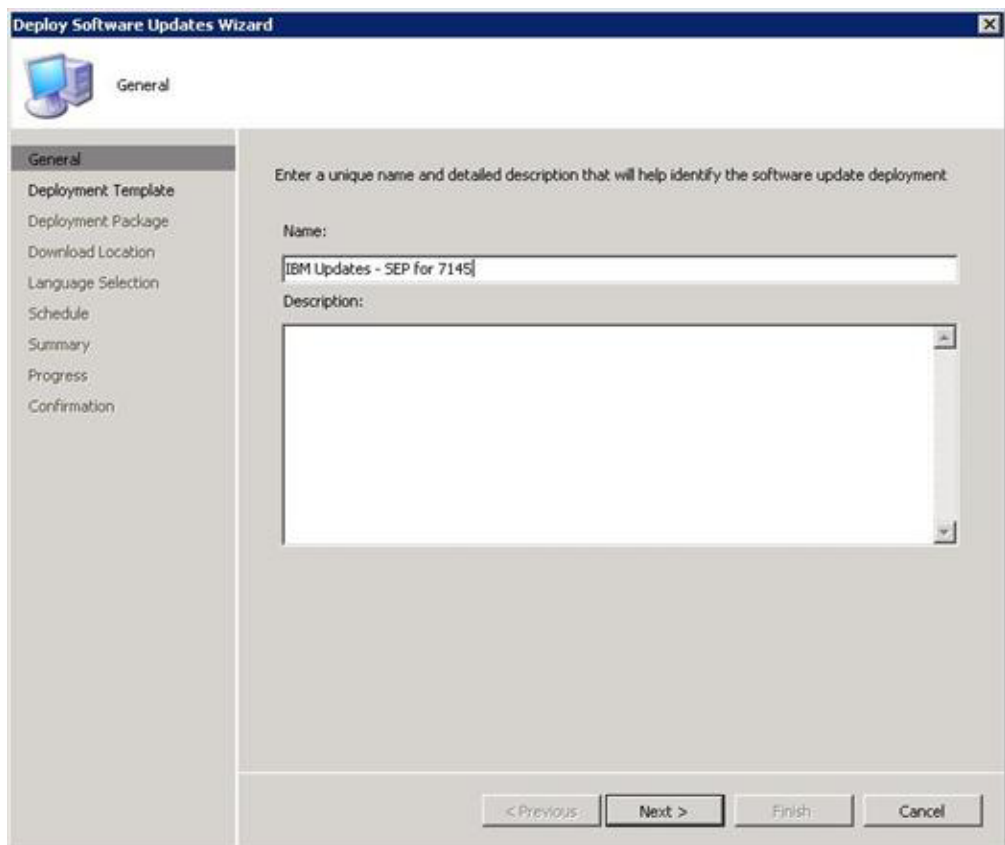


図 68. ソフトウェアの更新の展開ウィザード - 全般

4. 「ソフトウェア更新プログラムの展開」ウィザード・ページで、以下の情報を入力し、「次へ」をクリックします。
 - a. 名前
 - b. 説明
- 「展開テンプレート」ページが開きます。

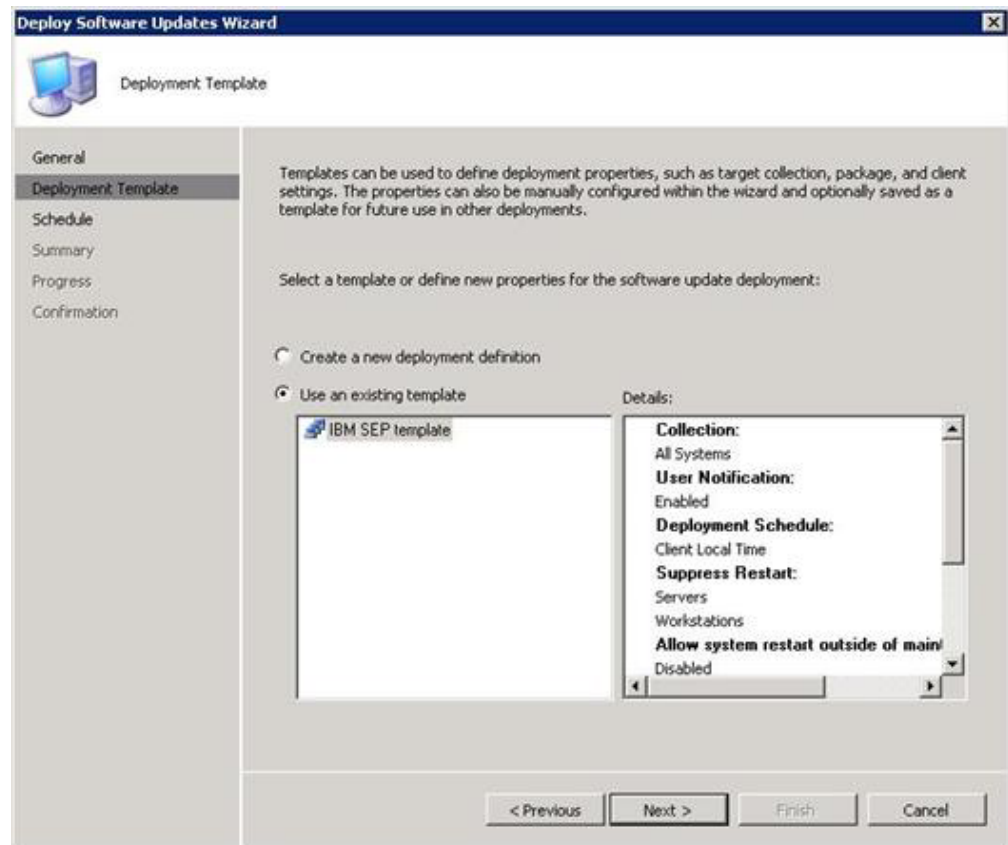


図 69. 「ソフトウェアの更新の展開ウィザード」のテンプレート

5. 「新しい展開の定義を作成する」を選択して、「次へ」をクリックします。

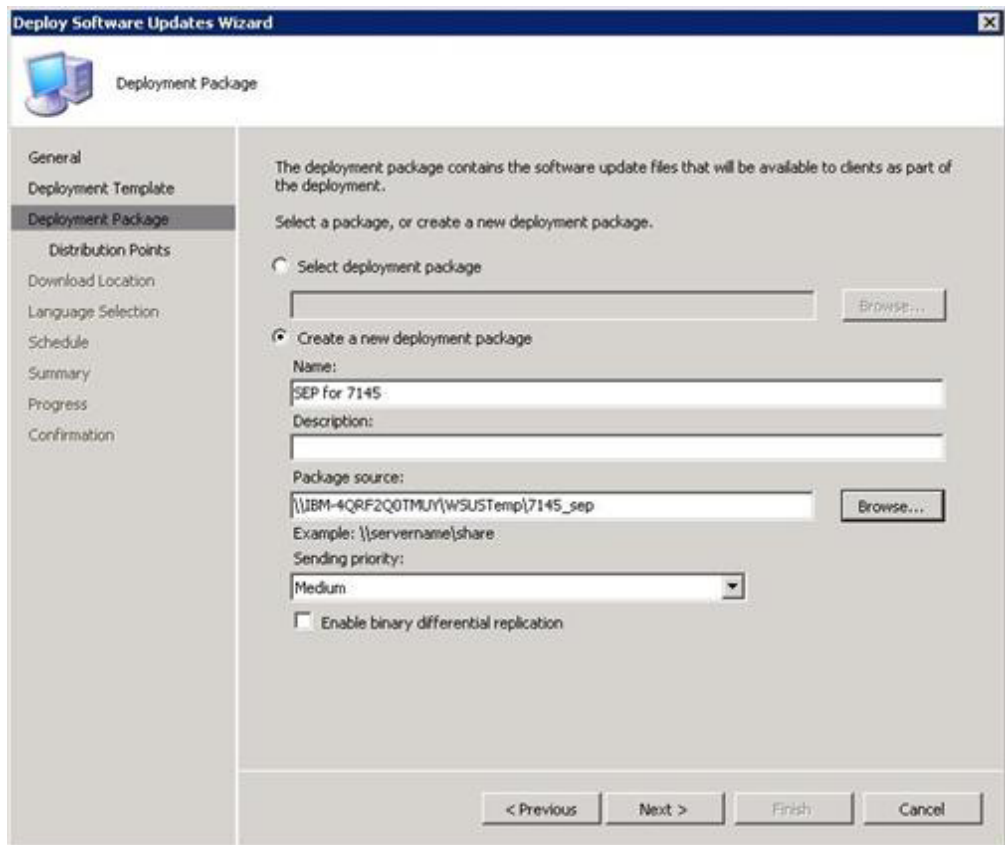


図 70. 展開パッケージ

6. 「展開パッケージ」 ページで、以下の情報を入力し、「次へ」をクリックします。
 - a. 「名前」フィールドに SEP の名前を入力します。
 - b. 「参照」をクリックしてパッケージ・ソース・ファイルの場所を選択します。
 - c. 「送信の優先順位」フィールドで「優先順位」を選択します。

「ダウンロード場所」 ページが表示されます。

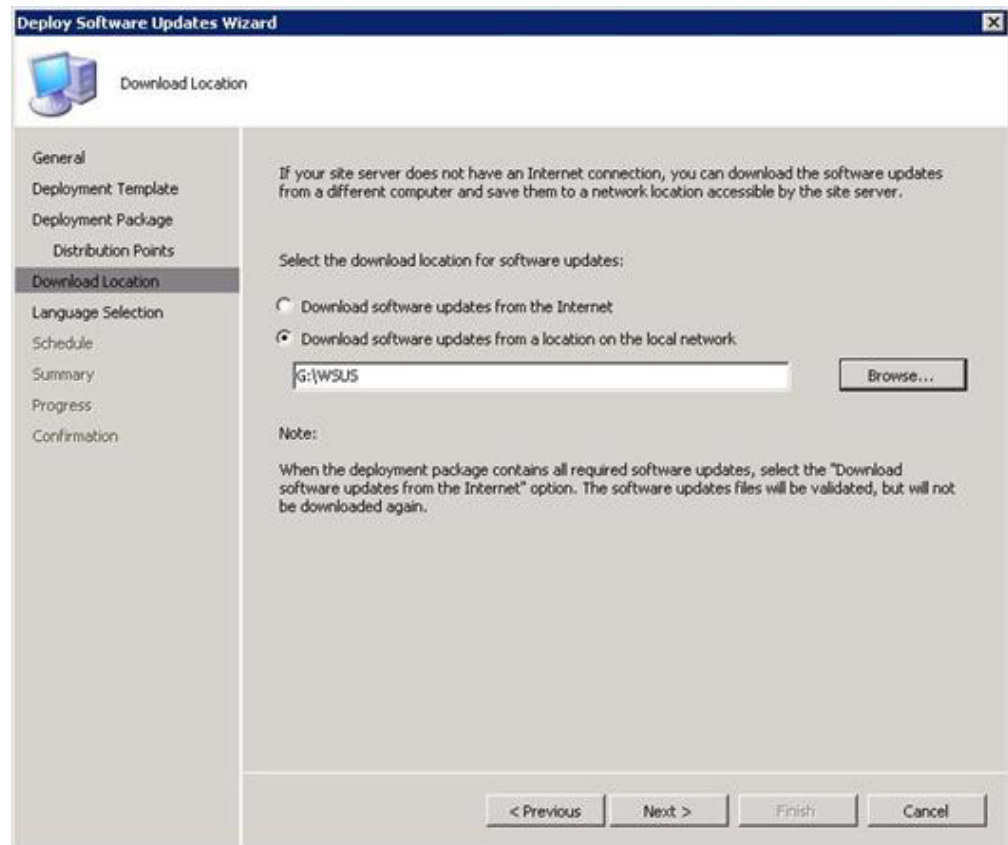


図 71. ダウンロード場所

7. 「ソフトウェア更新をローカル・ネットワーク上の場所からダウンロード (Download software updates from a location on the local network)」をクリックして、ソフトウェア更新のダウンロード場所を選択します。
8. 「参照」をクリックして、ソフトウェア更新ファイルを選択し、「次へ」をクリックします。「展開スケジュール」ページが表示されます。

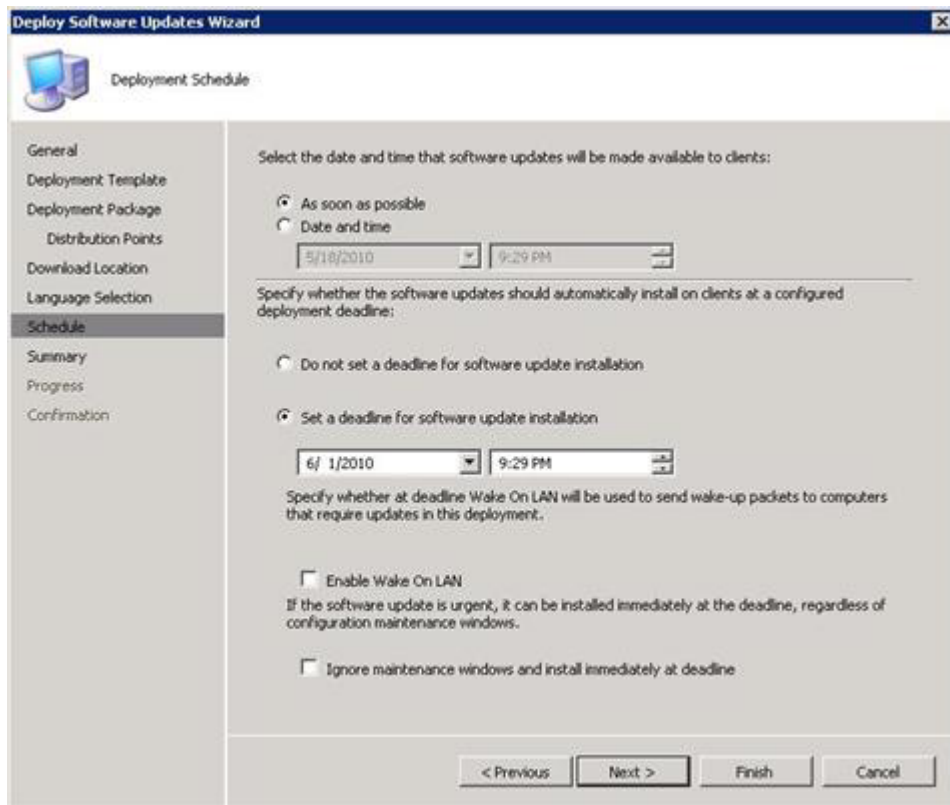


図 72. 展開スケジュール

9. 「展開スケジュール」 ページで、以下の選択を行って「次へ」をクリックします。
 - a. クライアント上でソフトウェア更新が使用可能になる日時を選択します。
 - b. ソフトウェア更新のインストール期限を設定します。
 - c. オプション: ソフトウェア更新が緊急の場合は、**Wake on LAN** を使用可能にします。
 - d. オプション: 「保守スケジュールを無視し、期日に直ちにインストールする (**Ignore maintenance schedule and install immediately on deadline**)」を有効にします。

展開が完了すると、状況が表示されます。

10. 「閉じる」をクリックして、「ソフトウェア更新プログラムの展開」ウィザードを閉じます。

SCCM サーバーから SCCM クライアントへの IBM UXSPi のデプロイ

UpdateXpress System Pack Installer (UXSPi) は、その他のすべての IBM 更新の前提条件です。他のすべての IBM 更新の前に、UXSPi をクライアント・システムに展開する必要があります。

UXSPi がアップグレードされて、いずれかの更新が Windows Server Update Services サーバーにパブリッシュされると、SCCM サーバー上の古い UpdateXpress System Package (ある場合) が新しい UpdateXpress System Package に置換されます。以下のトピックでは、新しい UXSPi バージョンへのアップグレード時に、さまざまな状況でパッケージをデプロイするための 3 つの方法について説明します。

SCCM サーバーから SCCM クライアントへの IBM UXSPi のデプロイ (既存の UXSPi がデプロイされていない場合)

このトピックでは、古い UpdateXpress System Package が展開されていない場合に、SCCM サーバーから SCCM クライアントに IBM UpdateXpress System Pack Installer (UXSPi) を展開する方法を説明します。

このタスクについて

この作業は、Configuration Manager コンソールから実行します。

手順

1. 「スタート」メニューで、「すべてのプログラム」 > 「Microsoft System Center」 > 「Configuration Manager 2007」 > 「ConfigMgr コンソール」をクリックして、Configuration Manager コンソールを起動します。
2. ナビゲーション・ペインで、「サイト データベース」 > 「コンピューターの管理」 > 「ソフトウェア更新プログラム」 > 「リポジトリの更新」 > 「更新」 > 「IBM」 > 「UXSPi」の順に展開します。結果ペインで、デプロイする UXSPi を右クリックして、「ソフトウェア更新プログラムの展開」を選択します。

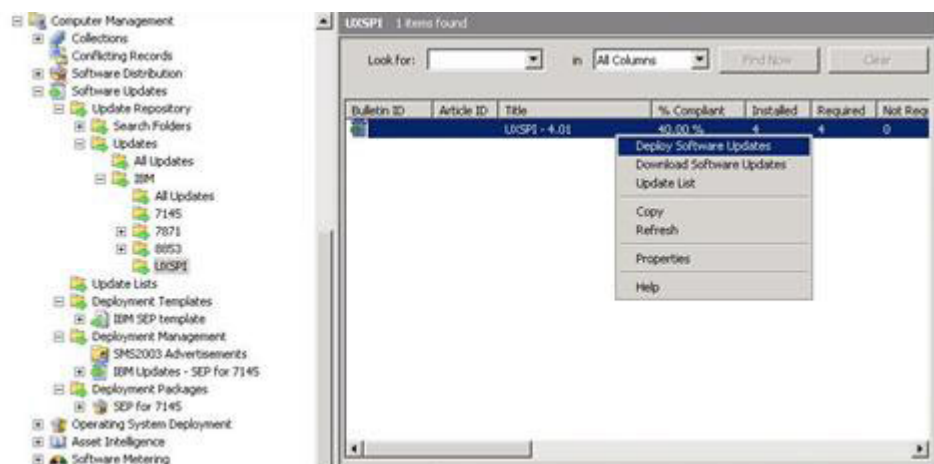


図 73. SCCM クライアントへの UXSPi の展開

3. 76 ページの『SCCM サーバーから SCCM クライアントへの IBM System Enablement Pack のデプロイ』のステップ 4 から 10 に従って、ソフトウェア更新のデプロイを終了します。

SCCM サーバーから SCCM クライアントへの IBM UXSPi のデプロイ (旧バージョンの UXSPi がデプロイされている場合)

このセクションのトピックでは、古い IBM UpdateXpress System Pack Installer がデプロイされている状態で UXSPi をアップグレードする場合に、System Center Configuration Manager (SCCM) サーバーから SCCM クライアントに UpdateXpress System Package (UXSPi) をデプロイする 3 つの方法について説明します。

新しいバージョンの IBM UXSPi にアップグレードする場合の UXSPi の展開方法 1:

このトピックでは、新しい UXSPi バージョンへのアップグレード時にパッケージをデプロイする方法について説明します。

このタスクについて

このシナリオのデプロイメントには 3 つの方法があります。このリリースでは、方法 2 が推奨されます。

古い UXSPi の展開の提供情報および展開パッケージを削除し、新規の UXSPi 展開パッケージを作成します。SCCM サーバーから SCCM クライアントに UpdateXpress System Package を展開するには、以下のステップを実行します。

手順

1. 「スタート」メニューで、「すべてのプログラム」 > 「Microsoft System Center」 > 「Configuration Manager 2007」 > 「ConfigMgr コンソール」を選択して、Configuration Manager コンソールを起動します。
2. 「展開パッケージ」にある古い UXSPi デプロイメント・パッケージを右クリックし、「削除」を選択します。

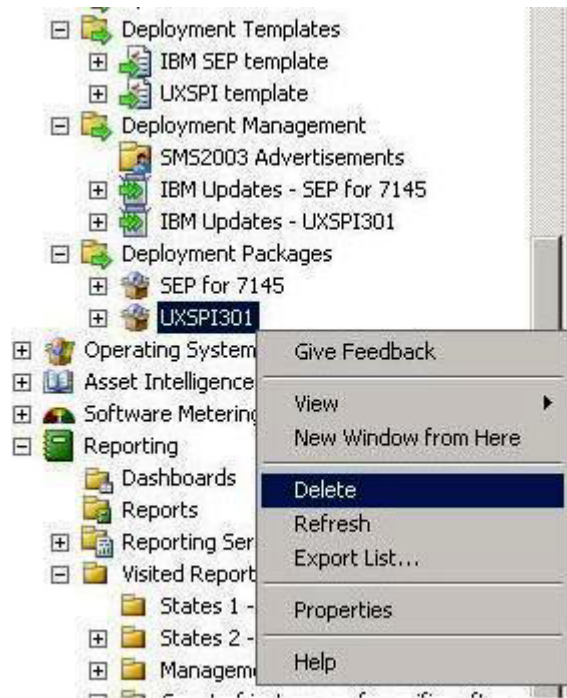


図 74. 古い UXSPI 提供情報の削除

3. UXSPI マシン・カテゴリーで、展開する UpdateXpress System Package を右クリックして「ソフトウェアの更新の展開」を選択します。

76 ページの『SCCM サーバーから SCCM クライアントへの IBM System Enablement Pack のデプロイ』のステップ 4 以降の手順に従ってください。

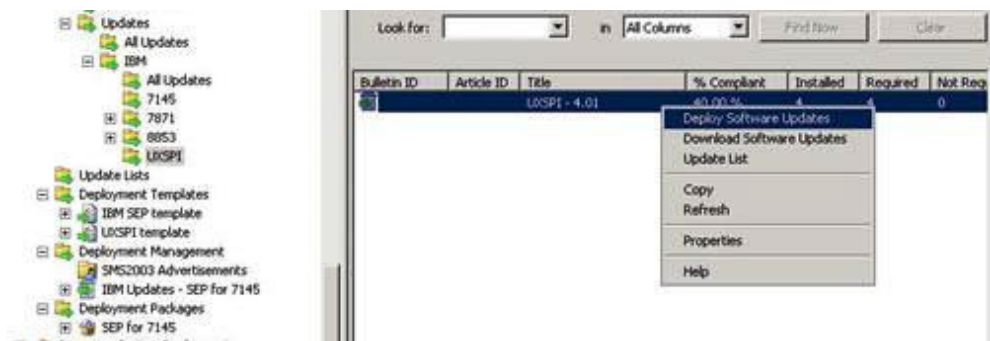


図 75. UXSPI ソフトウェア・パッケージの展開

新しいバージョンの IBM UXSPi にアップグレードする場合の UXSPi のデプロイ方法 2:

このトピックでは、新しい UXSPi バージョンへのアップグレード時にパッケージをデプロイする方法について説明します。

このタスクについて

新規の UXSPi 展開パッケージと古い UXSPi 展開パッケージが共存します。

手順

1. 「スタート」メニューで、「すべてのプログラム」 > 「Microsoft System Center」 > 「Configuration Manager 2007」 > 「ConfigMgr コンソール」をクリックして、Configuration Manager コンソールを起動します。
2. UXSPi マシン・カテゴリーで、展開する UXSPi を右クリックして「ソフトウェアの更新の展開」を選択します。

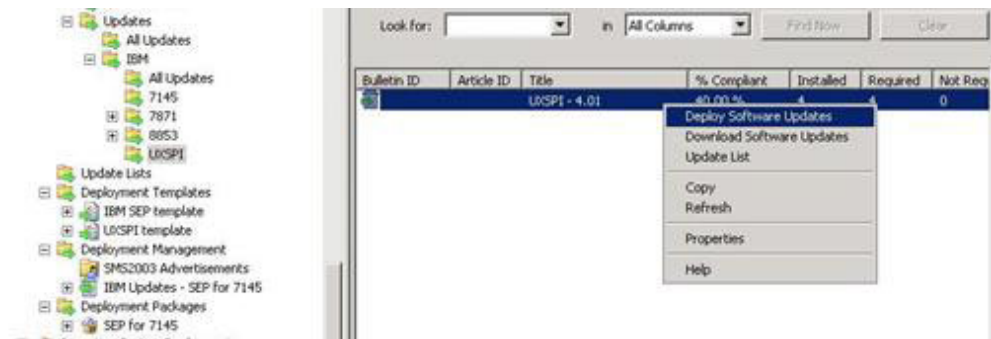


図 76. 新規パッケージと古いパッケージが共存する場合のソフトウェア更新の展開

3. このステップについては、76 ページの『SCCM サーバーから SCCM クライアントへの IBM System Enablement Pack のデプロイ』のステップ 4 以降の手順に従ってください。

新しいバージョンの IBM UXSPi にアップグレードする場合の UXSPi の展開方法 3:

このトピックでは、新しい UXSPi バージョンへのアップグレード時にパッケージをデプロイする方法について説明します。

このタスクについて

新規の UXSPi パッケージを、既存の UXSPi 展開パッケージに追加します。

手順

1. SCCM コンソールを開き、デプロイする **UXSPI** を「**UXSPI マシン (UXSPI machine)**」カテゴリの下で右クリックして「ソフトウェアの更新の展開」を選択します。

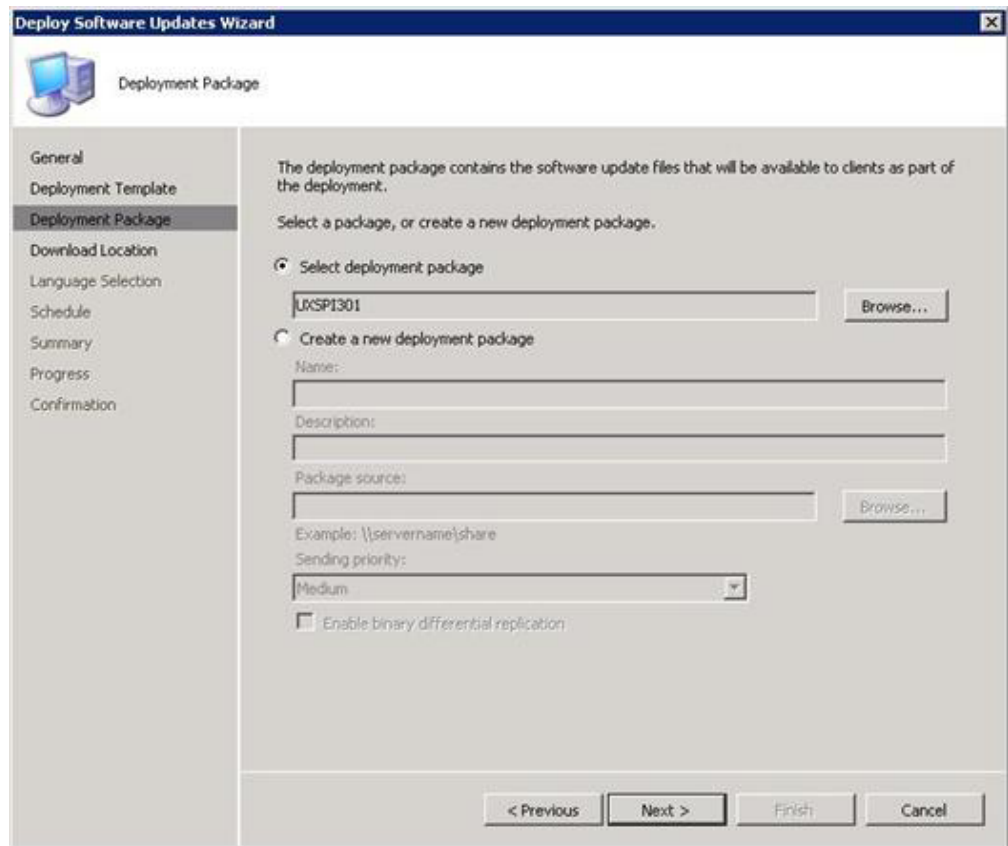


図 77. 既存 UXSPI デプロイメント・パッケージの選択

2. 次の情報を入力して「次へ」をクリックします。
 - a. 「名前」フィールドに固有の名前を入力します。
 - b. 「説明」フィールドに、ソフトウェア更新の展開を識別するための詳細な説明を入力します。

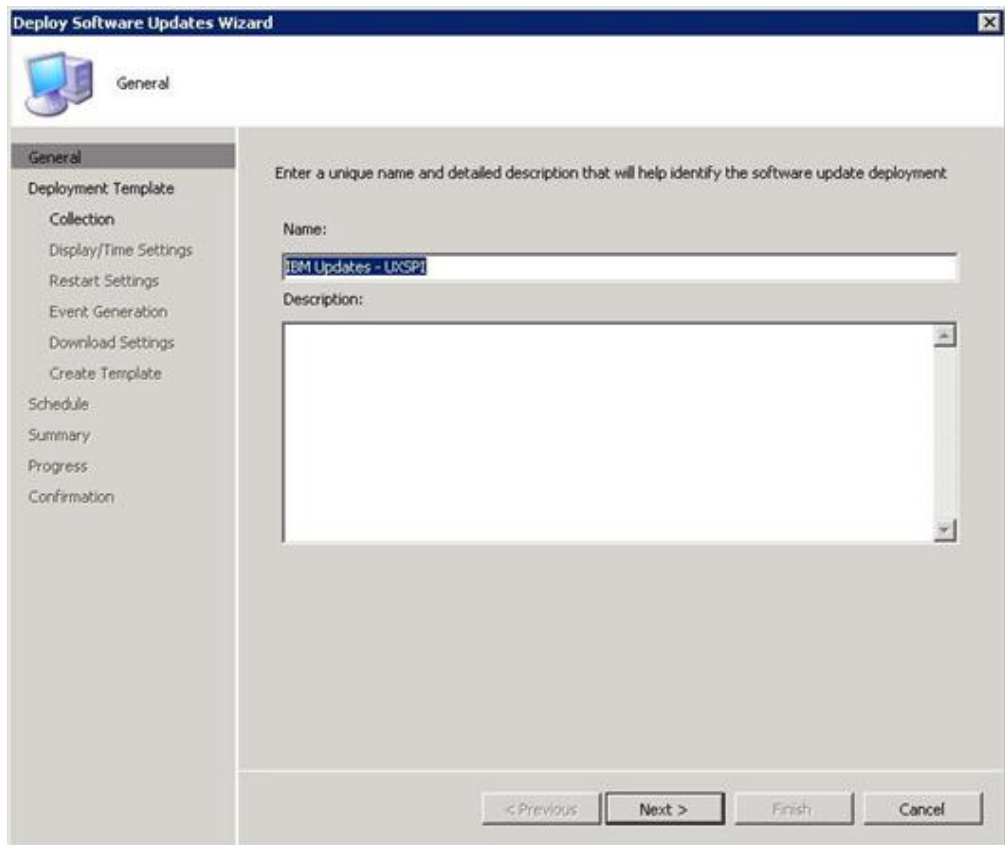


図 78. ソフトウェアの更新 - 全般

3. 「新しい展開の定義を作成する」または「既存のテンプレートを使用する」をクリックします。「次へ (Next)」をクリックします。

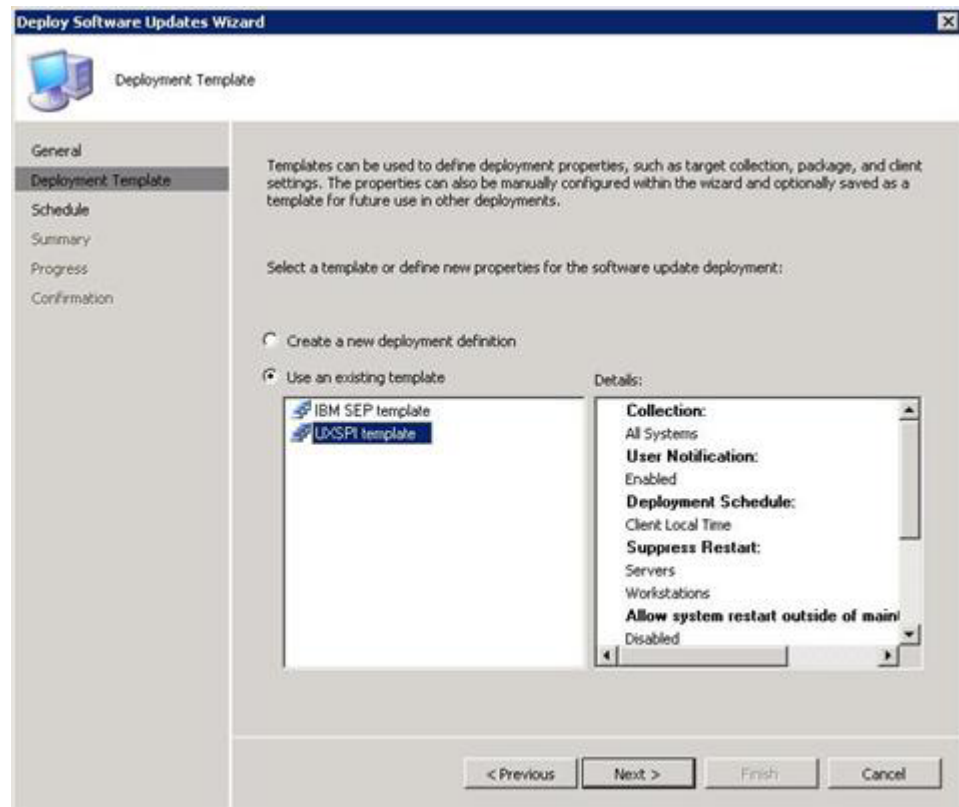


図 79. UXSPI 展開テンプレートの選択

4. 「展開パッケージを選択する」をクリックし、「参照」をクリックして既存の UXSPI 展開パッケージを指定します。

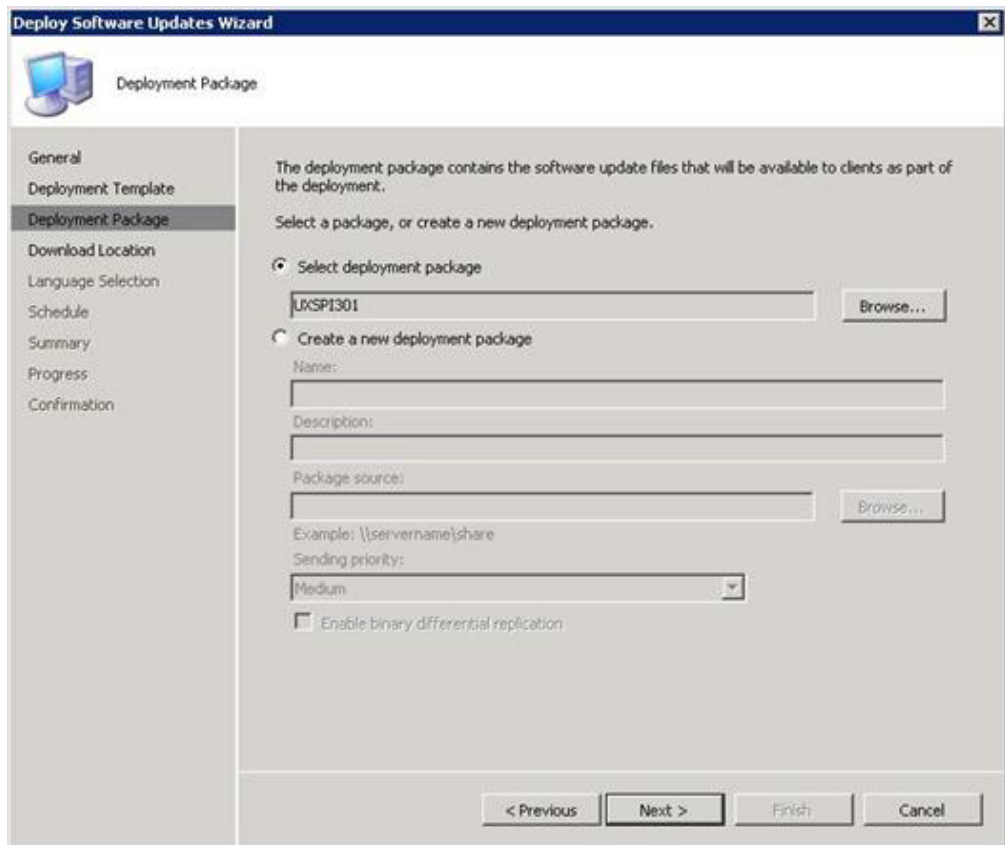


図 80. 既存 UXSPI デプロイメント・パッケージの選択

5. この手順の残りのステップについては、76 ページの『SCCM サーバーから SCCM クライアントへの IBM System Enablement Pack のデプロイ』のステップ 4 以降を実行してください。

第 4 章 Microsoft System Center Configuration Manager 2012 の操作

このセクションのトピックでは、Microsoft System Center Configuration Manager 2012 の操作方法について説明します。

ソフトウェア更新の同期

ソフトウェア更新の同期方法について以下の手順で説明します。

始める前に

System Center Configuration Manager(SCCM) サーバーが環境に合わせて事前にセットアップおよび構成されていなければなりません。 SCCM のセットアップ方法について詳しくは、System Center 2012 Configuration Managerを参照してください。

手順

1. Configuration Manager コンソールを起動するには、「スタート」 > 「すべてのプログラム」 > 「Microsoft System Center 2012」 > 「Configuration Manager」 > 「Configuration Manager コンソール」をクリックします。
2. ナビゲーション・ペインで、「ソフトウェア ライブラリ」 > 「概要」 > 「ソフトウェア更新プログラム」の順に展開します。

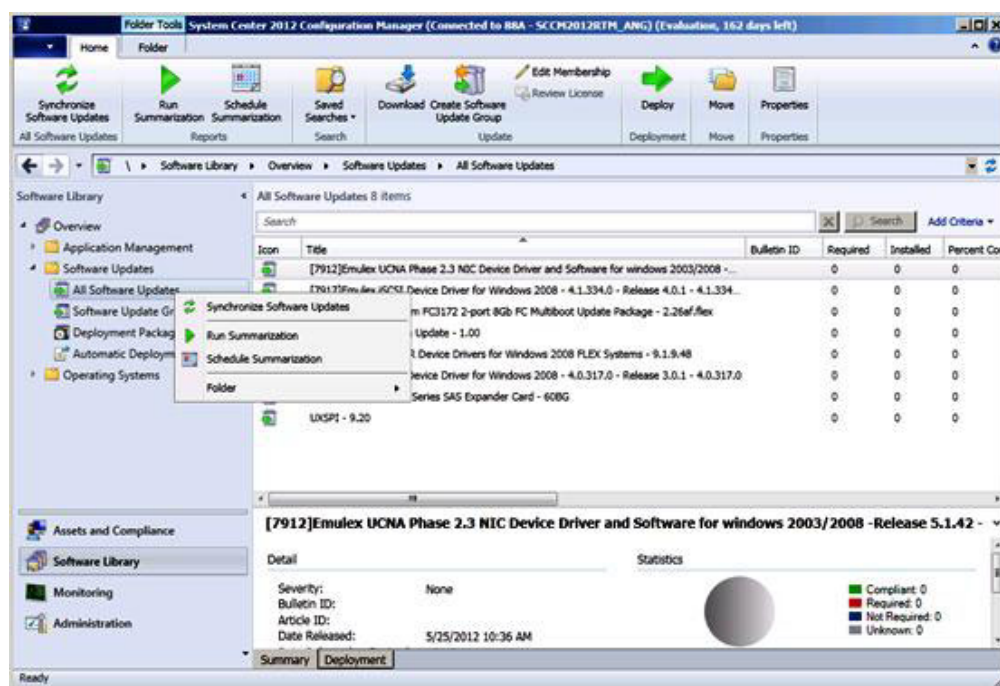


図 81. 更新リポジトリの同期

3. 「ソフトウェア更新プログラム」を展開し、「すべてのソフトウェア更新プログラム」を右クリックして、「ソフトウェア更新プログラムの同期」を選択します。
4. 「はい」をクリックして、サイト全体でのソフトウェア更新の同期を開始します。同期化処理は、完了するまでに数分間かかる場合があります。プロセスが完了したことを示すグラフィック表示はありません。
5. 同期が正常に完了した後、次の図に示すように、ナビゲーション・バーの「最新の情報に更新」ボタンをクリックして、更新を最新表示します。

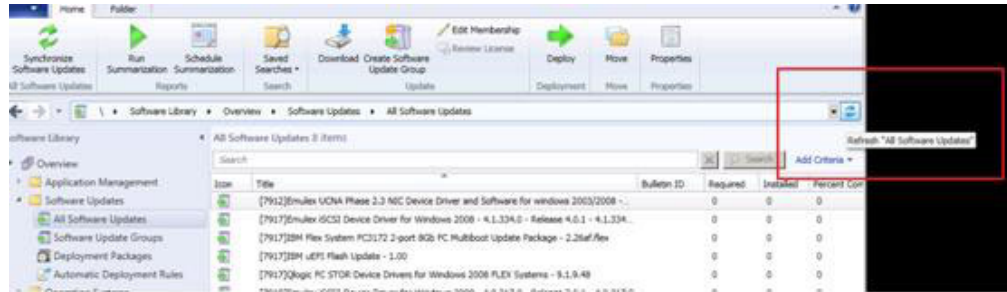


図 82. 更新の最新表示

6. 同期が正常に完了したかどうかを確認するには、以下の手順を実行します。
 - a. ナビゲーション・ペインで、「監視」 > 「システムのステータス」 > 「サイトのステータス」の順に展開します。
 - b. 「サイト サーバー」を展開して、「コンポーネントのステータス」をクリックします。SCCM サーバーのコンポーネントおよび各コンポーネントの状況のリストが、結果ペインに表示されます。
 - c. 結果ペインで、「SMS_WSUS_SYNC_MANAGER」を右クリックして、「メッセージを表示」 > 「すべて」を選択します。サイト・サーバーの「SMS ステータス メッセージ ビューアー」ウィンドウが開き、WSUS Sync Manager の状況メッセージが表示されます。同期処理が開始された時刻、進行中であった時刻、および完了したかどうかを示す最新のメッセージに注目してください。

パブリッシュされた更新の表示

パブリッシュされた更新を表示する方法について以下の手順で説明します。

このタスクについて

この作業は、Configuration Manager コンソールから実行します。

手順

1. Configuration Manager コンソールを起動するには、「スタート」 > 「すべてのプログラム」 > 「Microsoft System Center 2012」 > 「Configuration Manager」 > 「Configuration Manager コンソール」をクリックします。
2. ナビゲーション・ペインで、「概要」 > 「すべてのソフトウェア更新プログラム」の順に展開し、「すべてのソフトウェア更新プログラム」を右クリックします。

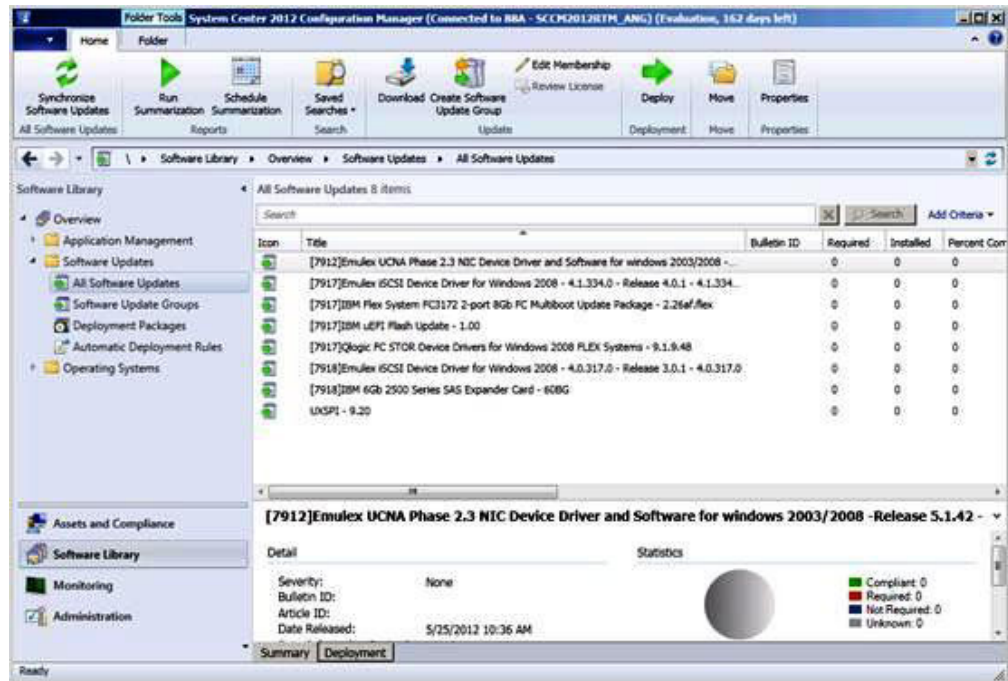


図 83. パブリッシュされた更新の表示

タスクの結果

対応するクライアントに更新が展開された後、クライアントは次回にクライアント・システム上でソフトウェア更新がスキャンされるときに、各更新が各クライアントに対して適用可能であるかインストール済みであることをサイト・データベースに報告します。管理者は、報告されたデータを参照し、以下の情報に基づいて、どの更新を配布する必要があるかを決定することができます。

インストール済み

更新がインストールされたクライアントが示されます。

必須 更新がインストールされたクライアントが示され、更新が適用可能であり、まだインストールされていないこと、またはインストール状況がサイト・サーバー・データベースに達していないことが報告されます。

不要 更新が適用可能ではないクライアント数が示されます。

不明 更新が適用可能ではないクライアント、ソフトウェア更新コンプライアンスが正常にスキャンされなかったクライアント、またはスキャン結果がサイト・サーバーに報告されていないクライアントの数が表示されます。

重要: UXSPi パッケージは、その他すべての IBM 更新の前提条件です。他のすべての IBM 更新の前に、UpdateXpress System Package をクライアント・システムに展開する必要があります。UXSPi パッケージがクライアント・システムにデプロイされていない場合、他の IBM 更新はそのクライアント・システム上で「必要なし」のマークが付けられます。ターゲット・マシンに SEP パッケージが必要な場合は、UXSPi パッケージをデプロイする前に、SEP パッケージをデプロイしてください。

UXSPi パッケージが正常にデプロイされた後、ある更新がクライアント・システムにデプロイされていない場合は、更新のコンプライアンス結果に「必須」のマークが付けられます。

System Center Configuration Manager での IBM 更新のデプロイ

どの更新を配布する必要があるかを判別後、管理者はそれらの IBM 更新を選択し、デプロイメント・パッケージを作成することによってそれらをクライアント・システムに配布します。

ターゲット・コレクションのクライアントが管理ポイントから新しいデプロイメント・パッケージを受け取ると、クライアントは、必要なソフトウェア更新バイナリーを含むデプロイメント・パッケージがある配布ポイントから、ソフトウェア更新をダウンロードします。その後、バイナリーがクライアントにインストールされ、対応ステータスがサイト・サーバーに報告されます。

ダウンロードおよび公開のフェーズは、IBM SUAP ツールによって実行されます。

このセクションの他のトピックに、IBM System Updates for Microsoft System Center Configuration Manager v5.0 ソリューションの実装に関する詳細情報があります。

IBM 更新デプロイメント前提条件の確認

以下の手順を実行して、IBM 更新をデプロイするための前提条件を確認します。

このタスクについて

この作業は、Configuration Manager コンソールから実行します。

手順

1. Configuration Manager コンソールを起動するには、「スタート」 > 「すべてのプログラム」 > 「Microsoft System Center 2012」 > 「Configuration Manager」 > 「Configuration Manager コンソール」をクリックします。
2. ナビゲーション・ペインで、「概要」を展開します。以下の 1 つ以上を選択して、状況を表示します。
 - サイトのステータス
 - コンポーネントのステータス
 - サイト システムのステータス

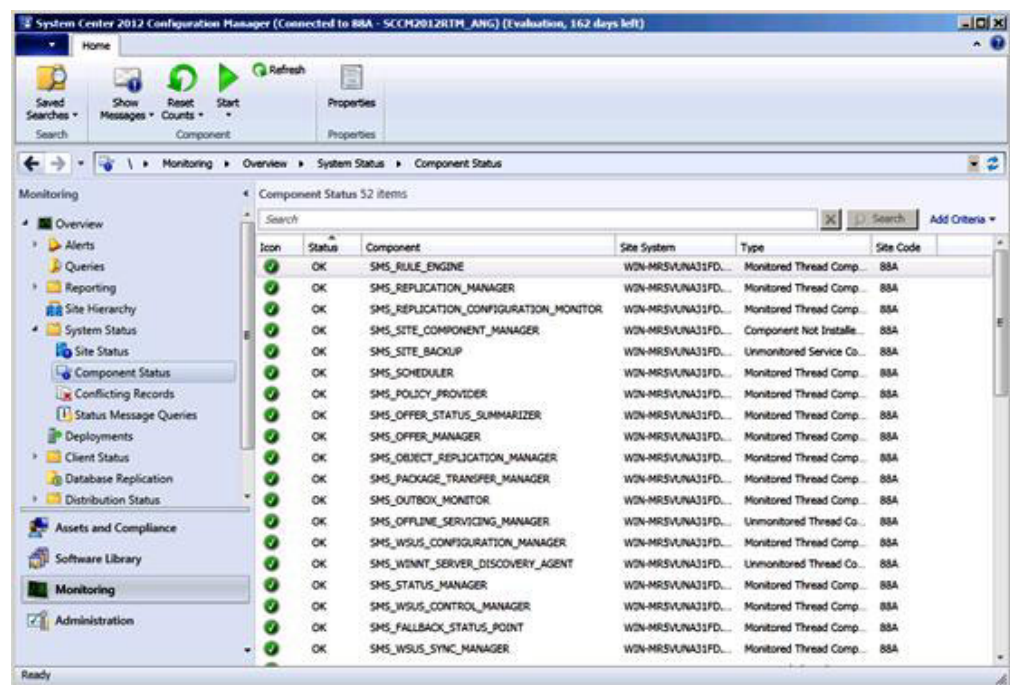


図 84. コンポーネントの状況

コンポーネントが正しく機能している場合は、サイト状況、コンポーネント状況、およびサイト・システム状況に OK と表示され、SCCM サーバー状況は正常です。

SCCM でシステム更新ポイント役割を追加

システム更新ポイント役割を追加するには、以下の手順を実行します。

このタスクについて

この作業は、Configuration Manager コンソールから実行します。

手順

1. ナビゲーション・ペインで、「管理」 > 「概要」 > 「サイトの構成」 > 「Configuration Manager」 > 「サーバーとサイト システムの役割」 > %サイト名%の順に展開します。
2. 「%Site Name%」を右クリックします。
3. 「サイト・システム役割の追加 (Add Site System Roles)」を選択します。「サイト・システム役割の追加 (Add Site System Roles)」ウィザードが開始されます。
4. 「次へ (Next)」をクリックします。
5. 「システム更新ポイント (System Update Point)」役割を選択します。

「サイト・システムとして使用するサーバーの選択 (Select a server to use as a site system)」ページが開きます。

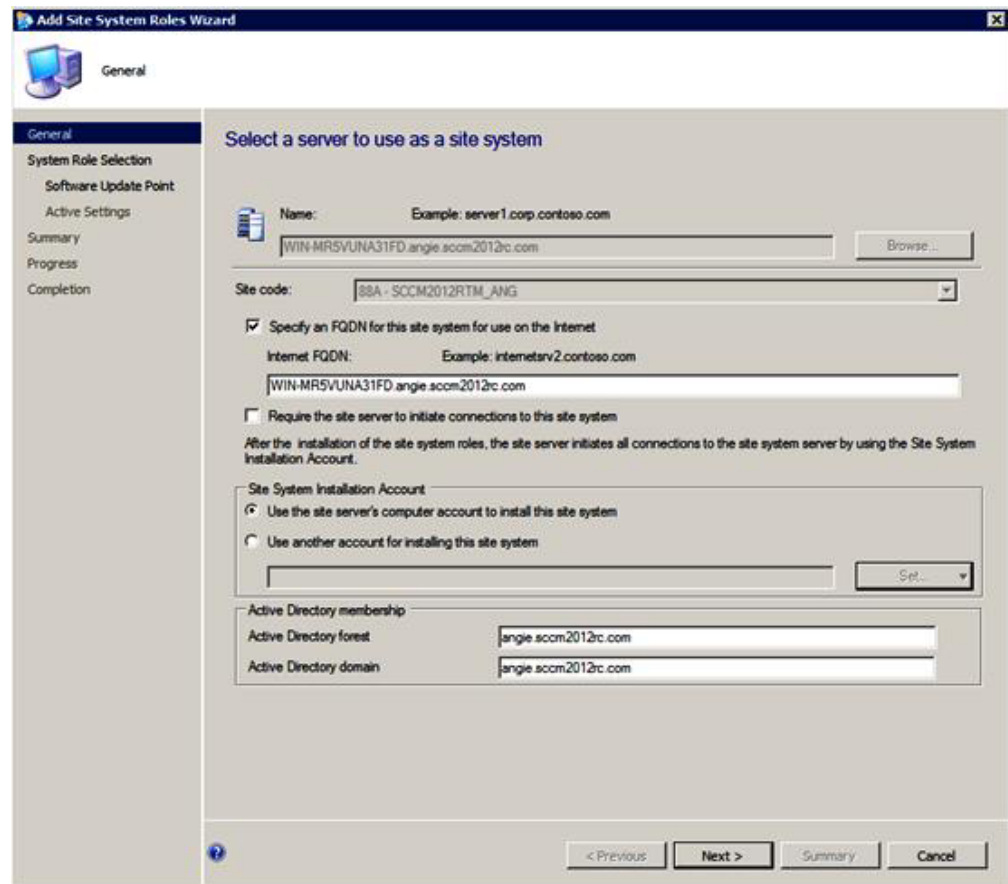


図 85. サイト・システムとして使用するサーバーの選択

6. システム更新サービス・ポイントの構成用のデフォルト設定を受け入れます。

クライアント・マシンの構成

システム更新サービス・ポイントの追加後、更新を受け取るようにクライアント・マシンを構成する必要があります。

このタスクについて

この作業は、Configuration Manager コンソールから実行します。

手順

1. Configuration Manager コンソールを起動するには、「スタート」 > 「すべてのプログラム」 > 「Microsoft System Center 2012」 > 「Configuration Manager」 > 「Configuration Manager コンソール」をクリックします。

2. クライアント・システムを検出して、System Center Configuration Manager (SCCM) サーバーを介して管理エージェントをインストールします。
3. クライアント・システム上で Windows Server Update Services (WSUS) 自己署名証明書を構成します。 SCCM の管理対象クライアント・システムには、「信頼されたルート証明機関」フォルダー内に WSUS Publishers Self-signed 証明書があります。
4. Windows グループ・ポリシー・エディターを使用して、SCCM クライアント上で「イントラネットの Microsoft 更新サービスの保存場所にある署名済みコンテンツを許可する」にチェックします。
5. クライアント・コンピューター上でグループ・ポリシーを構成する方法はいくつかあります。以下の手順を実行してクライアント・コンピューター上でグループ・ポリシーを構成します。
 - a. SCCM の管理対象クライアントのオペレーティング・システムで、「スタート」をクリックして「ファイル名を指定して実行」を選択します。
GPEDIT.MSC と入力して、「OK」をクリックします。
 - b. 「コンピュータの構成」 > 「管理用テンプレート」 > 「Windows コンポーネント」 > 「Windows Update」を展開します。

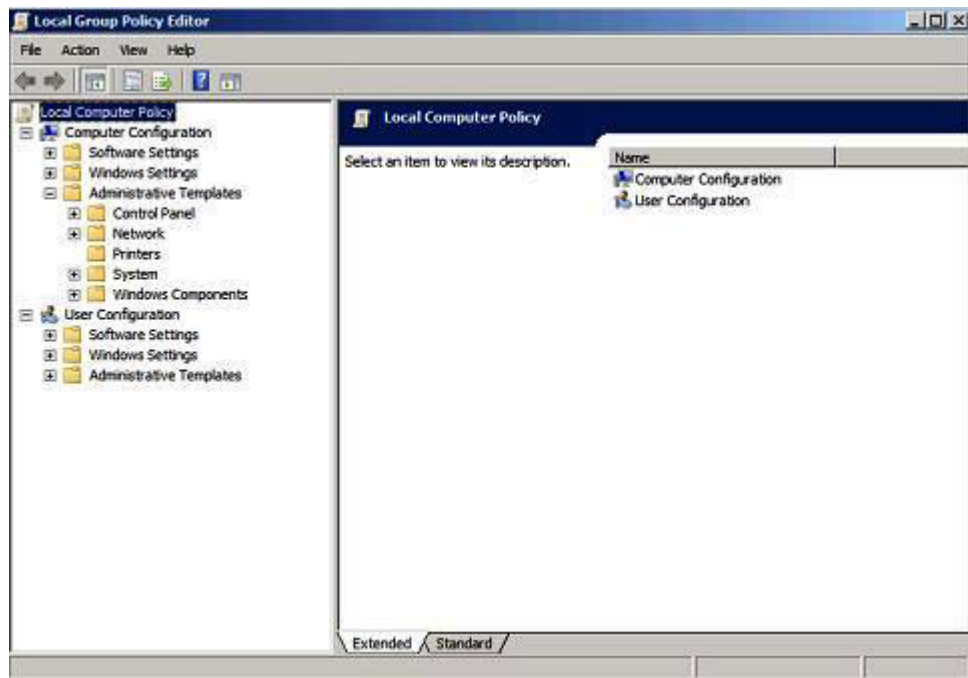


図 86. ローカル・コンピューター・ポリシーの構成

- c. 「イントラネットの Microsoft 更新サービスの保存場所にある署名済みコンテンツを許可する」をダブルクリックします。

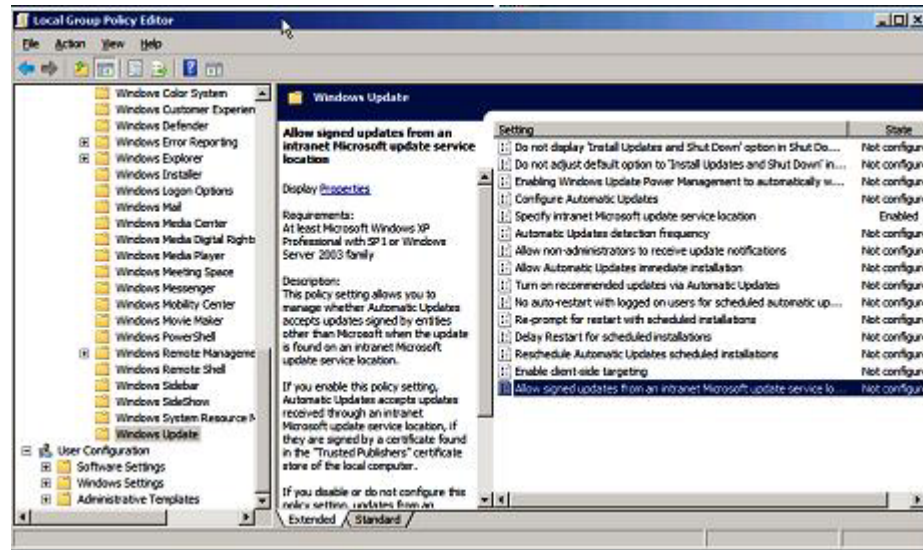


図 87. イントラネットの Microsoft 更新サービスの保存場所にある署名済み更新を許可

- d. 「有効」を選択して「OK」をクリックします。
- e. グループ・ポリシー・エディターを閉じます。

次のタスク

IBM 更新を SCCM クライアントにデプロイする前に、.NET Framework 2.0、3.0、または 3.5 が SCCM クライアントにインストールされていることを確認してください。

SCCM サーバーから SCCM クライアントへの IBM SEP のデプロイ

IBM System Enablement Pack は、システム固有のコードを含むパッケージです。このパッケージは、新規の System x および Blade サーバーで DSA、ファームウェア更新、およびオペレーティング・システムのデプロイメントをサポートするために使用されます。ターゲット・クライアントが SEP に依存している場合は、最初はこのパッケージを展開してください。System Center Configuration Manager (SCCM) サーバーから SCCM クライアントに IBM SEP パッケージをデプロイする方法について以下の手順で説明します。

このタスクについて

この作業は、Configuration Manager コンソールから実行します。

手順

1. Configuration Manager コンソールを起動するには、「スタート」 > 「すべてのプログラム」 > 「Microsoft System Center 2012」 > 「Configuration Manager」 > 「Configuration Manager コンソール」をクリックします。
2. ナビゲーション・ペインで、「ソフトウェア ライブラリ」 > 「概要」 > 「ソフトウェア更新プログラム」 > 「すべてのソフトウェア更新プログラム」の順に展開します。

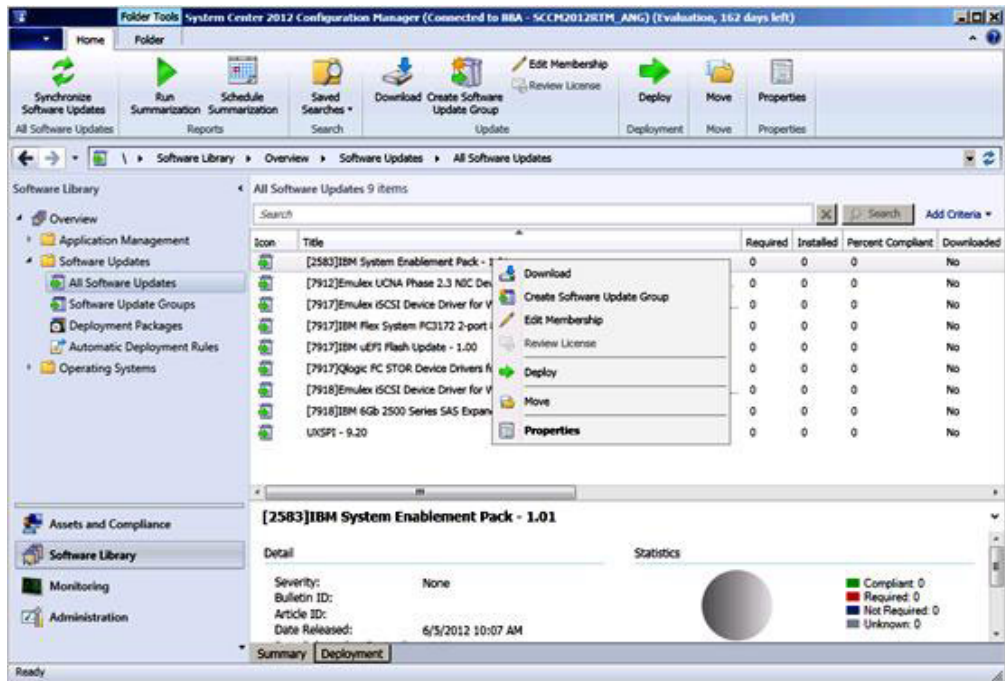


図 88. ソフトウェア更新の展開

3. 結果ペインで、デプロイする SEP を右クリックして、「展開」を選択します。「ソフトウェアの更新の展開ウィザード」が開きます。

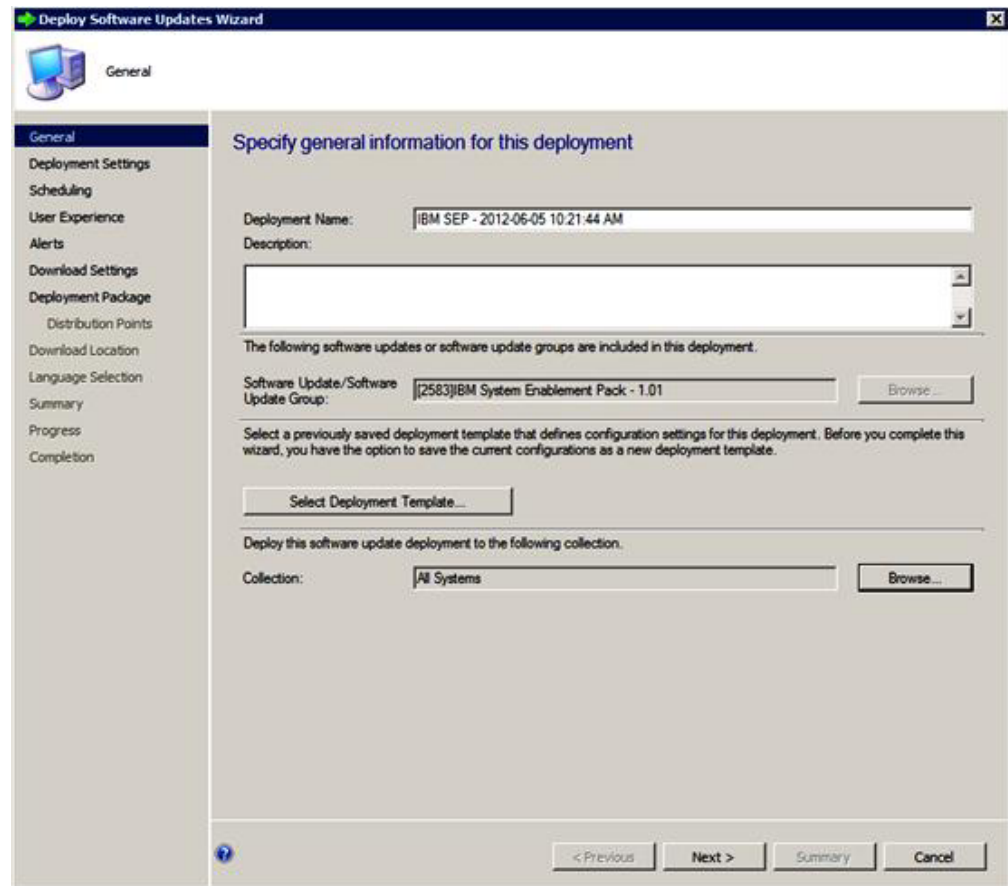


図 89. ソフトウェアの更新の展開ウィザード - 全般

4. 以下の情報を入力します。
 - a. **展開名:** 固有の名前を入力します。
 - b. **説明:** ソフトウェア更新デプロイメントを識別するときに役立つ詳細な説明を入力します。
5. 「参照」をクリックしてコレクションを選択し、「次へ」をクリックします。
「展開パッケージ (Deployment package)」ページが開きます。

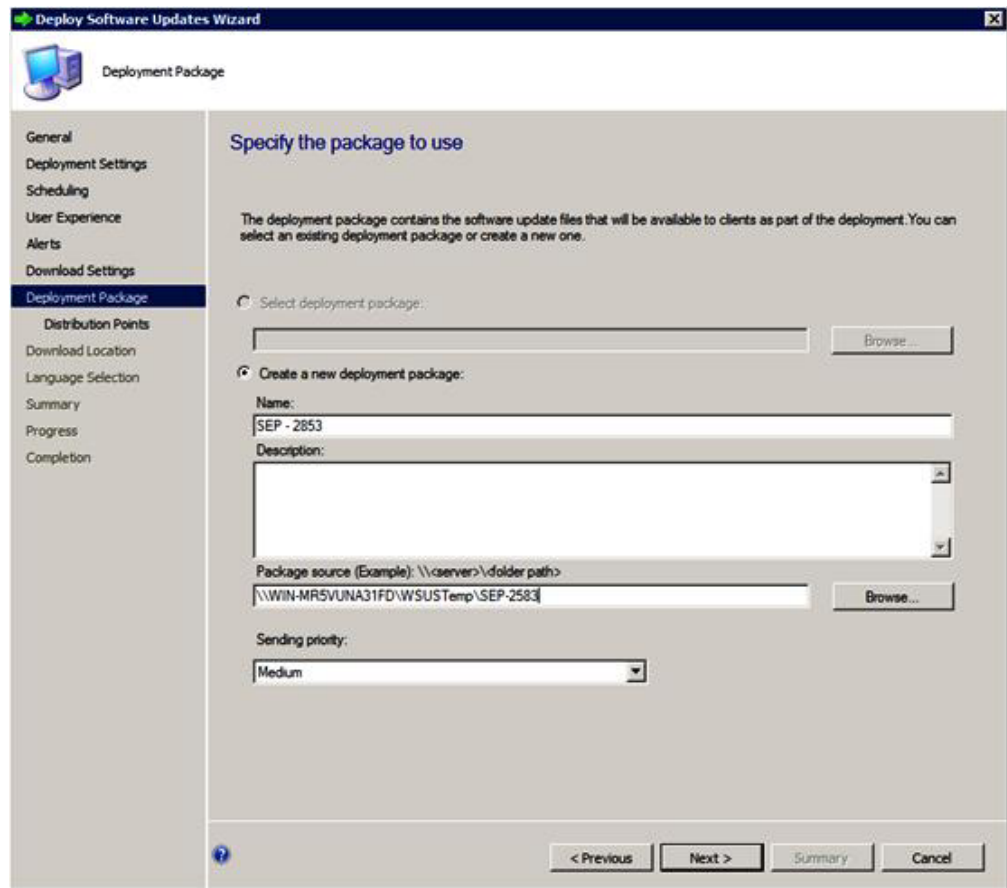


図 90. 「展開パッケージ (Deployment package)」 ページ

6. 既存のデプロイメント・パッケージを使用する場合は、ステップ a、e、および f を実行します。新しいデプロイメント・パッケージを作成する場合は、ステップ b、c、d、e、および f を実行します。
 - a. 「展開パッケージの選択」をクリックし、「参照」をクリックして、デプロイメント・パッケージを選択します。
 - b. 「新しい展開パッケージを作成する」をクリックします。
 - c. SEP の固有名を「名前」フィールドに入力します。
 - d. パッケージ・ソース・ファイルの場所を参照して選択します。
 - e. 「送信の優先順位」を選択します。
 - f. 「次へ (Next)」をクリックします。
- 「配布ポイント (Distribution Points)」 ページが開きます。

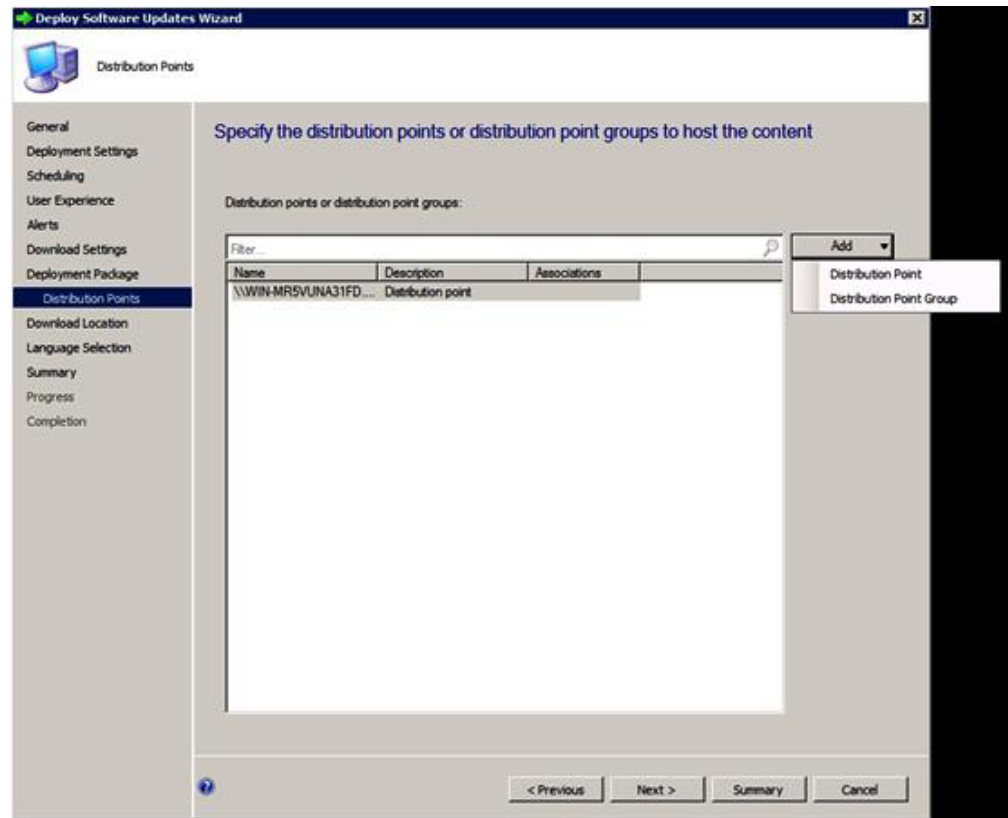


図 91. 「配布ポイント」 ページ

7. 「追加」をクリックして「配布ポイント」を選択します。「次へ (Next)」をクリックします。「ダウンロード場所」ページが開きます。
8. 「ソフトウェア更新をマイ・ネットワーク上の場所からダウンロード (Download software updates from a location on my network)」を選択し、「参照」をクリックしてソフトウェア更新ファイルの場所まで移動し、「次へ」をクリックします。「言語の選択」ページが開きます。
9. 「言語の選択」ページで言語選択用のデフォルト設定を使用または変更して、「次へ」をクリックします。「概要」ページが開きます。

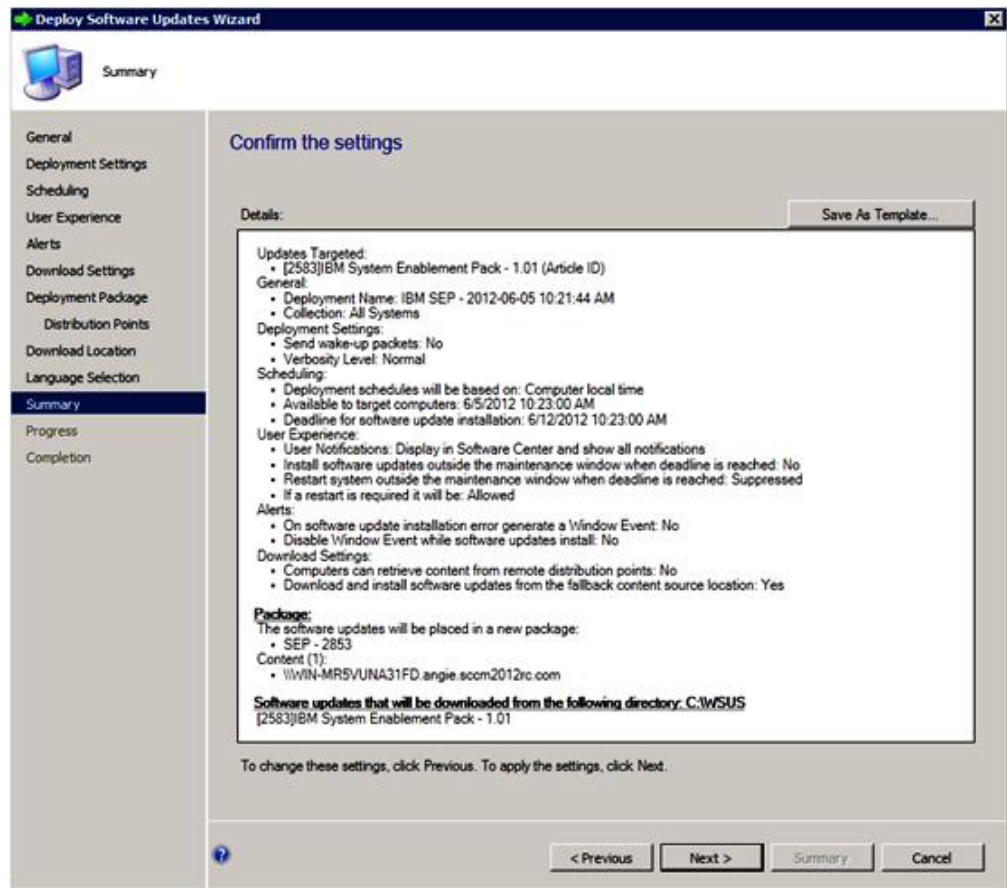


図 92. 「ソフトウェアの更新の展開ウィザード」の要約

10. 「概要」ページで、設定を受け入れ、「次へ」をクリックしてソフトウェア更新をデプロイするか、「テンプレートとして保存」をクリックします。設定を変更する必要がある場合は、「前へ」をクリックして、「スケジュール」、「ユーザー側の表示と操作」、「アラート」、および「ダウンロードの設定」などの設定の 1 つ以上を変更します。「完了」ページが開きます。
11. 「概要」ページで「次へ」をクリックします。
12. 「閉じる」をクリックします。

SCCM サーバーから SCCM クライアントへの IBM UXSPI のデプロイ

UXSPI パッケージは他のすべての IBM 更新に対する前提条件です。他のすべての IBM 更新の前に、UpdateXpress System Package をクライアント・システムに展開する必要があります。UXSPI パッケージがアップグレードされ、すべての更新が Windows Server Update Services (WSUS)サーバーに公開されると、古い UXSPI パッケージが System Center Configuration Manager (SCCM) サーバーにある場合は、新しい UXSPI パッケージに置き換わります。以下のシナリオでは、新しい UXSPI バージョンへのアップグレード時にパッケージをデプロイする場合のさまざまな状態について説明します。

SCCM サーバーから SCCM クライアントへの IBM UXSPI のデプロイ (旧 UXSPI バージョンがデプロイされていなかった場合)

以下の手順では、旧 UXSPI パッケージがデプロイされていなかった場合に、UXSPI パッケージを System Center Configuration Manager (SCCM) サーバーから SCCM クライアントへデプロイする方法について説明します。

このタスクについて

この作業は、Configuration Manager コンソールから実行します。

手順

1. Configuration Manager コンソールを起動するには、「スタート」 > 「すべてのプログラム」 > 「Microsoft System Center 2012」 > 「Configuration Manager」 > 「Configuration Manager コンソール」をクリックします。
2. UXSPI マシン・フォルダーで「UXSPI」を右クリックして「展開」を選択します。
3. 99 ページの『SCCM サーバーから SCCM クライアントへの IBM SEP のデプロイ』のステップ 4 から 13 に従って、UXSPI パッケージのデプロイを完了します。

SCCM サーバーから SCCM クライアントへの IBM UXSPI のデプロイ (旧 UXSPI がデプロイされている場合)

以下では、旧 UXSPI パッケージがデプロイされている状態で UXSPI をアップグレードする場合に、System Center Configuration Manager (SCCM) サーバーから SCCM クライアントに IBM UXSPI パッケージをデプロイする 3 つの方法について説明します。

方法 1: SCCM サーバーから SCCM クライアントに IBM UXSPI パッケージをデプロイする

方法 1 は、古い UXSPi デプロイメント提供情報およびデプロイメント・パッケージを削除して新しい UXSPi デプロイメント・パッケージを作成する方法です。

System Center Configuration Manager (SCCM) サーバーから SCCM クライアントに UXSPi パッケージをデプロイする方法について以下の手順で説明します。

このタスクについて

この作業は、Configuration Manager コンソールから実行します。

手順

1. Configuration Manager コンソールを起動するには、「スタート」 > 「すべてのプログラム」 > 「Microsoft System Center 2012」 > 「Configuration Manager」 > 「Configuration Manager コンソール」をクリックします。
2. ナビゲーション・ペインで、「ソフトウェア ライブラリ」 > 「概要」 > 「展開パッケージ」の順に展開します。「展開パッケージ (Deployment Package)」ページが開きます。



図 93. 古い UXSPi 提供情報の削除

3. 結果ペインで、古い UXSPi デプロイメント・パッケージを右クリックして、「削除」を選択します。
4. デプロイする UXSPi パッケージを右クリックして、「展開」をクリックします。このアクションは、次の図にあるように実行します。

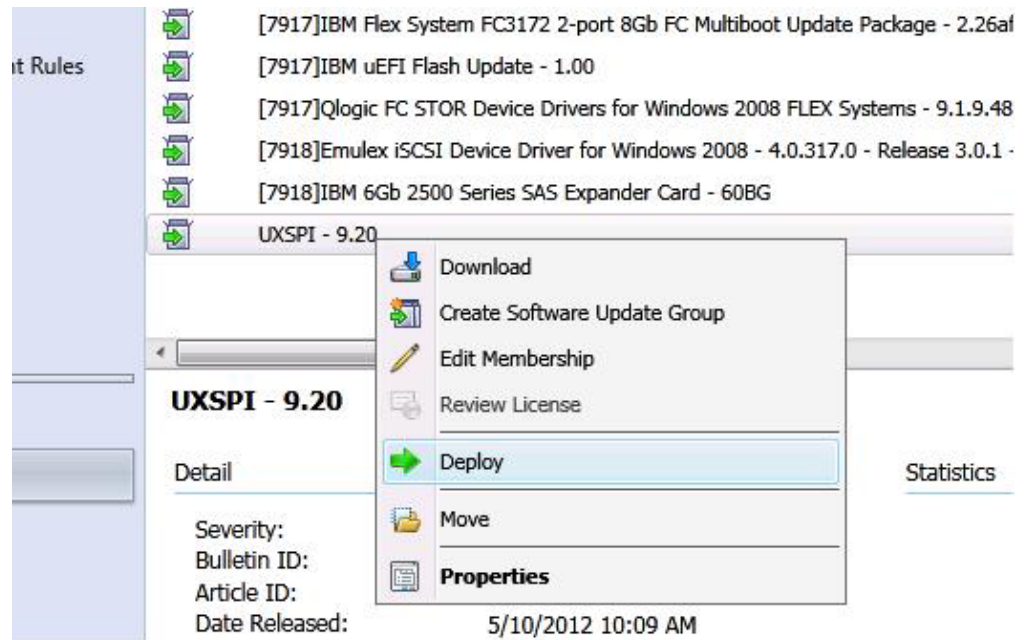


図 94. UXSPi ソフトウェア・パッケージの展開

5. 99 ページの『SCCM サーバーから SCCM クライアントへの IBM SEP のデプロイ』の説明に従ってステップ 4 からステップ 12 までを実行します。

方法 2: 古い UXSPi パッケージと共存するように新規 IBM UXSPi パッケージをデプロイする

方法 2 は、既存の UXSPi パッケージを削除せずに新規 UXSPi パッケージをデプロイする方法です。古い UXSPi パッケージと共存するように新規 IBM UXSPi パッケージをデプロイする方法について以下の手順で説明します。

このタスクについて

この作業は、Configuration Manager コンソールから実行します。

手順

1. Configuration Manager コンソールを起動するには、「スタート」 > 「すべてのプログラム」 > 「Microsoft System Center 2012」 > 「Configuration Manager」 > 「Configuration Manager コンソール」をクリックします。
2. ナビゲーション・ペインで、「ソフトウェア ライブラリ」 > 「概要」 > 「展開パッケージ」の順に展開します。「展開パッケージ (Deployment Package)」ページが開きます。
3. デプロイする UXSPi を右クリックして、「展開」をクリックします。このアクションは、次の図にあるように実行します。

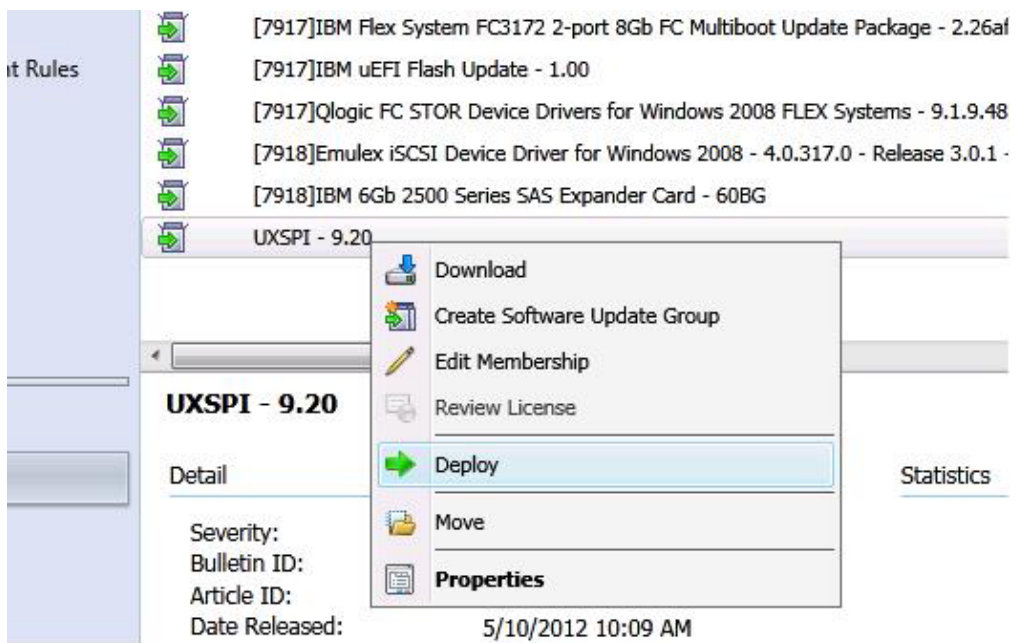


図 95. UXSPi ソフトウェア・パッケージの展開

4. 99 ページの『SCCM サーバーから SCCM クライアントへの IBM SEP のデプロイ』セクションにあるステップ 4 からステップ 12 までを実行します。

方法 3: 新規 IBM UXSPI パッケージを既存の UXSPI デプロイメント・パッケージに追加する

方法 3 は、新規 UXSPi パッケージを既存の UXSPI デプロイメント・パッケージに追加する方法です。以下の手順では、新規 IBM UXSPi パッケージの追加方法について説明しています。

このタスクについて

この作業は、Configuration Manager コンソールから実行します。

手順

1. Configuration Manager コンソールを起動するには、「スタート」 > 「すべてのプログラム」 > 「Microsoft System Center 2012」 > 「Configuration Manager」 > 「Configuration Manager コンソール」をクリックします。
2. ナビゲーション・ペインで、「ソフトウェア ライブラリ」 > 「概要」 > 「展開パッケージ」の順に展開します。
3. 結果ペインで、デプロイする UXSPi パッケージを右クリックして、「展開」を選択します。このアクションは、次の図にあるように実行します。

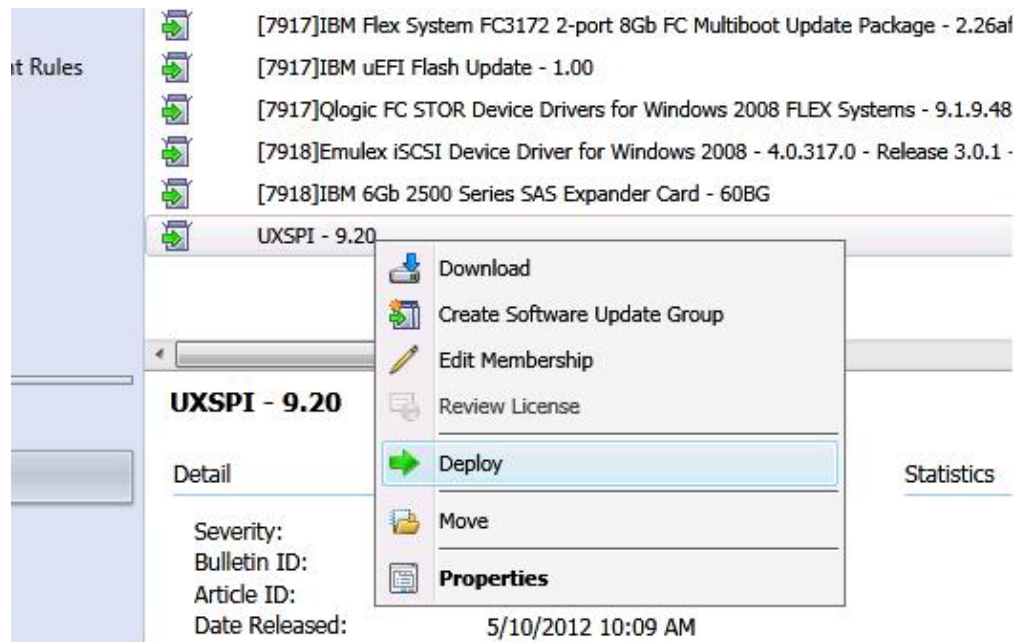


図 96. 既存の UXSPi 展開パッケージの選択

「全般」 ページが開きます。

4. このデプロイメントに関して以下の情報を入力します。
 - a. **名前:** 固有の名前を入力します。
 - b. **説明:** ソフトウェア更新デプロイメントを識別するときに役立つ詳細な説明を入力します。

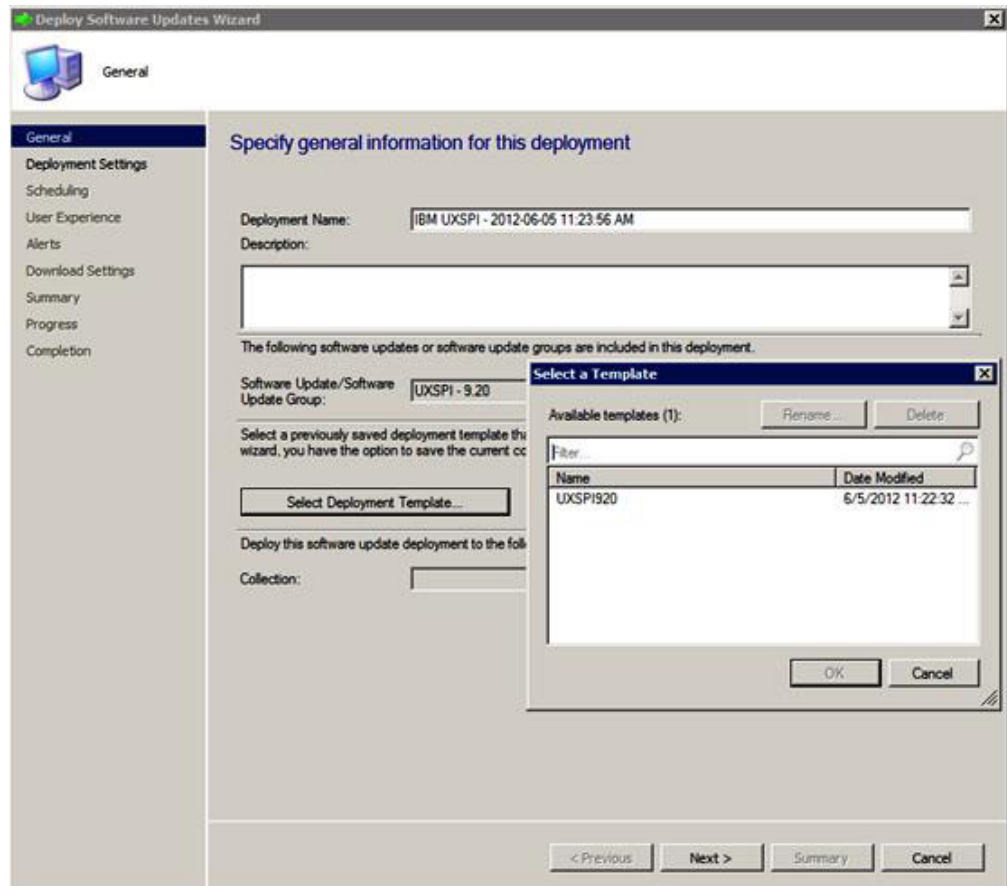


図 97. テンプレートを使用したソフトウェア更新

5. 「展開テンプレートの選択」をクリックします。「テンプレートの選択」ウィンドウが開きます。
6. リストからテンプレートを選択するか、「フィルター」フィールドにテンプレートの名前を入力してテンプレートを検索し、「OK」をクリックします。
7. 「次へ (Next)」をクリックします。「要約 (Summary)」ページが開きます。

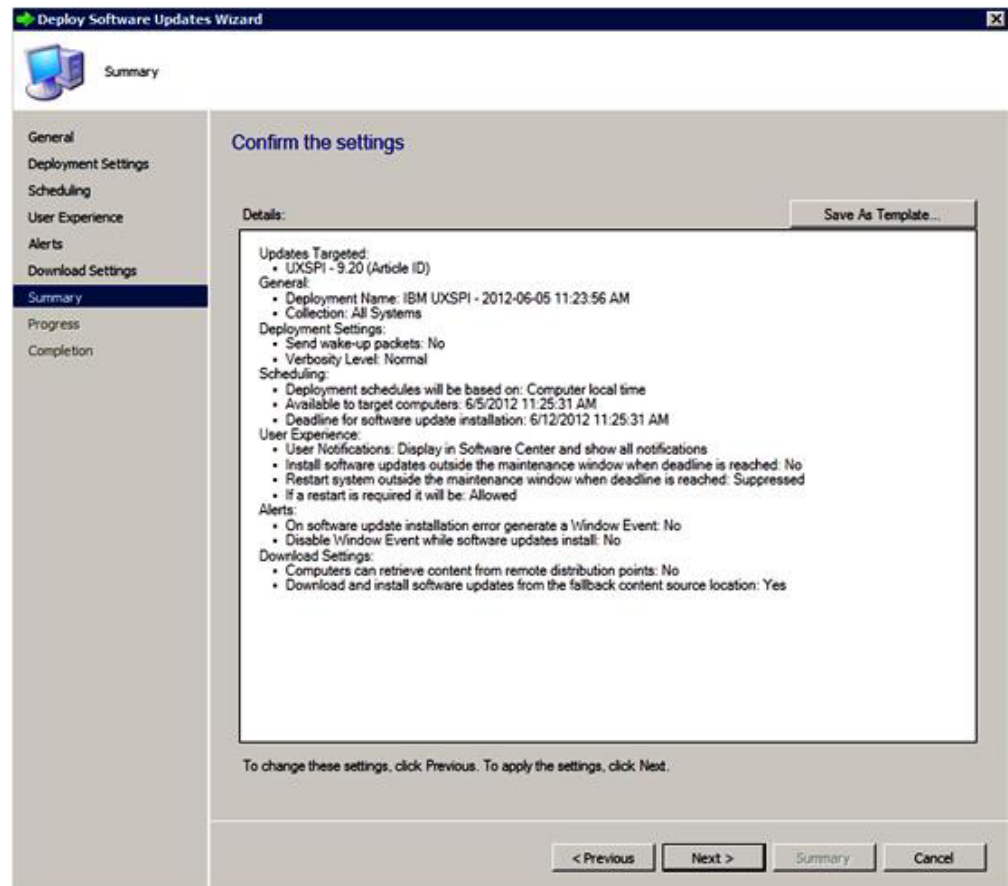


図 98. 「要約 (Summary)」 ページ

8. 「次へ」をクリックして現行テンプレート設定を使用するか、「前へ」をクリックして設定を変更します。このステップについて詳しくは、105 ページの『SCCM サーバーから SCCM クライアントへの IBM UXSPI のデプロイ』を参照してください。

SCCM サーバーから SCCM クライアントへの IBM 更新の展開

Configuration Manager (SCCM) サーバーから SCCM クライアントに IBM 更新をデプロイする方法について以下の手順で説明します。

このタスクについて

この作業は、Configuration Manager コンソールから実行します。

手順

1. Configuration Manager コンソールを起動するには、「スタート」 > 「すべてのプログラム」 > 「Microsoft System Center 2012」 > 「Configuration Manager」 > 「Configuration Manager コンソール」をクリックします。
2. ナビゲーション・ペインで、「ソフトウェア ライブラリ」 > 「概要」 > 「展開パッケージ」の順に展開します。
3. 結果ペインで、右クリックしてデプロイメントの更新を選択し、「ソフトウェア更新プログラムの展開」を選択します。このアクションは、次の図にあるように実行します。

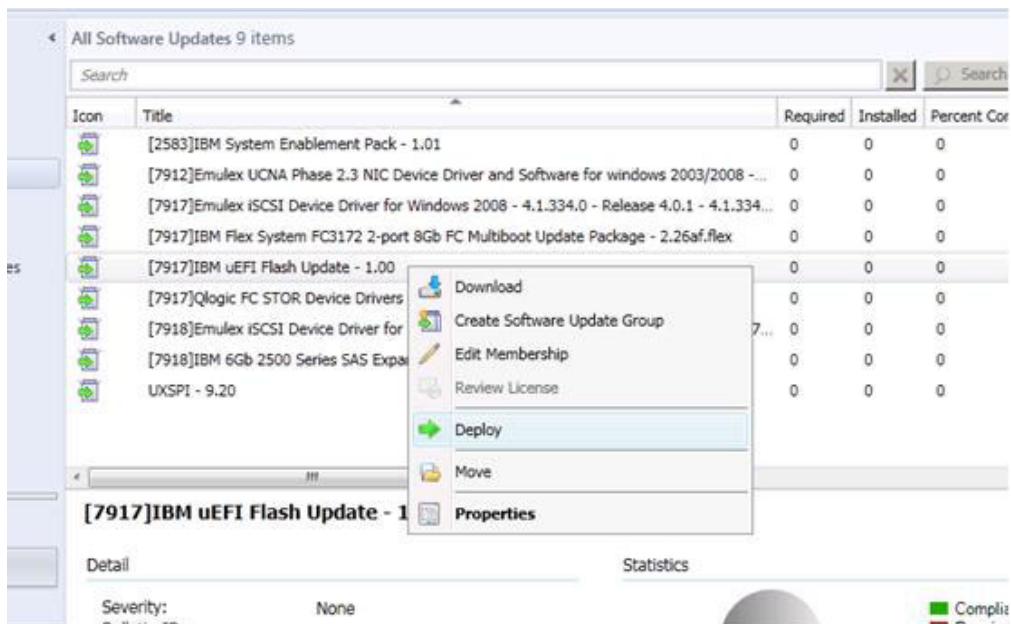


図 99. SCCM サーバーから SCCM クライアントへの IBM 更新のデプロイ

4. 99 ページの『SCCM サーバーから SCCM クライアントへの IBM SEP のデプロイ』の説明に従ってステップ 4 からステップ 12 までを実行します。

第 5 章 サポートされるハードウェアおよびソフトウェア

このセクションのトピックでは、IBM System Updates for Microsoft System Center Configuration Manager v5.0 でサポートされるハードウェアおよびソフトウェアについて説明します。

サポートされる Microsoft System Center 製品

IBM System Updates for Microsoft System Center Configuration Manager v5.0 Solution は、以下の Microsoft System Center 製品をサポートします。

- Microsoft System Center Configuration Manager 2012
- Microsoft System Center Configuration Manager 2012 R2
- Microsoft System Center Configuration Manager 2012 SP1
- Microsoft System Center Configuration Manager 2007 R2
- Microsoft System Center Configuration Manager 2007 SP2
-

サポートされるクライアント・システム

IBM System Updates は以下のクライアント・システムをサポートしています。

サポートされているシステム

表 2. サポートされるシステム

製品ファミリー名	マシン・タイプ
IBM BladeCenter HS20	1883、8843
IBM BladeCenter HS21	1885、8853
IBM BladeCenter HS22	7870、1936、1911
IBM BladeCenter HS22V	1949、7871
IBM BladeCenter HS23	7875、1929
IBM BladeCenter HS23E	8038、8039
IBM BladeCenter HX5	1909、1910、7872、7873
IBM BladeCenter LS21	7971
IBM BladeCenter LS22	7901
IBM BladeCenter LS42	7902
IBM Flex System x220 コンピュート・ノード	7906、2585
IBM Flex System x222 コンピュート・ノード	7916
IBM Flex System x240 コンピュート・ノード	8737、8738、7863
IBM Flex System x440 コンピュート・ノード	7917

表 2. サポートされるシステム (続き)

製品ファミリー名	マシン・タイプ
IBM NeXtScale ノード	5455
IBM Smart Analytics System	7949
IBM System x3100 M4	2582
IBM System x3200 M2	4367、4368
IBM System x3200 M3	7327、7328
IBM System x3250 M2	7657
IBM System x3250 M3	4251、4252、4261
IBM System x3250 M4	2583
IBM System x3250 M5	5458
IBM System x3300 M4	7382
IBM System x3400 M2	7836、7837
IBM System x3400 M3	7378、7379
IBM System x3500	7977
IBM System x3500 M2	7839
IBM System x3500 M3	7380
IBM System x3500 M4	7383
IBM System x3530 M4	7160
IBM System x3550	7978、1913
IBM System x3550 M2	4198、7946
IBM System x3550 M3	4254、7944
IBM System x3550 M4	7914
IBM System x3620 M3	7376
IBM System x3630 M3	7377
IBM System x3630 M4	7158
IBM System x3650	7979、1914
IBM System x3650 M2	7947、4199
IBM System x3650 M3	4255、5454、7945
IBM System x3650 M4	7915
IBM System x3650 M4 HD	5460
IBM System x3690 X5	7147、7148、7149、7192、
IBM System x3750 M4	8752
IBM System x3755	7163
IBM System x3755 M3	7164
IBM System x3850	8864、7365、7362
IBM System x3850 M2	7141、7144、7233、7234
IBM System x3850 X5/x3950 X5	7145、7146、7191、7143
IBM System x3850 X6	3837
IBM System x3950 M2	7141、7144、7233、7234
IBM System x3950 M2 デュアル・ノード	7141、7233、7234
IBM System x3950 M2 3-4 ノード	7141、7233、7234

表 2. サポートされるシステム (続き)

製品ファミリー名	マシン・タイプ
IBM System x3950 X5	7145、7146
IBM System x iDataPlex dx360 M4	7912、7913

クライアント・マシンでサポートされるオペレーティング・システム

クライアント・マシンでは、以下の Windows オペレーティング・システムがサポートされます。

- Windows 2012 R2
- Windows Server 2012 SP1
- Windows Server 2008 SP1/R2
- Windows Server 2008 SP1/SP2
- Windows Server 2008 SP1/SP2 x64
- Windows Server 2003 SP2/R2
- Windows Server 2003 SP2/R2 x64

サーバー・マシンで必要なソフトウェア

サーバー・マシンでは、Microsoft .NET Framework 4.0 が必要です。

クライアント・マシンで必要なソフトウェア

クライアント・マシンでは、Microsoft .NET Framework 2.0 が必要です。

付録 A. トラブルシューティング

このセクションのトピックは、トラブルシューティングに役立ちます。

SUAP ログの構成方法

IBM System Updates Acquisition and Publishing ツールのホスト・マシンおよび System Center Configuration Manager (SCCM) クライアント・マシンの両方の IBM System Updates Acquisition and Publishing ツールのログ・レベルの値を変更することができます。

IBM System Updates Acquisition and Publishing ツールは、以下のレジストリー・キーを使用してログ・レベルを記録します。

- [HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\IBM\System Management Integrations\Log]
- **LogLevel=Info**

使用可能な「LogLevel」値は、Debug、Info、Warn、Error、および Fatal です。

デフォルトでは、「Info」レベルが使用されます。

IBM Web サイトからの更新のダウンロードに失敗する

このトピックでは、更新のダウンロードがどのように失敗したかをトラブルシューティングするために使用可能な解決策を提供します。

問題 ダウンロードが失敗する

考えられる解決策

IBM System Updates Acquisition and Publishing ツールが Web ブラウザーを使用して IBM 更新リポジトリー・サーバーに接続できるかどうか、また Fix Central に接続できるかどうかを確認します。

IBM 更新リポジトリーに接続できなかった場合は、次のエラーが表示されます。

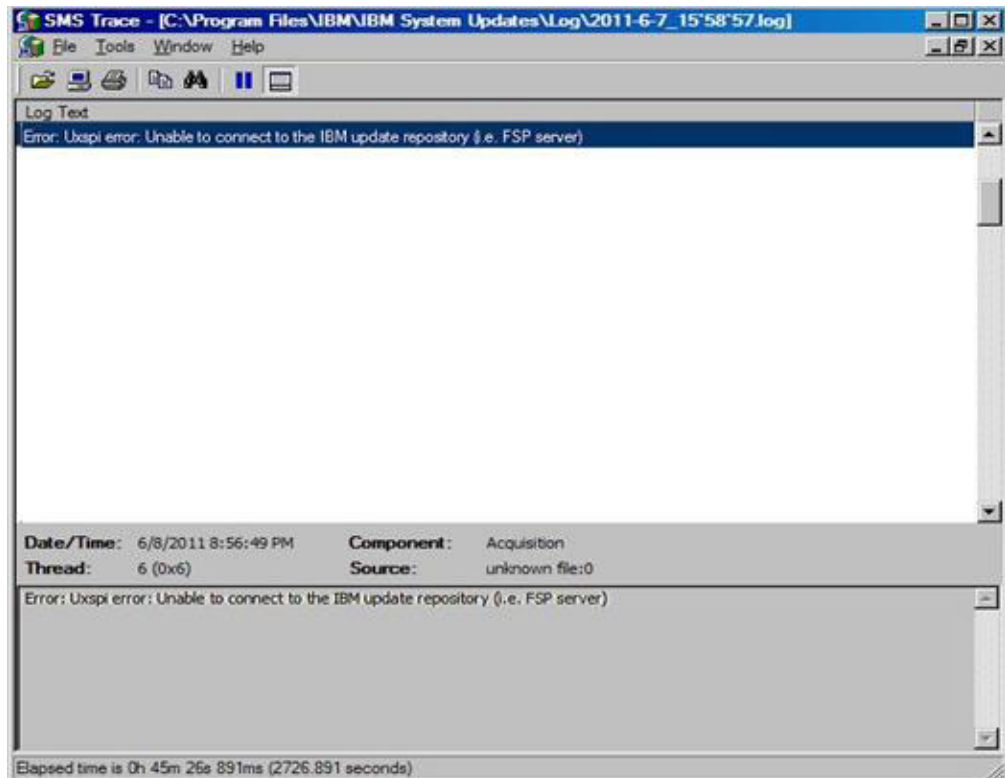


図 100. IBM 更新リポジトリに接続できないエラー

ヒント: %SystemDrive%\Program Files\IBM\IBM System Updates\Log にある SUAP ログ・ファイルを参照して、詳細を確認してください。

IBM System Updates Acquisition and Publishing ツールから Windows Server Update Services に更新をパブリッシュできない

問題 IBM System Updates Acquisition and Publishing ツールから Windows Server Update Services への更新のパブリッシュが失敗する。

考えられる解決策

%SystemDrive%\Program Files\IBM\IBM System Updates\Log にある SUAP ログ・ファイルを確認し、何が発生したかを確認します。

ファイル署名の検証が失敗するエラーが原因で、IBM System Updates Acquisition and Publishing ツールから Windows Server Update Services に更新をパブリッシュできない

問題 ファイル署名の検証が失敗するエラーが原因で、IBM System Updates Acquisition and Publishing ツールが Windows Server Update Services への更新のパブリッシュに失敗する。

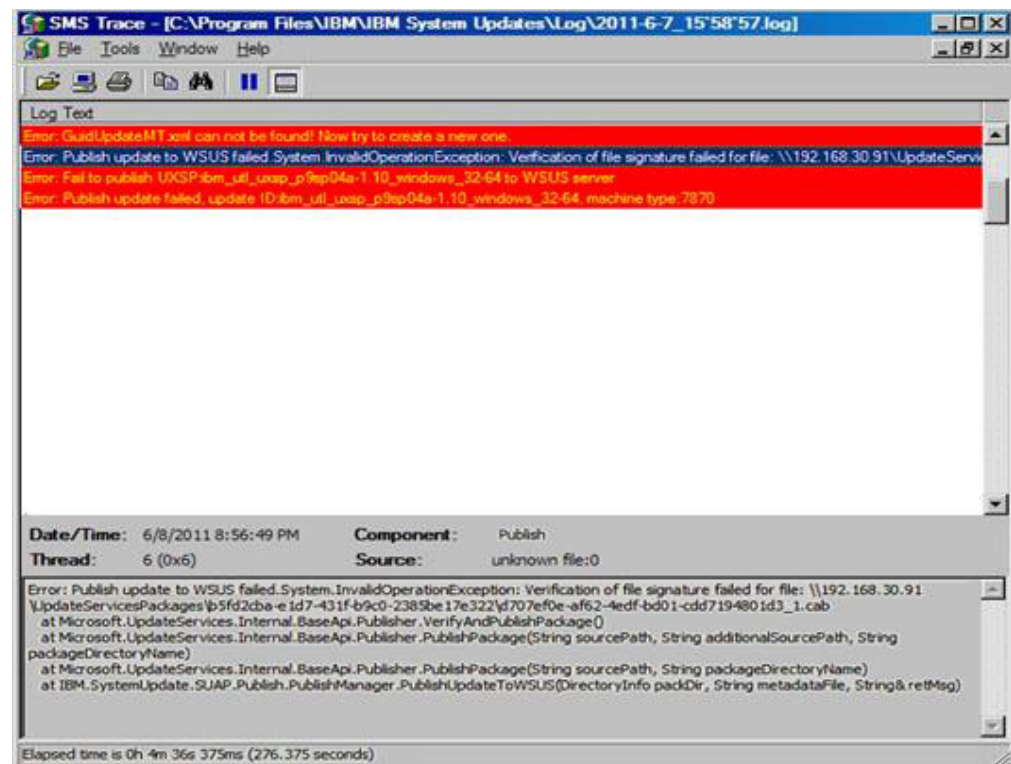


図 101. ファイル署名の検証の失敗

考えられる解決策

「Setup Wizard」セクションで示された概要に従って、WSUS Publishers Self-signed 証明書が「信頼されたルート証明機関」にコピーされていることを確認してください。

Secure Sockets Layer 接続障害のために更新が失敗する

問題 IBM System Updates Acquisition and Publishing ツール・コンピューターから Windows Server Update Services (WSUS) サーバーへ更新を公開するために Secure Sockets Layer (SSL) を使用している場合に、下図に示すようなエラー・メッセージが表示される。

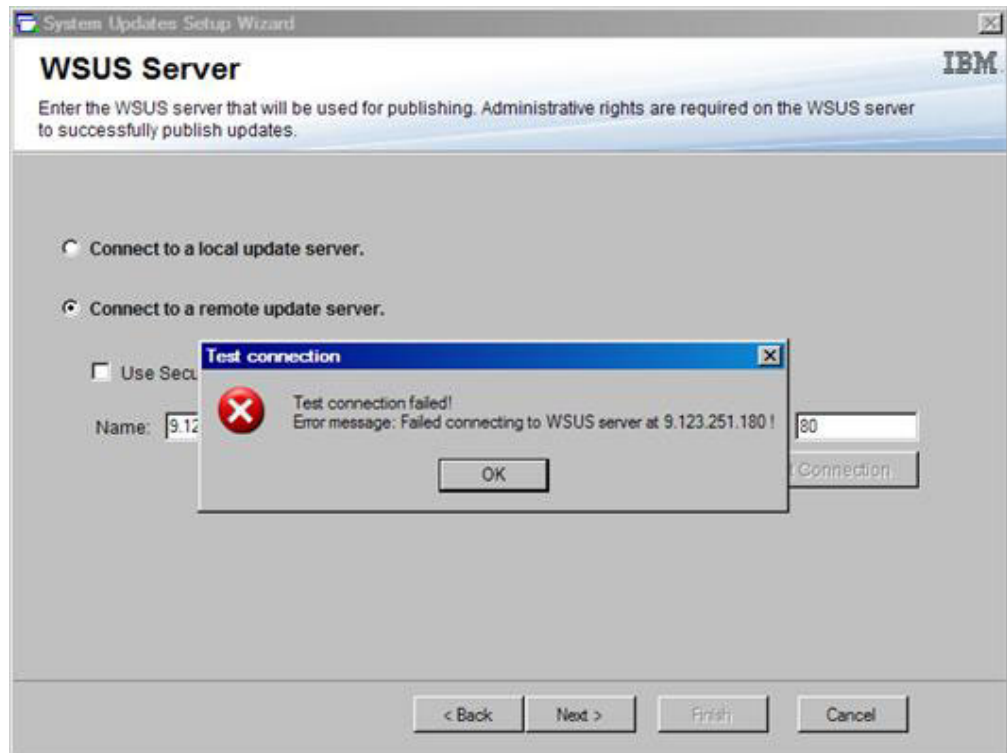


図 102. WSUS サーバーへの接続が失敗したことを示すメッセージ

考えられる解決策

17 ページの『「セットアップ (Setup)」ウィザード』の説明に従って SSL を構成するか、SSL 機能を使用せずに公開を行います。

IBM System Updates Acquisition and Publishing ツールの実行中に、レジストリー内のログ・レベル値の変更が有効にならない

問題 IBM System Updates Acquisition and Publishing ツールの実行中にログ・レベル値を変更しても、新規の値が即時に有効にならない。

考えられる解決策

IBM System Updates Acquisition and Publishing ツールを閉じてから、再度ツールを起動して変更を有効にしてください。

更新が Microsoft System Center Configuration Manager サーバーから Microsoft System Center Configuration Manager クライアントにデプロイされない

問題 更新が System Center Configuration Manager (SCCM) サーバーから SCCM クライアントにデプロイされない。

考えられる解決策

以下の手順を実行します。

1. レジストリー内の Windows Update エラー・レベルを拡張します。
2. レジストリー・キーに、以下の値を追加します。

a. 値名: **Flags**

- 値タイプ: **REG_DWORD**
- 値データ: **00000007**

b. 値名: **Level**

- 値タイプ: **REG_DWORD**
- 値データ: **00000004**

3. %systemroot%\Windowsupdate.log ファイルを確認し、失敗に関する詳細情報を取得します。

このレジストリー・キーは、%systemroot%\Windowsupdate.log ファイルへ拡張トレースをオンにします。

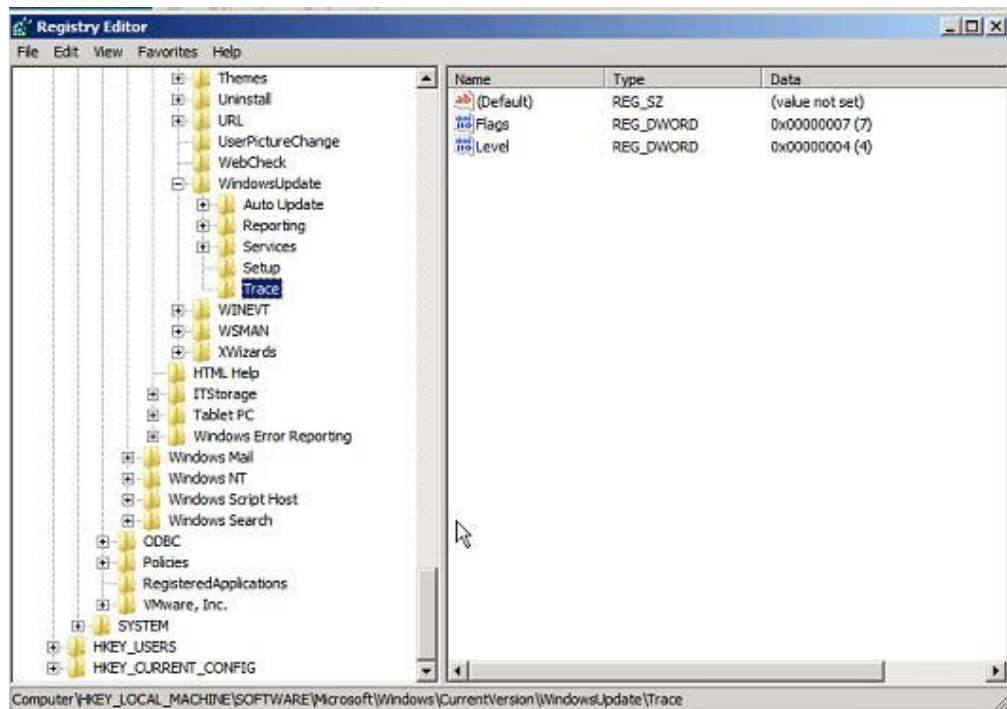


図 103. トレース・レジストリー・キーの変更

ファイアウォールの制限のために Microsoft System Center Configuration Manager クライアントに更新がデプロイされない

問題 ファイアウォールの資源のために、更新が SCCM クライアントにデプロイされない。

考えられる解決策

Windows firewall で、SCCM 相対 URL に対応するポートを開きます。

更新がクライアント・マシンにインストールされない

クライアント・マシンに更新をインストールできない理由をトラブルシューティングするには、このトピックを使用します。クライアント・システムのオペレーティング・システムが Windows 2008 である場合は、更新履歴を確認して、さらに詳しい情報を取得することができます。

このタスクについて

result.txt ログ・ファイルは、UXSPi によって生成され、更新プロセスに関する詳細情報を収容しています。更新がクライアント・システムにインストールされない場合は、result.txt:C:\¥ibm_support¥SUAP¥%update_id¥result.txt で、未完了のインストールに関する詳細を確認できます。

手順

1. 「スタート」 > 「Windows Update」 > 「更新履歴の表示」をクリックします。
2. 「更新履歴ビュー」を開きます。

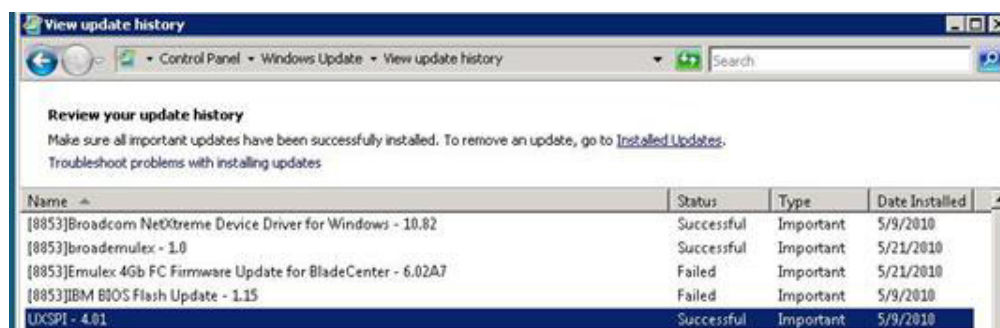


図 104. クライアント・システム上の更新履歴の表示

3. 更新を右クリックして「詳細の表示」を選択します。詳細には、エラー・コードが含まれています。
4. 次の表で、そのエラー・コードの説明を見つけます。

表 3. エラー・コード

16 進数の戻りコード	10 進数の戻りコード	説明
0	0	成功 (個別の更新または UXSP)。
0xB	11	このシステム構成には、個別の更新を適用できません。例えば、システム上に必要なハードウェアが存在しません。
0xC	12	インストールする更新が選択されていません。例えば、個別の更新が、ターゲット・システムにインストールされているものより古いバージョンです。
0xD	13	この個別の更新の前提条件が満たされていません。例えば、必要なソフトウェアがインストールされていないか、ハードウェアが正しく構成されていない可能性があります。

表 3. エラー・コード (続き)

16 進数の戻りコード	10 進数の戻りコード	説明
0xE	14	その他の理由で個別の更新が失敗します。
0x18	24	ターゲット・マシン上で UXSP が失敗します。例えば、他の理由で一部の更新がインストールされません。

QLogic に関する更新がデフォルトでインストールできない

このトピックは、QLogic の更新がデフォルトではインストールされない場合がある理由についてトラブルシューティングするために使用します。

問題 更新バージョンがインストール済みバージョンより新しい場合でも、デフォルトでは QLogic の更新がインストールされない場合があります。

考えられる解決策

「更新パッケージの確認」ページの「公開ウィザード (Publish Wizard)」を使用して、「ホスト・バス・アダプター (HBA) およびコンバージド・ネットワーク・アダプター (CNA) も選択する」チェック・ボックスを選択するか、更新の手動によるインストールを試みることができます。

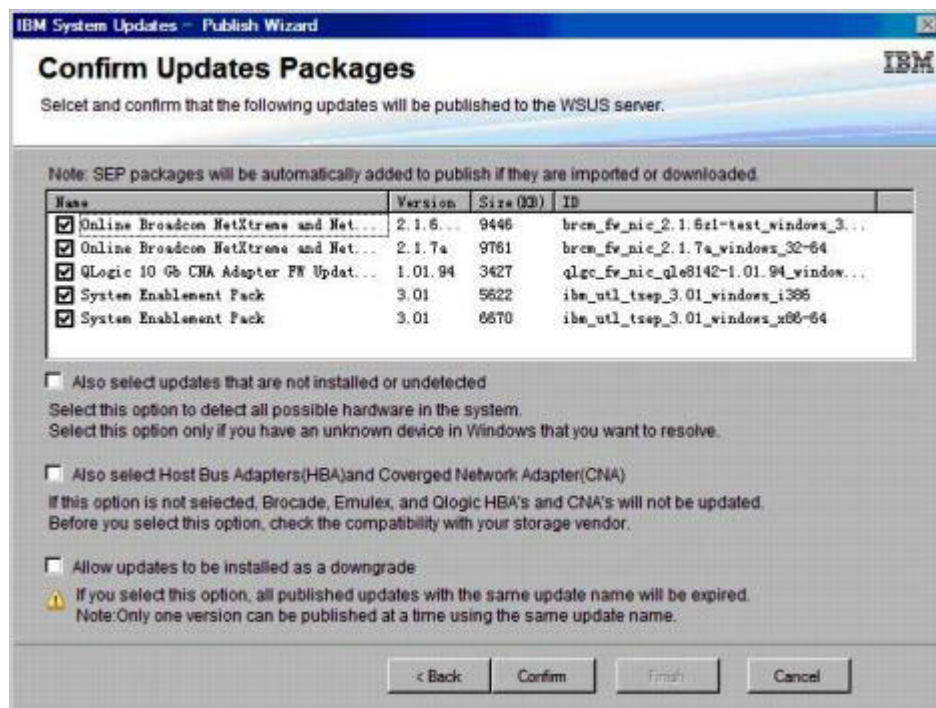


図 105. 「Publish Wizard」の「Confirm Updates Packages」ページ

一部の更新のインストールを完了するためにクライアント・サーバーを再始動する必要がある

このトピックは、一部の更新でインストールを完了するためにクライアント・サーバーの再始動が必要になる理由についてトラブルシューティングするために使用します。

問題 IBM UpdateXpress System Pack Installer のインストールが何らかの理由で失敗した場合は、インストール・ウィンドウに次のメッセージが表示されます: 「失敗結果 (Failed results)」。一部の更新が既にインストールされていた可能性があり、更新のインストールを完了するためにクライアント・サーバーの再始動が必要になる場合があります。

考えられる解決策

up_result.xml ファイルを確認し、クライアント・サーバーを再始動する必要があるかを判断してください。

Windows Updates 通知の Microsoft System Center Configuration Manager クライアントへの表示が遅い

Windows Updates 通知が SCCM クライアントに表示されるのが遅い場合は、Configuration Manager プロパティーを変更してプロセスの速度を上げることができます。

問題: Windows Updates 通知ページの SCCM クライアントへの表示が遅い。

考えられる解決策:

以下の手順を実行します。

1. 「コントロール パネル」を開きます。いくつかの SCCM エージェント・コンポーネントがあります。

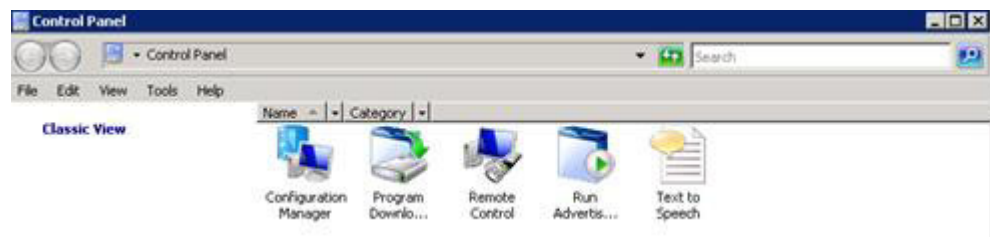


図 106. 「コントロール パネル」内の SCCM エージェント

注: Windows 64 ビット・プラットフォームでは、上記のコンポーネントは、コントロール パネルの「32 ビットのコントロール パネル項目の表示 (View 32bit Control Panel Items)」フォルダーにあります。

2. 「Configuration Manager」をクリックします。「Configuration Manager プロパティー」ウィンドウが開きます。
3. 「アクション」タブで、以下のコンポーネントに対するアクションをそれぞれ選択して開始します。
 - Software Update Deployment Evaluation Cycle
 - Software Update Scan Cycle User

- Policy Retrieval & Evaluation Cycle

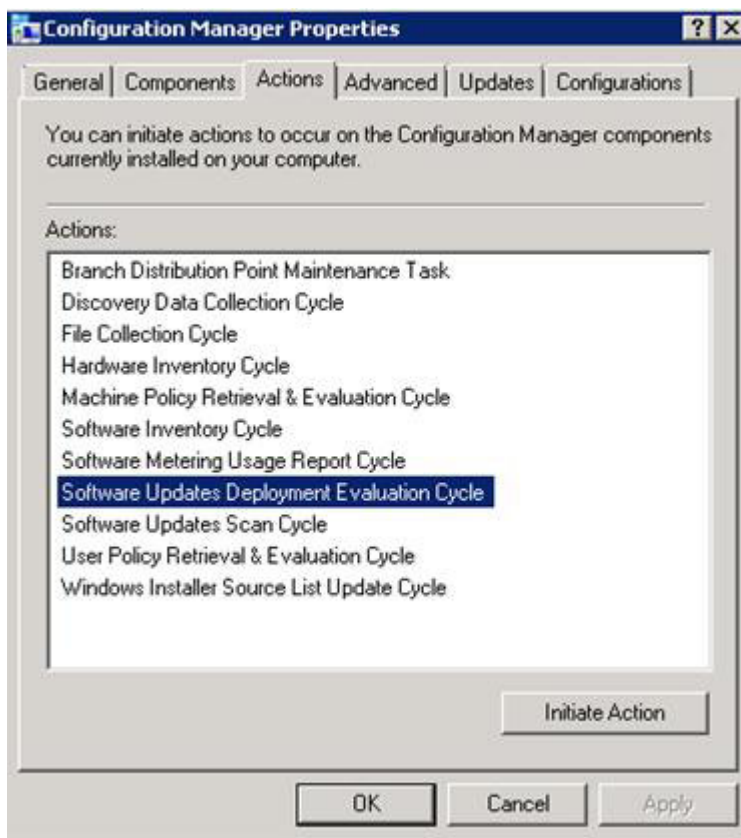


図 107. 「Configuration Manager のプロパティ」の開始

IBM 更新を SCCM クライアントにインストールできない

IBM 更新を SCCM クライアントにインストールできない場合は、.NET Framework 2.0 以降を SCCM クライアントにインストールすることが必要である可能性があります。

問題: IBM Updates を SCCM クライアントにインストールすることができない。

考えられる解決策:

IBM 更新は、.NET Framework 2.0 以降が SCCM クライアント・システムにインストールされていることを必要とします。.NET Framework 2.0 以降が SCCM クライアント・システムにインストールされていることを確認してください。

IBM System Updates Acquisition and Publishing ツールからの更新を有効期限切れにすることができない

IBM System Updates Acquisition and Publishing ツールからの更新を有効期限切れにすることができない理由をトラブルシューティングするには、このトピックを使用します。

問題: 更新の有効期限が切れ、IBM System Updates Acquisition and Publishing ツールを通じて公開された後で、それらの更新が SCCM コンソール上で「期限切れ (expired)」と表示されない。

考えられる解決策:

SCCM サーバーの同期設定が正しく構成されていることを確認します。詳しくは、TechNet: Planning for the Software Update Point Settings を参照してください。

シーケンス・パッケージがクライアント・システムにインストールされない

このトピックは、シーケンス・パッケージがクライアント・システムにインストールされない理由についてトラブルシューティングするために使用します。

問題 インストールが正常に行われたことが Windows 更新履歴に示されていても、シーケンス・パッケージがクライアントにインストールされていない場合がある。

考えられる解決策

シーケンスに含まれている更新が、ターゲット・システムに適用可能であることを確認してください。C:\%ibm_support%\SUAP%\update_id%\result.txt にあるログ・ファイル内の結果で詳細情報を確認してください。

付録 B. アクセシビリティ機能

アクセシビリティ機能は、運動障害または視覚障害など身体に障害を持つユーザーが情報技術製品を快適に使用できるようにサポートします。

IBM は、年齢あるいは身体的能力に関係なく、あらゆるユーザーがアクセスできる製品を提供するよう努力しています。

IBM System Updates for Microsoft System Center Configuration Manager v5.0 は、システム管理ソフトウェアに組み込まれているアクセシビリティ機能をサポートします。アクセシビリティ機能およびキーボード・ナビゲーションに関する具体的な情報については、ご使用のシステム管理ソフトウェアの資料を参照してください。

ヒント: IBM System Updates のトピック集およびその関連資料は、IBM ホームページ・リーダーのアクセシビリティ機能が使用可能になっています。すべての機能を、マウスの代わりにキーボードを使用して操作することができます。

IBM System Updates for Microsoft System Center Configuration Manager v5.0 の資料は Adobe Portable Document Format (PDF) 形式になっています。Adobe Acrobat Reader で参照してください。この PDF には、IBM System Updates for Microsoft System Center Configuration Manager v5.0 のダウンロード・サイトからアクセスすることができます。

IBM とアクセシビリティ

アクセシビリティに対する IBM の取り組みについて詳しくは、Human Ability and Accessibility Center Web サイトを参照してください。

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものであり、本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。

日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510
東京都中央区日本橋箱崎町19番21号
日本アイ・ビー・エム株式会社
法務・知的財産
知的財産権ライセンス渉外

IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態で提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

商標

IBM、IBM ロゴ、および `ibm.com`[®] は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。

現時点での IBM の商標リストについては、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> をご覧ください。

Adobe、PostScript は、Adobe Systems Incorporated の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Cell Broadband Engine、Cell/B.E は、米国およびその他の国における Sony Computer Entertainment, Inc. の商標であり、同社の許諾を受けて使用しています。

Intel、Intel Xeon、Itanium、Pentium は、Intel Corporation または子会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Java[™] およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Oracle やその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

Microsoft、Windows、および Windows NT は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

UNIX は The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

重要事項

以下は、用語および請求に関する重要な前提事項についての視点です。

プロセッサの速度とは、マイクロプロセッサの内蔵クロックの速度を意味しますが、他の要因もアプリケーション・パフォーマンスに影響します。

CD または DVD ドライブの速度は、読み取り速度が変動します。実際の速度は記載された速度と異なる場合があります、最大可能な速度よりも遅いことがあります。

主記憶装置、実記憶域と仮想記憶域、またはチャネル転送量を表す場合、KB は 1024 バイト、MB は 1,048,576 バイト、GB は 1,073,741,824 バイトを意味します。

ハード・ディスクの容量または通信ボリュームを表す場合、MB は 1,000,000 バイト、GB は 1,000,000,000 バイトを意味します。ユーザーがアクセス可能な総容量は、オペレーティング環境によって異なります。

内蔵ハード・ディスクの最大容量は、IBM から入手可能な現在サポートされている最大のドライブを標準ハード・ディスクの代わりに使用し、すべてのハード・ディスク・ドライブ・ベイに取り付けることを想定しています。

最大メモリーは標準メモリーをオプション・メモリー・モジュールと取り替える必要があります。

IBM は、ServerProven に登録されている他社製品およびサービスに関して、商品性、および特定目的適合性に関する黙示的な保証も含め、一切の保証責任を負いません。これらの製品は、第三者によってのみ提供および保証されます。

IBM は、他社製品に関して一切の保証責任を負いません。他社製品のサポートがある場合は、IBM ではなく第三者によって提供されます。

いくつかのソフトウェアは、その小売り版（利用可能である場合）とは異なる場合があります、ユーザー・マニュアルまたはすべてのプログラム機能が含まれていない場合があります。



Printed in Japan